

40. 観光・文化

(2025年7月11日更新版)

- 41 観光 【観光交流文化局】
- 42 文化・文化財 【観光交流文化局】
- 43 多文化共生・国際都市交流 【総合政策局、観光交流文化局】
- 44 インターナショナルスクール 【総合政策局】

41 観光

- 00 基本認識
- 01 静岡市観光基本計画
- 02 インバウンド
- 03 持続可能な観光地域づくり-ブランディング-
- 04 クルーズ
- 05 ガストロノミーツーリズム
- 06 お茶ツーリズム
- 07 日本平・久能・三保の観光の推進
- 08 東海道57次
- 09 するが企画観光局

00 基本認識

0-1-1 問題の所在 … 静岡市観光・インバウンドのなぞ

静岡市の観光・インバウンドのなぞ…

なぜ、自然豊かで歴史性のあるこの町の「観光客数 × 消費単価」がこれほどまでに低いのか
なぜ、この街は、観光資源が豊かなのにインバウンドの来訪客数が少ないのか

(仮説)

【理由1】

市政は「観光が経済活性化のために重要」という認識が乏しい？

【理由2】

観光振興には多様な主体の参加が必要。しかし、静岡市は観光の基本計画なし、目標なし、戦略・戦術の明示なし。これらがなかったために「共創」が起こりにくい？

0-1-2 問題の所在・・・4次総においては、「観光は交流の拡大が目的」という認識

4次総における観光政策・・・分野別の政策 6 観光・交流

国内外の多くの人々を惹きつけ、多彩な交流を通じた賑わいが創出されるまちを実現します

【取組の方向性】

観光産業は、ホテル・旅館、交通機関、飲食サービス業、農業・漁業など、関係する産業のすそ野が極めて広く、観光振興によってもたらされる経済効果は、地域の活性化に大きな役割を果たします。(中略)

と書かれているが、「何をすべきか」については、

(中略) 地域の魅力を一層磨き上げるとともに、積極的な情報発信を図り、国内外から訪れる人々と市民が活発に交流する、賑わいのあるまちの実現を目指します。

とされている。

➡4次総においては、「観光政策は経済活性化のため」ではなく、「観光政策は交流拡大のため」という認識

0-1-3 問題の所在・・・4次総 観光・交流分野の主要な取組

【4次総における観光・交流分野の主要な取組】

政策1 国内外に誇れる地域資源を活かした観光を推進します

政策2 静岡の魅力を伝え、国内外からの誘客と活発な交流を推進します

政策3 来訪者にやさしく、再訪を促す受入態勢づくりを推進します

政策4 まちなか(都心・副都心)から広がるまちの賑わいづくりを推進します

➔ 問題の所在

- ・ 今の静岡市の観光における現実の課題(泊まってもらえない、1人当たりの観光消費単価が低い、インバウンドの来静が極端に少ない)を直視していない。
- ・ 4次総を定めたが、表面的な政策・施策が記述されているだけで、観光基本計画は策定されていない。
- ・ 観光振興には、社会全体の力による共創が必要だが、観光においては共創が重要という認識が乏しい。
- ・ その根底には「観光振興は経済活性化のため」ではなく、「観光振興は交流促進のため」という認識があると思われる。

0-1-4 基本認識 … 静岡市の観光・インバウンドの現状(問題の所在)

- 全国の宿泊客数に占める静岡市のシェアは、全体が約0.44%であるのに対して、外国人では約0.15%にとどまっており、インバウンドをうまく取り込めていない。
- 宿泊客比率が全国や静岡県と比べて低いことなどから、1人あたりの旅行単価も安く、地域経済への効果が限定的である。

観光客数

	全国
2022年度	4億1,785万人
2023年度	4億9,758万人

出典(全 国)：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

観光交流客数

※観光交流客数とは各施設を訪れた延べ人数

	静岡市
2022年度	2,137万人
2023年度	2,526万人

出典(静岡市)：静岡市「観光交流客数調査」

延べ宿泊者数

	全国	静岡市推計値 (全国*静岡市シェア0.438%)※
2025年2月	4,793万人	21万人
2025年3月	5,697万人	25万人

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

うち、外国人延べ宿泊者数

	全国	静岡市推計値 (全国*静岡市シェア0.153%)※
	1,376万人	21,052人
	1,504万人	23,011人

※静岡市の延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数は、2025年2月分(第2次速報値)の市区町村別集計における静岡市シェアをもとに推計(以下のとおり)

【推計方法】 *「主な市区町村」は、観光庁調査において、当該市区町村内で10施設以上の調査票の提出があった市区町村。
 (延べ宿泊者数) 静岡市 7万9,303人 / 主な市区町村*(207市区町村)計 1,812万6,134人 = 0.438%
 (うち、外国人延べ宿泊者数) 静岡市 8,470人 / 主な市区町村*(207市区町村)計 551万9,485人 = 0.153%

宿泊客・日帰り客比率 (2023年)

	全国	静岡県	静岡市
宿泊客	56.5%	51.2%	43.3%
日帰り客	43.5%	48.8%	56.7%

1人当たりの旅行単価 (2023年)

	全国	静岡県	静岡市
1人当たりの旅行単価	44,034円	22,529円	17,180円

出典(全 国)：観光庁「旅行・観光消費動向調査」の日本人国内旅行の1人1回当たり旅行支出(2023年)
 出典(静岡県)：静岡県「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」(2023年度)
 出典(静岡市)：(公財)するが企画観光局「中部5市2町来訪者調査」(2023年度)

0-1-5 基本認識 … 静岡市の観光課題・現状

- ・観光客の滞在時間が短い。
- ・観光消費額単価が低い。
- ・観光資源の活用が不十分。
- ・インバウンド観光の対応が不十分。
- ・観光地を結ぶ交通ネットワークに制約がある。
- ・観光地域ブランディングが統一的な取組となっていない。
- ・静岡県内の周辺各市町やDMOとの観光広域連携が不十分。
- ・体験型観光など新たな動きへの対応が不十分。

表①:旅行客1人あたり消費額(2023年)

	全国	静岡県	静岡市
消費額単価	44,034円	22,529円	17,180円
出典	観光庁「旅行・観光消費動向調査」	静岡県「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」	(公財)するが企画観光局「来訪者調査」

表②:訪日外国人旅行客数(2023年)

	延べ宿泊数 A	外国人延べ宿泊者数 B	割合 B/A
全国	6億1,745 万人泊	1億1,775 万人泊	19.07%
地方部※	3億3,993 万人泊	3,358 万人泊	9.88%
静岡県	2,186 万人泊	104.5 万人泊	4.78%
静岡市	約250 万人泊	約10 万人泊	約4%

※「地方部」とは、三大都市圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県)以外の地域
出典:観光庁提供の参考値をもとに本市が算出

表③:宿泊者割合(2023年)

	日帰り客	宿泊客	出典
全国	43.5%	56.5%	観光庁「旅行・観光消費動向調査」
静岡県	48.8%	51.2%	静岡県「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」
静岡市	56.7%	43.3%	(公財)するが企画観光局「来訪者調査」

1. 「静岡市観光基本計画」を策定

- ・ 4次総策定後も観光基本計画は事実上、不存在の状態
- ・ 観光振興は社会全体の力の共創が必要。共創は「いいね！」と思える目指す姿(共通の目標)とそれを実現する道筋の共有が必要

➡ 観光による経済効果を明らかにした計画の策定と具体的取組みが必要

2. インバウンド推進

- ・ インバウンド推進計画が存在しない。市政はインバウンド推進に何もしてこなかったというのが実態
- ・ クルーズ客についても、港の関係者は長年努力しているが、それを地域経済の活性化のためにどう活かすか(いかに消費を増やしてもらうか)という意識が乏しかった

➡ インバウンド推進計画を策定し、具体的取組の強化が必要

01 静岡市観光基本計画

1-0 基本認識・・・観光基本計画の策定

コロナ禍を経て日本を訪れる外国人観光客数が大幅に増加するなど、静岡市の観光を巡る環境も大きく変動している。静岡市の観光政策は、この現況に応じ、具体的に取り組むべき事項を「観光基本計画」として2024年12月にとりまとめた。



計画の趣旨及びポイント

静岡市が取り組む具体的な計画を観光基本計画として策定。計画は、静岡市組織が取り組むべき事項を可視化するとともに、多くの方々の共感を得ながら、地域社会全体が一体となって観光振興に取り組む機会を導入し、いわゆる「共創」による観光振興を推進する。

この計画をもとに、各種観光施策を展開し、



を目指す

1-1 静岡市観光基本計画 …… 計画策定の目的、位置づけ、期間

計画の要旨

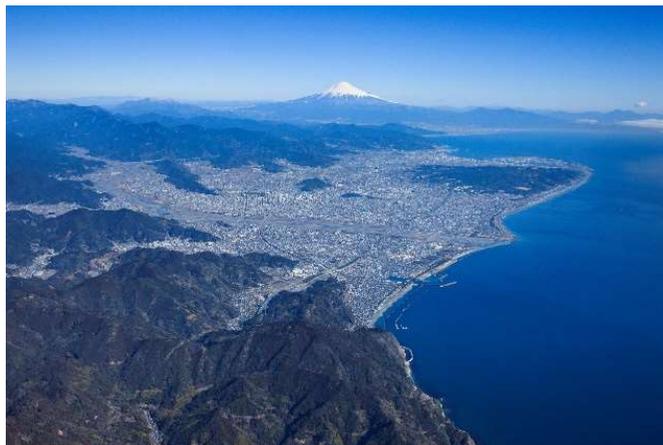
静岡市の観光政策を推進するため、社会全体の力で取り組むことが重要であることから、観光振興の基本的な考え方や方策について可視化し、多くの方々の共感を得て観光振興に取り組んでいくことを目指す。

計画の位置づけ

静岡市の観光政策は、第4次静岡市総合計画(4次総)の「観光・交流」分野の個別任意計画とする。
観光を巡る環境も大きく変化しており、現況に応じた政策を掲げて具体的に取り組むため、考え方や方針・方策を明示し、本計画を関係者との「共創」を生み出すための連携の礎とします。

計画期間

2024年12月～2031年3月末



1-2 静岡市観光基本計画 … 静岡市の課題・現状

静岡市の現状・課題

(1)本市の現状

- ・北は南アルプス、南に駿河湾が広がる大自然を有している。
- ・登呂の稲作文化、東海道の街道文化などによる発展を通じ、多様な交流、多様な産業が盛んである。
- ・「静岡都心」「清水都心」「草薙・東静岡都心」を核に、多様かつ高度な都市機能を有している。
- ・静岡市でも人口減少・少子高齢化が進んでいる。
- ・更なる地域資源の活用と循環経済の構築、そのための多様な主体との協働が必要

(2)静岡市の観光の現状・課題

- ・観光客の滞在時間が短い。
- ・観光消費額単価が低い。
- ・観光資源の活用が不十分。
- ・インバウンド観光の対応が不十分。
- ・観光地を結ぶ交通ネットワークに制約。
- ・観光地域ブランディングが統一的な取組となっていない。
- ・静岡県内の周辺各市町やDMOとの観光広域連携の必要性。
- ・新たな動きへの対応の必要性。

表①:旅行客1人あたり消費額(2023年)

	全国	静岡県	静岡市
消費額単価	44,034円	22,529円	17,180円
出典	観光庁「旅行・観光消費動向調査」	静岡県「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」	(公財)するが企画観光局「来訪者調査」

表②:訪日外国人旅行客数(2023年)

	延べ宿泊数 A		割合 B/A
		外国人延べ宿泊者数 B	
全国	6億1,745 万人泊	1億1,775 万人泊	19.07%
地方部※	3億3,993 万人泊	3,358 万人泊	9.88%
静岡県	2,186 万人泊	104.5 万人泊	4.78%
静岡市	約250 万人泊	約10 万人泊	約4%

※「地方部」とは、三大都市圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県)以外の地域
出典:観光庁提供の参考値をもとに本市が算出

表③:宿泊者割合(2023年)

	日帰り客	宿泊客	出典
全国	43.5%	56.5%	観光庁「旅行・観光消費動向調査」
静岡県	48.8%	51.2%	静岡県「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」
静岡市	56.7%	43.3%	(公財)するが企画観光局「来訪者調査」

1-3 静岡市観光基本計画 …… 計画の基本理念、目標値、推進体制・進行管理

計画の基本理念

観光政策を通じた持続可能な「住んでよし、訪れてよし」の国際都市の実現

- (1)市民生活の充実
- (2)観光による来訪者の満足度向上

→観光政策を通じて上記2点を両立させ、持続可能で多様性のある国際都市の実現を目指します。

計画の目標値



推進体制／進行管理

【推進体制】

- (1)新たな推進体制:本市組織及び職員による全員参加型体制
- (2)具体的な推進方法:市政においては、従来組織、チーム組織・タスクフォース的体制による運営
- (3)社会全体による共創:各産業・ボランティア・地域団体等と情報共有し、地域社会が一体となった「共創」で推進
観光「共創」の中核組織の創設に向けて取り組む

【進行管理】

情勢変化への即応性も考慮し、観光戦略を中心に年度末や必要に応じた見直し

1-4 静岡市観光基本計画 … 観光戦略(1)総合戦略

観光戦略(1)総合戦略

観光政策全般に関する総合的な戦略

(1)観光ブランド戦略

「驚きと感動の国際都市」を静岡市観光ブランド・イメージとし、必要に応じキャッチコピーを設定

(2)観光連携戦略

市内外の関係者と連携した取組を展開

(3)観光関連組織・人材の育成及び活用戦略

観光関連の法人やボランティア団体、留学生を含む観光人材を育成・活用

(4)域内移動の確保・充実戦略

公共交通や自転車活用に係る計画などと連携し、徒歩・自転車利用も含めて来訪者にも住民にも利用価値のある域内移動を確保・充実

(5)観光資源(産業観光を含む)の活用とMICE誘致戦略

産業観光として様々な資源を活用、MICE主催者支援の制度・体制を充実させ、誘致活動連携

(6)情報に関する再整備戦略

既存の情報の取扱いを検証した上で、効果の上がる手法等を再整備(観光DX含む)

(7)安心・快適な観光環境の整備戦略

発災時対応を含む観光防災のあり方を検討するとともに、安全・快適な観光環境を整備・充実

(8)新たな動きや将来構想への対応戦略

オーバーツーリズムや観光課税などの新たな動きやハード整備の将来構想に観光視点で対応

観光戦略(2)個別戦略 ①国内戦略

国内観光分野に特化した戦略

(1)ブランド戦略

- 「ガストロノミーツーリズム」「お茶ツーリズム」等の推進
- 日本平や富士山等の風景の活用
- 特色あるコンテンツで歴史文化を楽しむ機会と魅力的な観光体験によるモデルコース構築

(2)ターゲット重点化戦略

- ターゲット地域:アクセス利便性等高い首都圏と中京圏
- ターゲット客層:「高齢者層」「ビジネス客層」「ファミリー層」「Z世代の女性層」
- ターゲット旅行類型:自由訪問型旅行(FIT)、MICE

(3)観光連携戦略

- 交通事業者など多様な関係者と連携し、サービスの質の向上
- 教育旅行、スポーツ大会など誘客拡大に向けた連携プロモーション

(4)消費拡大戦略

- 滞在時間延長を見据えた「ナイトツーリズム」、「モーニングエコノミー」の充実
- 「新観光地域づくりプロジェクトチーム」での対応策検討
- 既存宿泊施設の充実・強化、新たな宿泊施設整備も視野に入れた、宿泊客増への連携
- レンタサイクル、レンタカー、カーシェア等を含めた交通利便性向上への取組

観光戦略(2)個別戦略 ②インバウンド戦略

インバウンド観光分野に特化した戦略

(1)ブランド戦略

- 静岡市が誇る自然・食・歴史・文化などを体験・体感できる満足度の高い“感動体験”を提供し、旅行先として来訪者に選ばれるための観光ブランドを確立

(2)ターゲット重点化戦略

- 過去の実績に基づく重点ターゲット市場①：台湾、韓国
- 国際輸出振興と連携した重点ターゲット市場②：米国、フランス
- スポーツ・教育等の関係プロジェクトを活かした重点ターゲット市場③：タイ、ベトナム、中国、オーストラリア
- 静岡空港の新たな路線開設に伴う重点ターゲット市場④：香港

(3)クルーズ船対応戦略

- 観光、港湾、経済、交通等の関係部署で組織するチーム組織で課題解決
- 多言語化の表示や観光DX推進、受入環境整備と寄港地ツアーの新たなコンテンツ掘り起こしと企画する旅行会社への情報提供

(4)国際ネットワーク活用戦略

- 既存国際ネットワークを活用し、市内大学の留学生OBや海外の日本人会、県人会などの組織協力のもとプロモーションに取り組む

観光戦略(2)個別戦略 ③重点テーマ・エリア戦略

重点化するテーマ・エリアに特化した戦略

(1)重点テーマ戦略

①美食



- ・生産者や調理した人との交流や地域の風土や歴史を知り、文化を体験するガストロノミー・ツーリズムの概念で取り組む
- ・静岡県事業「美味ららら」や、本市「お茶のまち」プロモーション等と連携

②絶景



- ・日本平周辺に点在する施設との面的連携や、絶景をキラーコンテンツとする商品づくり
- ・「日本夜景遺産」の活用など、ナイトタイムエコノミーの取組検討
- ・オクシズの自然資源を有効活用するため関係者との連携調整

③歴史



- ・東海道や徳川・今川氏ゆかりの地を活用し、プロモーション再構築
- ・プラモデル産業までつながる伝統工芸産業を活用
- ・「駿州の旅」や「駿州堂」普及・活用
- ・ARやVRによる駿府城天守再現や、葵舟の活用等で来訪者増大

④ホビー



- ・「ホビーのまち静岡」推進イベントや伝統工芸の体験施設等を活用したプロモーション
- ・「トレインフェスタ」や歴史博物館等と連携
- ・ゲームやアニメ等についても、「ホビー」に包含した取組を検討

(2)重点エリア戦略

①日本平・久能山・清水港・三保松原エリア

- 名勝や文化的遺産、商業施設や港湾機能が集積、本市観光の顔となるエリア
- ・日本平を一体的に捉え活かす新たな取組みとの連携
- ・クルーズ客への周遊促進、ナイトツーリズムの推進、三保松原周辺の施設の有効活用

②東海道(蒲原・由比・興津・江尻・府中・丸子)エリア

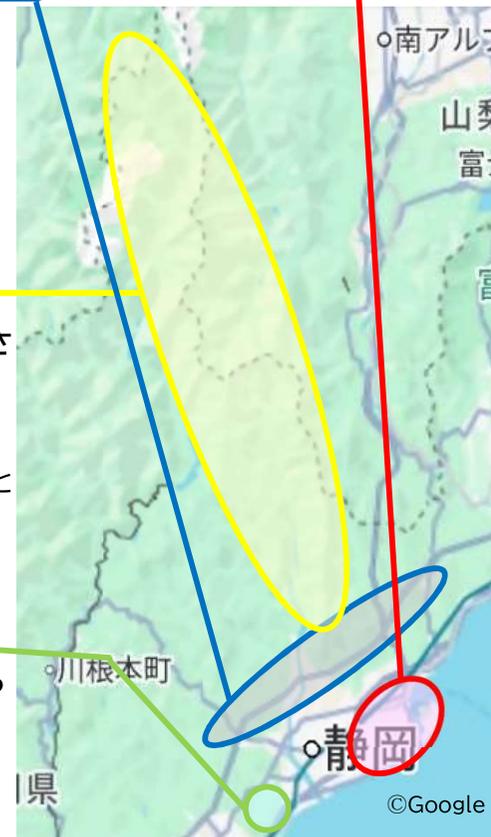
- 東海道二峠八宿のうち本市に所在の六宿が存在するエリア。各宿場町周辺には、当時の情景を今に伝える歴史資源が残る
- ・各宿場町周辺に点在する施設を活用し、地域との共創でブランディング
- ・文化財保護・活用に取り組む「静岡市文化財保存活用地域計画」とも連携

③オクシズエリア

- 市の面積の約8割を占める中山間地域。「お茶」「わさび」などの農産品、温泉や伝統文化など多様な資源があるエリア
- ・ガストロノミー・ツーリズムの聖地となりうる可能性
- ・「美食」や「絶景」など、感動体験を提供できる地域として確立
- ・南アルプスユネスコエコパーク、梅ヶ島「国民保養温泉地」など重要資源

④用宗エリア

- 漁港を中心に地元関係者やディベロッパー等による独自の観光地域づくりが進んでいるエリア
- ・飲食店や水産業関係者と連携し、水揚げされた魚介類を活用
- ・現場の意向や要望を十分傾聴しつつ、地元関係者と共創



02 インバウンド

2-0 基本認識 … 静岡市のインバウンドのなぞ

1. なぜ、インバウンドの旅行客が好む**歴史性**と**文化力**がある町なのに、
これほどインバウンド客が少ないのか？

(例) 全国に占める静岡市の比率 外国人延べ宿泊者数 … 0.08%

(注：静岡市人口シェア … 0.55%)

2. なぜ、清水港に年間100隻以上の客船(2025年度見込み)が寄港するのに、
その**経済効果を実感できない**のか？

【理由】 港湾関係者は頑張っているが、

市政はクルーズ客の消費額を上げるという発想がなかった

(注) 市政がよく使う言葉の「おもてなし」「にぎわい」には、

お金を使ってもらえるような魅力を作ることが、

結果的に「おもてなし」「にぎわい」につながるという発想が無い

2-1-1 インバウンド … 静岡市の現状

≪現状≫ 静岡市内に宿泊する外国人は、全体の4%程度にとどまるなどインバウンド需要を取り込めていない。また、市内に宿泊した外国人も大半が1泊で、長期滞在にはつなげていない。

(1) 外国人延べ宿泊者数

静岡市は、延べ宿泊者数の外国人割合が、全国、地方部、静岡県と比べて低い。

	延べ宿泊者数 A	外国人延べ宿泊者数 B	割合 B/A
全 国	6億1,745 万人泊	1億1,775 万人泊	19.1 %
地方部※1	3億3,993 万人泊	3,358 万人泊	9.9 %
静岡県	2,186 万人泊	104.5 万人泊	4.8 %
静岡市※2	257.2 万人泊	9.8 万人泊	3.8 %
静岡市/全国	0.42 %	0.08 %	

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査(2023年確定値)」

(2) 外国人1人あたり宿泊数

静岡市の外国人1人当たりの宿泊数は、県より高いが全国と地方部より下回っており、滞在期間が短い。

	外国人延べ宿泊者数 A	外国人実宿泊者数 B	1人あたり宿泊数 A/B
全 国	1億1,775 万人泊	6,505 万人泊	1.81 泊/人
地方部※1	3,358 万人泊	2,255 万人泊	1.49 泊/人
静岡県	104.5 万人泊	81.8 万人泊	1.28 泊/人
静岡市※2	9.8 万人泊	7.4 万人泊	1.33 泊/人

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査(2023年確定値)」

※1 … 「地方部」は、三大都市圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県）以外の地域

※2 … 静岡市の値は、観光庁から提供された参考値（非公開）である。

2-1-2 インバウンド … コロナ禍からの回復状況

- **全国平均**は、**2023年**時点で**コロナ禍前（2019年比）**の水準を上回り、**2024年**は同**140%超**と**大幅増**となっている。
- **静岡県**は、コロナ禍前は中国人観光客が全体の7割を占めていた。中国市場の訪日需要の回復が遅れている中で、**2023年**はコロナ禍前の**42%**、**2024年**は**77%**の回復状況となっている。
- **静岡市**は、静岡県ほどの中国依存がなかったものの、コロナ禍前で4割近くが中国人であったことから、**2023年**は**2019年比**で約**93%**に留まった。ただし、静岡市は、コロナ禍以前からそもそも外国人宿泊者数が少ない。

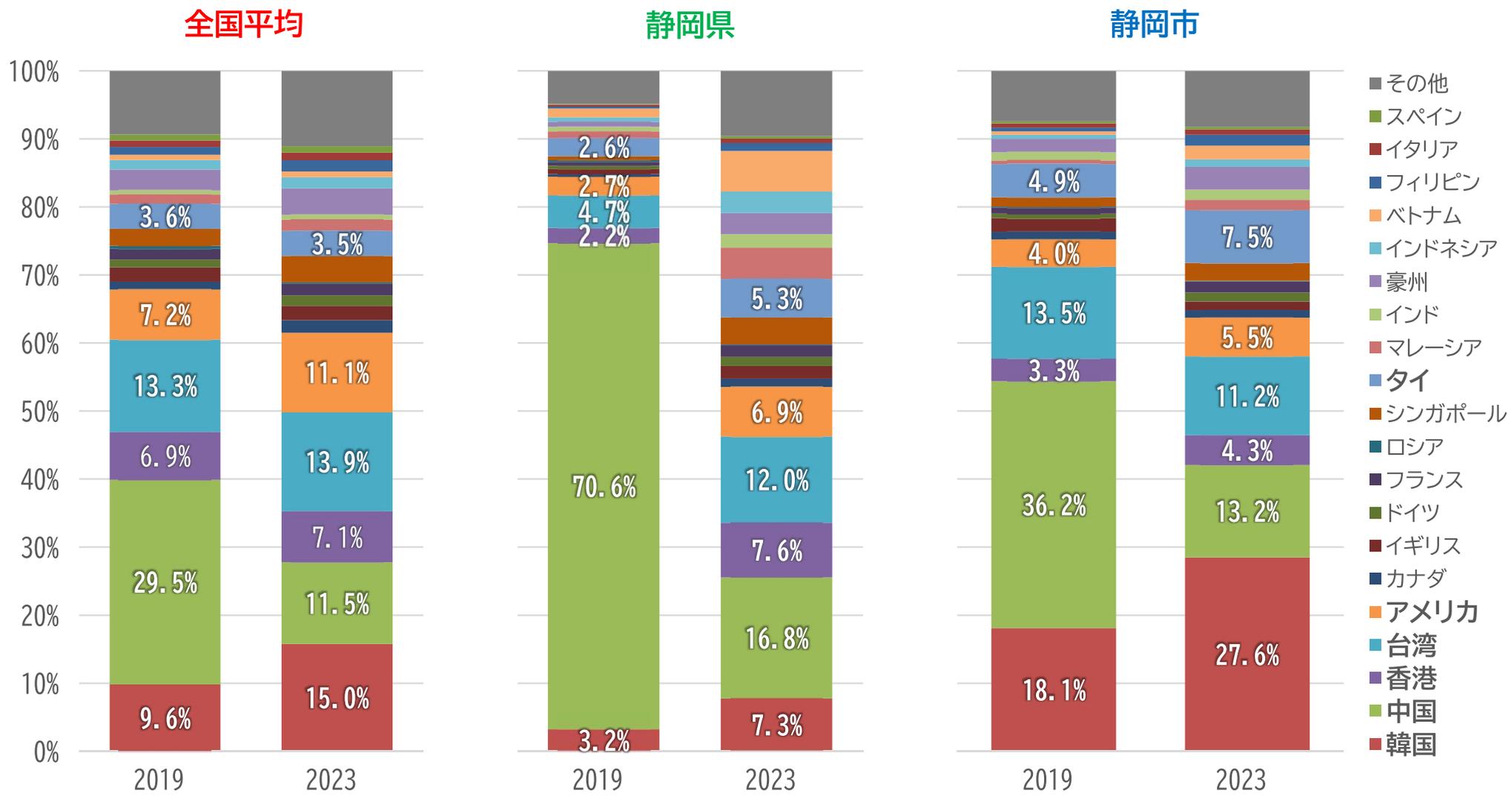
	(泊)		
	全国	静岡県	静岡市
2019年 (確定値)	115,656,350	2,493,790	105,360
2023年 (確定値)	117,751,450	1,045,010	98,240
<i>2019年比</i>	<i>101.8%</i>	<i>41.9%</i>	<i>93.2%</i>
2024年 (速報値)	163,598,990	1,930,170	未公表
<i>2019年比</i>	<i>141.5%</i>	<i>77.4%</i>	

出典（全国・静岡県）：観光庁「宿泊旅行統計調査」第4表

出典（静岡市）：観光庁「宿泊旅行統計調査」提供の非公表値

2-1-3 インバウンド … コロナ禍からの回復状況

- 《参考》
- ・ **全国**では、2019年（コロナ禍前）と2023年を比較すると**中国**の回復が遅れており、**韓国**、**台湾**、**アメリカ**の**4市場**で**10～15%**で均衡している。
 - ・ **静岡県**は、依存度の高い**中国**の回復が遅れているが、2023年も依然として**中国**が最も割合が高い。
 - ・ **静岡市**は、同様の理由により、**韓国**(27.6%)が最も高い割合となり、**アメリカ**、**タイ**の割合が高まった。



出典:観光庁「宿泊旅行統計調査(2023年確定値)」

※静岡市の値は、観光庁から提供された参考値（非公開）である。

2-2 インバウンド … 目標設定

《2030年の目標設定》 静岡市観光基本計画のインバウンド戦略の目標値として設定

(1) 外国人延べ宿泊者数

9.8万人泊 (2023年) ▶▶▶ **33** 万人泊 (2030年)

【設定根拠】	延べ宿泊者数 330万人 (=本市観光基本計画の目標値)	×	外国人割合 10% (=地方部水準)	=	33万人泊
--------	--	---	------------------------------	---	--------------

(2) 外国人1人あたり宿泊数

1.33泊 (2023年) ▶▶▶ **2.0** 泊 (2030年)

【設定根拠】 「観光立国推進基本計画」の“訪日外国人旅行者一人あたり地方部宿泊数 **2泊**”と同水準

【参考】 静岡市の外国人延べ宿泊者数(2023年、国籍別、従業員10人以上の施設)

順位・国籍	① 韓国	② 中国	③ 台湾	④ タイ	⑤ 米国
延べ宿泊者数	約 25,000 人泊	約 12,000 人泊	約 10,000 人泊	約 7,000 人泊	約 5,000 人泊
割合	27.6 %	13.2 %	11.2 %	7.5 %	5.5 %

出典:観光庁提供の参考値 (非公開)

2-3 インバウンド … 重点ターゲット市場（観光基本計画で設定）

国・地域	市場の特性	
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は1位（720万人）。一方、滞在期間は短く（4.7泊）、消費単価は低い（約2.3万円/泊）。 ▶ 静岡空港の定期路線（週11便、LCC）が充実しており、静岡市内の延べ宿泊者数は最多。 ▶ 県と市で運営しているブログの一元化など、県ソウル事務所との連携を強化して効率的な事業手法への見直しを行う。 	
中国	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は2位（583万人）。静岡空港の定期路線（週6便）がコロナ禍以前の水準に回復すれば、宿泊数の増加につながる。 ▶ 中国政府の政策や二国間関係の影響で不安定な市場であるため、訪日教育旅行の受入など大きな予算を伴わない取組を基本とする。 	
香港	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は5位（217万人）。リピーター割合が高く、消費単価も高い（約3.2万円/泊）。 ▶ 静岡空港への定期路線（週3便、LCC）就航を受けて、今後の取組強化に向けて準備を進めている。 	最重点
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は3位（506万人）。リピーター割合が高く、消費単価も高い（約2.7万円/泊）。 ▶ 茶やちびまる子ちゃんなど本市の地域資源との相性も非常に良い。静岡空港の定期路線（週2便）は運休中。 ▶ 本市の特長である茶畑を活かした魅力づくり、来訪者等による口コミの拡大などの取組を進める。 	最重点
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は6位（88万人）。訪日需要が安定しており、リピーター割合も高い。 ▶ 静岡空港の定期路線は無いが、チャーター便運航の動きもあり、今後に向けてJNTOなどからのヒアリングを進めている。 	
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人口規模も約1億人と大きく、訪日需要が着実に増加している。静岡県内の延べ宿泊者数では東南アジアで最多。 ▶ スポーツや教育に関する本市の取組などと連携した取組が想定される。 	
米国	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は4位（224万人）。本市は3つの姉妹都市を有する（オマハ、ストックトン、シェルビービル）。 ▶ 消費単価の高い顧客を扱う現地ツアーオペレーターなどに対する、するが企画観光局の継続的なマーケティング活動を支援する。 	
フランス	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 消費単価は低い（約1.8万円/泊）。本市はカンヌ市と姉妹都市で、直近では日仏自治体交流会議が本市で開催された。 ▶ 消費単価の高い顧客を扱う現地ツアーオペレーターなどに対する、するが企画観光局の継続的なマーケティング活動を支援する。 	
豪州	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日外客数※は7位（73万人）。 ▶ 時差の無い位置関係を活かして、訪日教育旅行を前提とした教育交流等の取組が想定される。 	

2-4 インバウンド … 2025年度の取組の例 (主に台湾市場)

ポイント① 静岡市の特長 (茶畑の空間・絶景や茶農家のくらしの豊かさ) を活かす

※日本のリーフ茶の輸出先で台湾は世界1位

茶畑ガイドの体制整備

- 茶畑が最も美しいが、茶業繁忙期のため受入が難しい4~5月の受入拡大
- 茶農家に代わって受入を行う英語対応可能なガイド人材の育成
- 受入茶農家の拡大 (プログラム整備)

- #商品化
- #受入拡大

茶農家受入環境整備補助金

- 観光客の受入意欲がある茶農家が、トイレ、空調設備、茶器、多言語ツールなどの受入環境整備に取り組む場合の支援制度を創設予定

- #高付加価値
- #満足度向上

▶▶ このほか、「感動体験のまち創造事業 (次頁)」などもインバウンドの誘客につなげる。

ポイント② 良質な口コミの増加・拡散を促し、効果が持続する情報発信を行う

口コミ拡大事業

- 台湾・香港市場向けの旅行系アプリを活用した口コミ拡大
- 静岡オススメ旅行プランのコンテストを開催するなど、双方向型の取組で市場とのコミュニケーションを充実

- #口コミ
- #旅アプリ
- #ユーザー参加型

お茶ツーリズムの現地PR

- 台湾現地の飲食店における静岡市キャンペーンに合わせて、お茶ツーリズムをPR

※ 5市2町の連携中枢都市圏事業として、海外展開支援事業 (経済局) と連携して情報発信を効果的に実施

- #現地PR
- #5市2町
- #ユーザー参加型

▶▶ “一方通行” で “消費型” の情報発信にしない。
“双方向、ユーザー参加・交流” で “蓄積型” の取組で認知・関心を高める。

03 持続可能な観光地域づくり -ブランディング-

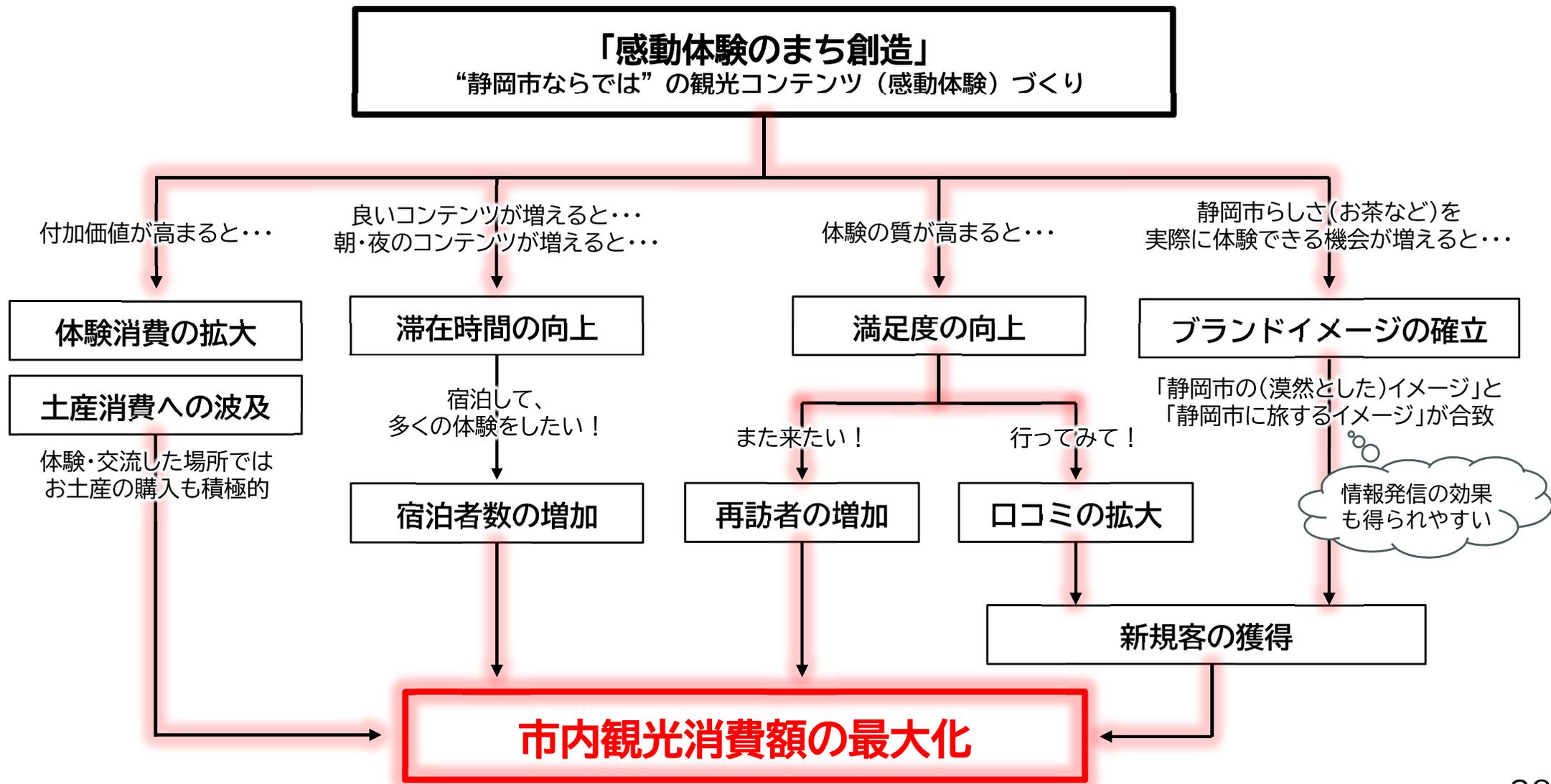
3-0 基本認識 … 「静岡に行ってみたい」を創る

- 静岡市は、**潜在力**としては**旅の目的地(デスティネーション)**としての**魅力は極めて高い**
- しかし、旅の目的地として**静岡市のイメージがわからない**
- 潜在的な魅力はあるが、**具体的な魅力**として「**磨き上げ**」がされていない
(例) 国宝・久能山東照宮自体は訪問先として素晴らしいが、それが静岡市の旅のイメージや地域の魅力につながっていない。

3-1 持続可能な観光地域づくりーブランディングー … 基本的な考え方

《基本的な考え方》

静岡市は、旅行を検討している人に旅の目的地としてイメージされていない。
まずは、“静岡市ならではの”への期待に応える魅力（コンテンツ）を充実させる。
旅行者の期待に応えられるコンテンツが、「ブランドイメージ」として定着していく。



3-2 持続可能な観光地域づくりーブランディングー … 国費の採択内容

申請者	静岡県静岡市	初回採択回	2024年度 第2回募集
事業計画期間	2024-2026年度	期間中の総事業費 (カッコ内は2024年度事業費)	2億 876万円 (6,888万円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市は全国と比較し、1人当たりの旅行単価が低い状況にある。 ・市内観光消費額の最大化に向けて「1人あたり旅行単価の向上」と「インバウンドを含む客数の増加」を図るため、静岡市の特性を生かした「体験コンテンツの充実」を目指す。 ・体験コンテンツの充実に向けては市内観光事業者への商品造成支援とブランディングによる販売強化を実施する。 		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳は 2024年度事業費	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体験コンテンツの造成支援 (企画・開発、ブラッシュアップ、事業者間連携) <ul style="list-style-type: none"> ○キックオフセミナー 580万円 <ul style="list-style-type: none"> ・現状認識、将来像など共有し、事業への幅広い参画を促す。 ○商品造成ワークショップ 1,260万円 <ul style="list-style-type: none"> ・専門家を招聘し、体験コンテンツの造成に必要な知識の習得や自己分析等を行う。 ○個別事業者への伴走支援 3,920万円 <ul style="list-style-type: none"> ・重点支援事業者が体験コンテンツを造成するにあたっては、伴走支援体制を整え、個別の状況に応じた的確な助言や活動支援を行う。 ■ 体験コンテンツ販売強化事業 (ブランディング) <ul style="list-style-type: none"> ○プロモーション体制の整備 780万円 <ul style="list-style-type: none"> ・造成したコンテンツを活かした次年度以降の本格的なプロモーションに向けて、ブランドコンセプトやモデルコースの企画・開発、WEB状の情報導線の再設計などの体制を整える。 ○B to Bセールスの実施 348千円 <ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓や商品ブラッシュアップのため、エージェントファムトリップや商談会を実施する。 		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ol style="list-style-type: none"> ①地域における観光消費額 (+450億円) ②外国人延べ宿泊者数 (+5万人) ③1人あたり観光消費額 (+9000円) ④“感動体験”の体験者数 (+2万3千人) 		<p>関連URL</p> <p>(交付金の具体的用途・実施体制・効果検証) https://www.city.shizuoka.lg.jp</p>

3-3-1 持続可能な観光地域づくりーブランディングー・・・主なコンテンツ例

「感動体験のまち創造事業（2024年度～）」 ◆2024年度に開発・磨き上げを行った主なコンテンツ◆

山崎製作所

将軍家康が愛した駿府で匠の技に触れる、日本刀型ミニピック製作体験と金属加工工場見学

徳川家康が駿河に集めた職人たちの技術を現代に受け継ぐ「三代目板金屋」の工房で、金属加工技術を学び、自分オリジナルのくろもじを制作できる。伝統的な板金技術（切り、叩き、曲げ）を学びながら、金属の可能性を体感。

【見どころ】

- ・ 伝統・歴史：徳川家康により全国から駿河に集められた職人たちの技術とルーツを学ぶ。
- ・ 工場見学：日本の伝統と革新を融合し、金属でカタチにする迫力のある工場をガイド付きで見学。
- ・ くろもじ製作体験：伝統的な木工技術を学びながら、自分だけのアイテムを作り上げる。



受入れ期間 / 開始時間	平日のみ・開始時間は要相談 (所要約2時間)
所要時間	約 2 時間
販売価格	8,000 円 / 大人1名
人数	最小1名～最大20名
言語	日本語、簡単な英語 ※通訳が必要な場合は、追加費用にて手配可能

3-3-2 持続可能な観光地域づくりーブランディングー・・・主なコンテンツ例

「感動体験のまち創造事業（2024年度～）」 ◆2024年度に開発・磨き上げを行った主なコンテンツ◆

つばめ制作社

静岡のローカルをe-bikeでサイクリング-挽きたてコーヒーセット付きプラン

蒲原市民しか知らないローカルスポットをまとめたMAPをもとにeバイクでサイクリングできるプラン。富士山が見えるスポットや、地元の人々に愛されているお店、そして興味深い景色など、ぜひ訪れて欲しい場所をまとめました。店主おすすめのスポットで豆から挽いてコーヒーを自ら淹れて、お楽しみください。

【見どころ】

- ・ 蒲原宿は、江戸時代、日本橋から15番目の宿場町。この宿の魅力は、何といてもレトロな街並み。
- ・ 県内でも唯一歴史国道として認定された宿場町では、なまこ壁が特徴的なお屋敷や和洋折衷の大正モダン建築など見どころが満載。
- ・ 都会では体験できない静かでローカルな暮らしを体験できる。



受入れ期間 / 開始時間	即時可能
所要時間	150~300分（旅行者次第）
販売価格	5,000 円 / 大人1名
人数	最小1名～最大4名
言語	日本語、簡単な英語 ※通訳が必要な場合は、追加費用にて手配可能

「感動体験のまち創造事業（2024年度～）」 ◆2024年度に開発・磨き上げを行った主なコンテンツ◆

割烹芳川・龍華寺

富士山に見える庭園で楽しむ、御鰻悦プラン

創業180年以上の歴史を持つ鰻割烹料理店の歴史と、静岡県最古の鰻料理を始めた店の職人の技を学び味わえるプラン。うなぎの調理法や、秘伝のタレを学んだあとは、料理人が作った鰻重弁当を持って、日本らしさの詰まったお寺で本堂を貸切り、富士山を眺めながらランチをすることができる。

【見どころ】

- ・ 割烹芳川は、旧東海道沿いにある静岡県内最古の鰻割烹。お店のこれまでの歴史や、鰻料理について深く学ぶことができる。
- ・ 割烹料理や鰻について学びながら、職人の技による鰻をいただく。
- ・ 歴史ある龍華寺の萱吹き屋根の本堂から見える富士山の眺望や駿河湾など、静岡の風景を楽しむ。
- ・ 龍華寺の歴史ある日本最古のソテツや大きなサボテンを眺めることができる。



受入れ期間 / 開始時間

リクエスト予約

所要時間

約 4 時間

販売価格

25,000 円
/ 大人1名

人数

最小2名～最大10名

言語

日本語
別料金で通訳ガイド手配可能

3-3-4 持続可能な観光地域づくりーブランディングー・・・主なコンテンツ例

「感動体験のまち創造事業（2024年度～）」 ◆2024年度に開発・磨き上げを行った主なコンテンツ◆

長澤瓦商店株式会社

清水瓦の技と伝統に触れる！静岡県唯一の女性鬼師による鬼瓦づくり本格体験

1974年の七夕豪雨で一度はこの世から消えた「清水瓦」の伝統を復活させた長澤瓦商店。その熱意と職人技に触れながら、静岡県唯一の鬼師の手ほどきにより「鬼瓦づくり」を体験できる貴重なプラン

【見どころ】

- ・かつて瓦の一大産地だった清水エリア。地元の土を使ったこだわりの製法で今なお瓦を作り続ける職人の技と熱意に触れる
- ・清水瓦の復活に奔走し、さらに瓦の素材を活かした新しいスタイルのクラフトを提案する静岡県唯一の女性鬼師による鬼瓦づくりワークショップで、本格的な「鬼瓦」づくりを体験
- ・2024年にオープンしたショップにて、アロマストーンやイヤリングなど瓦ならではの工芸品も購入可能



受入れ期間 / 開始時間	毎金曜・土曜の10:00~、14:00~（リクエスト予約）
所要時間	約 1.5 時間 ~ 3 時間
販売価格	【松】 34,500円 / 3 時間 【竹】 12,500円 / 2.5 時間 【梅】 3,500円 / 1.5 時間
人数	最小2名～最大6名
言語	日本語 別料金で通訳ガイド手配可能

3-3-5 持続可能な観光地域づくりーブランディングー・・・主なコンテンツ例

「感動体験のまち創造事業（2024年度～）」 ◆2024年度に開発・磨き上げを行った主なコンテンツ◆

ホテルアソシア静岡

駿河茶宴(ちゃえん) 鉄板焼き和牛×ティーペアリング

静岡茶の奥深い香りとうまいを、静岡産の旬の食材とともに楽しむペアリングコース。目の前の鉄板で調理される地元食材に、煎茶・深蒸し茶・玉露・ほうじ茶などの多彩な茶葉をセレクト。お食事とお茶を五感で味わう贅沢なお茶体験。

【見どころ】

- ・ 厳選した静岡県産食材を中心に、この土地ならではの静岡茶とのペアリングディナー。
- ・ 目の前で調理される鉄板焼きとティーペアリングをライブで楽しむことができ、シェフとの会話を楽しむことも可能。
- ・ 地域限定旅行業を取得しているため、その他、お茶ツアー、宿泊とのセット販売も可能。



受入れ期間 / 開始時間	リクエスト予約
所要時間	約 3 時間
販売価格	28,000 円 / 大人1名
人数	最小2名～最大6名
言語	日本語 別料金で通訳ガイド手配可能

「感動体験のまち創造事業（2024年度～）」 ◆2024年度に開発・磨き上げを行った主なコンテンツ◆

エスパルスドリームプラザ

ちびまる子ちゃんの聖地・清水で叶う、”アニメの世界に没入”まるちゃんなりきり体験プラン

日本で唯一の「ちびまる子ちゃん」の世界が楽しめる常設ミュージアムで、ちびまる子ちゃんになりきれる(コスプレ)体験ができる入場券付きプラン。施設内にあるキャラクターパネルや小学校の教室などアニメの世界観を再現したフォトスポットで（たまちゃん・花輪くん・野口さんの衣装もあり）、思い出にも残るここだけの特別な写真撮影を。

【見どころ】

- ・ 中華圏インバウンドにも人気の「ちびまる子ちゃん」の聖地・清水だからこその体験ができる。
- ・ 日本でここだけの没入フォトスポットやキャラクターの貸衣装によって、友達に自慢したくなるような写真が撮影できる。



受入れ期間 / 開始時間	1日2回： 10:30～／13:00～（即時）
所要時間	約 60~90 分
販売価格	3,200 円 / 大人1名 2,700 円 / 小人1名
人数	最小1名～最大5名 / 回
言語	日本語 ※多言語チラシでのご案内

04 クルーズ

4-0 基本認識

- 1990年2月の豪華客船「クイーン・エリザベスⅡ」の清水港初寄港を契機として、同年4月に清水港客船誘致委員会(会長 望月薫氏(当時))を設立。官民一体となった継続的な取組により着実に実績を重ね、コロナ禍以降の飛躍的な拡大につながった。
- 2025年の寄港数は、日本第6位、本州第1位となる過去最多の100隻超となる見込み。
- これまでの**港湾関係者の尽力に感謝**する一方、乗降客に**市内を周遊**してもらい、**消費額を増やす取組は不十分**だった。
- **消費額が増加**するということは、**支払い価値があること**を示しており、**お客様の満足につながる**。
- **清水港の絶対的魅力**に加えて、静岡市やその周辺地域の**潜在的魅力を磨き上げる**ことにより、クルーズ客の顧客満足度を向上させることは、インバウンド客の満足度の向上にもつながる。
- 顧客満足度を向上させ、**経済効果を高める取組を加速**する。

(注) いまだに**都市伝説**となっているもの(実態とはまったく異なる)

「クルーズ客はバスに乗って、御殿場アウトレットに行くので、**地元にお金を落とさない**」

「クルーズ客は船内食事が無料なため、**下船しても食事をしない**」

4-1-1 歴史

《経緯》 1990年2月の豪華客船「クイーン・エリザバスⅡ」の清水港初寄港を契機として、同年4月に**清水港客船誘致委員会**(会長 望月薫氏(当時))を**設立**。官民一体となった継続的な取組により着実に実績を重ね、**コロナ禍以降の飛躍的な拡大**につながり、35周年となる2025年は**過去最多100隻超**となる見込み。

- 1990年 「クイーン・エリザバスⅡ」初寄港
清水港客船誘致委員会 設立
- 1991年 「にっぽん丸」「飛鳥」寄港
- 2006年 海外ポートセールス実施 ※以降、2年に1回実施
- 2013年 富士山の世界文化遺産登録
- 2015年 クルーズオブザイヤー2015「特別賞」受賞
- 2017年 清水港が「国際旅客船拠点形成港湾」に指定
- 2019年 清水港開港120周年
- 2020年 新型コロナウイルス感染症により日本への外国クルーズ船寄港が中断
- 2023年 日本への外国クルーズ船寄港 再開。日本で最初の寄港は「アマデア」の清水港寄港
- 2024年 「クイーン・エリザバス」初寄港
清水港史上最大級のクルーズ船「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」初寄港
- 2025年 駿河湾フェリー清水港乗船場が江尻心頭に移転 ⇒ 日の出心頭2号岸壁がクルーズ船専用化
年間の寄港予定が過去最多の100隻超の見込み

4-1-2 クルーズ振興の基本認識 …… 清水港客船誘致委員会

1990年2月23日に世界で最も有名な客船「クイーン・エリザベスII」が清水港に初寄港。
これが契機となり、清水港に客船誘致の機運が高まる。



- ・「白い船(=客船)を清水港に！」をスローガンに
1990年4月1日全国に先駆け、清水港客船誘致委員会設立
- ・2025年には、誘致員会設立35周年の節目を迎える

誘 致 活 動

・清水港のポテンシャル(港湾機能)と周辺の観光地の魅力をPRし、清水港への寄港を促す

歡 迎 事 業

・乗船客&クルーの満足度を上げ、リピーター獲得を目指す



地域経済への還元

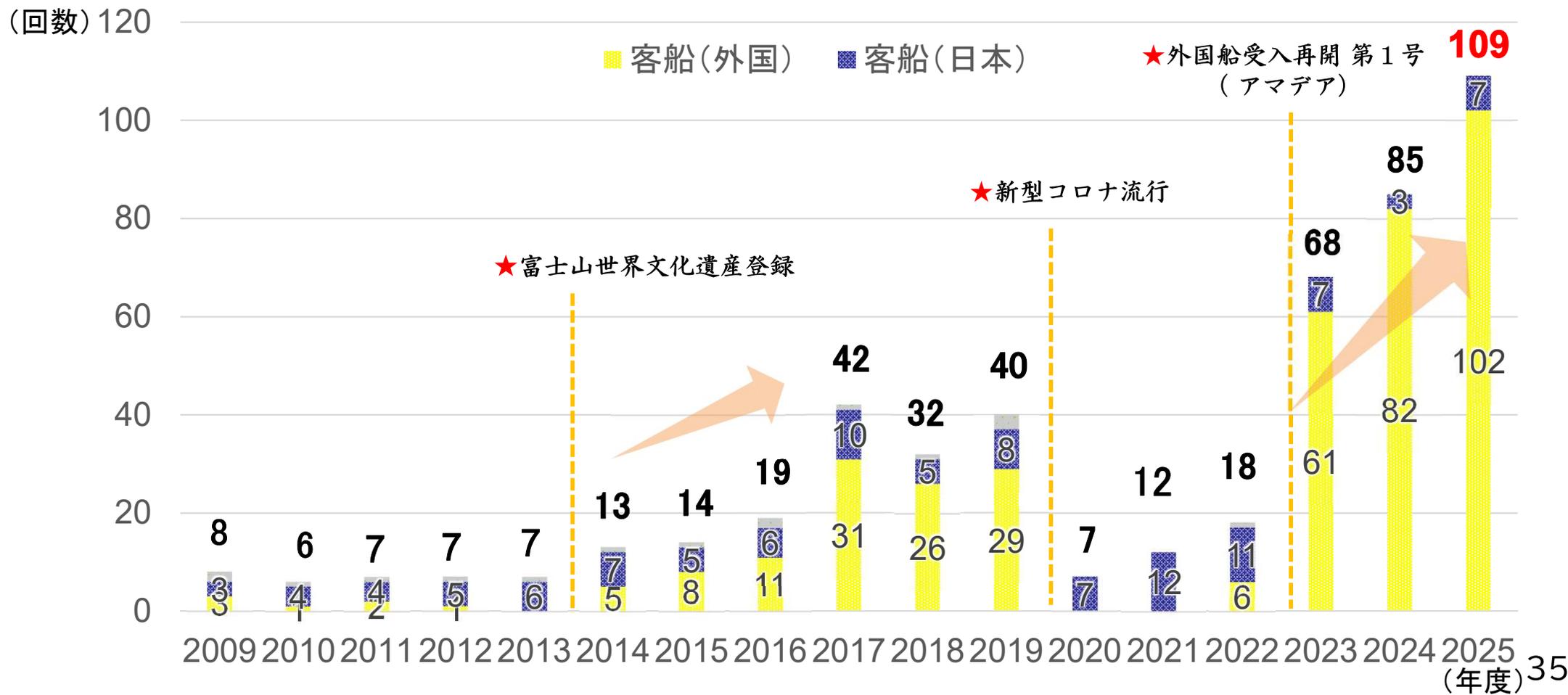
多様で活発な「みなとまちしみず」へ

4-2-1 クルーズ振興の現状 … 清水港の客船寄港状況（経年推移）

- 《現状》** ・富士山の世界文化遺産登録以降、寄港数が大幅に上昇した
 ・コロナ後はインバウンド需要回復と円安を追い風として、飛躍的に寄港数が増加している
 ・2025年は過去最多100隻以上を見込む（2026年も100隻以上となる見通し）※ 2025.7月時点

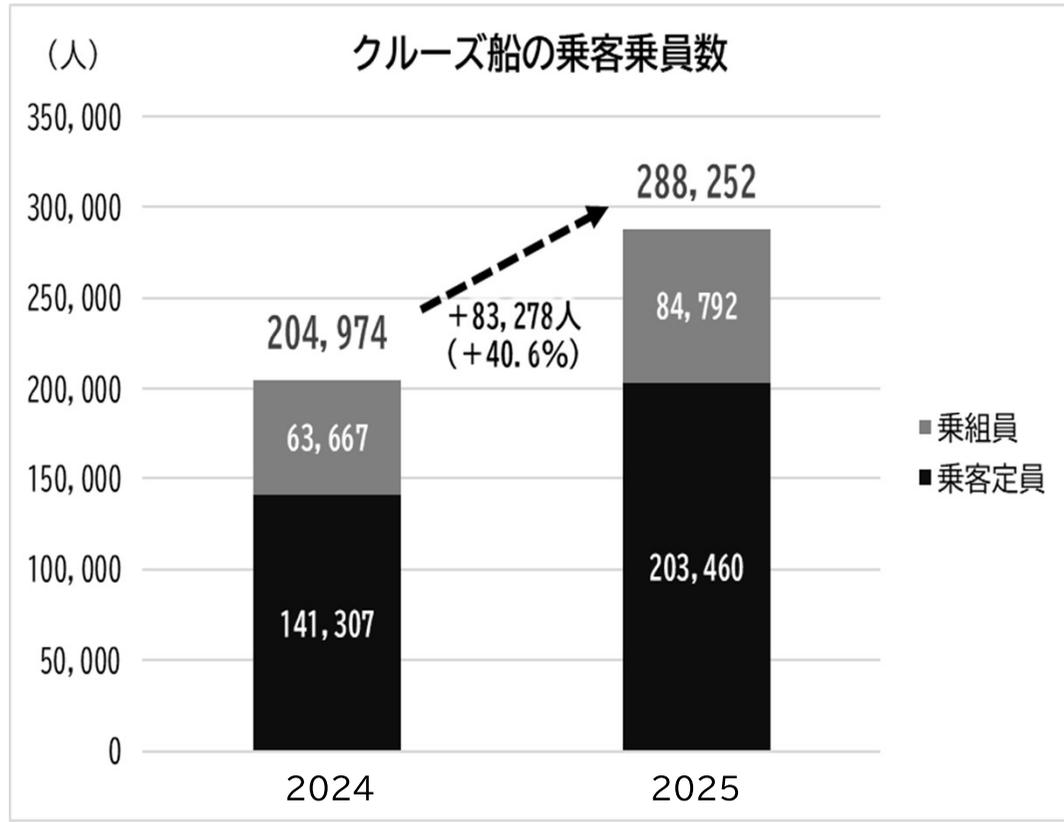
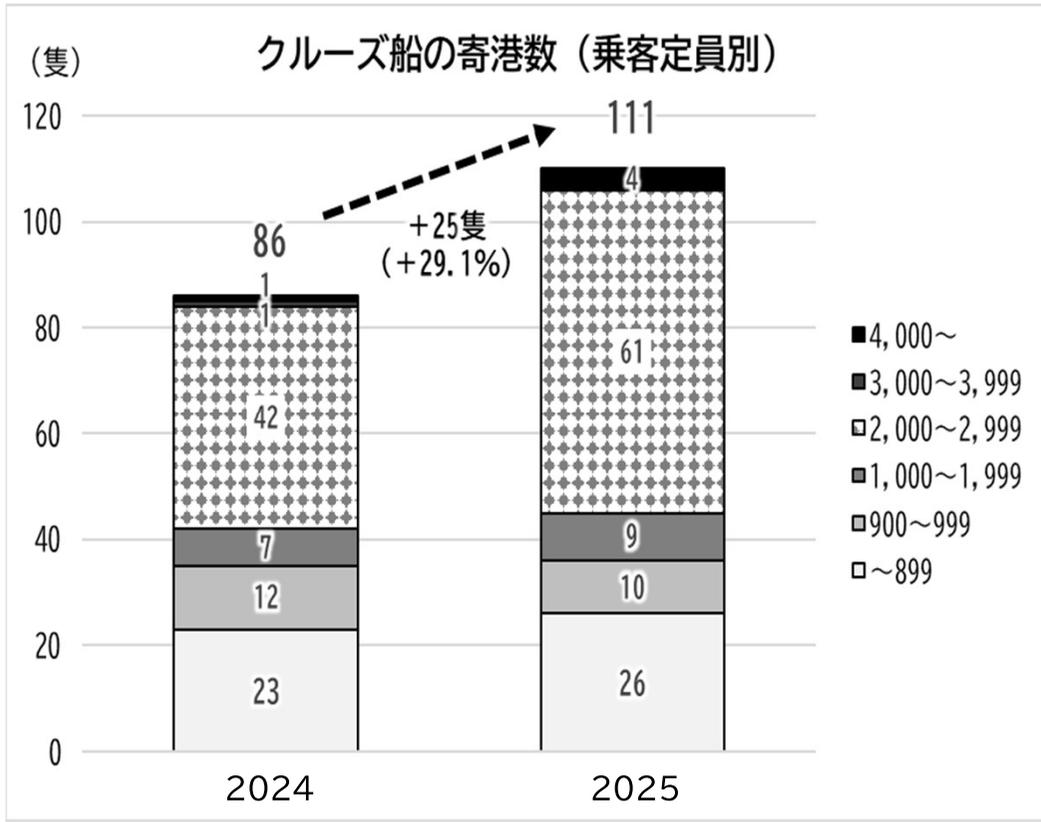
【近年の飛躍的な増加の要因】

- ① 「清水港客船誘致委員会」による誘致活動と歓迎事業 ⇒ 清水港の認知度や乗船客の満足度が向上
- ② クルーズツアーとしての清水港寄港の価値が定着 ⇒ 清水港の人気上昇（同じ船が1年に何度も寄港）
- ③ 三保半島は天然の防波堤（安全で穏やかな寄港地） ⇒ 天候による寄港キャンセル・リスク小



4-2-2 クルーズ振興の現状 … 清水港の客船寄港状況（2024～2025年度）

- 《現状》
- ・2025年度は、2,000人以上の大型船が寄港数の増加をけん引
 - ・乗客(定員数)は20万人以上、乗組員は8万人以上、乗客乗員の総数は前年度比4割の増加
 - ・個人で行動する乗客が増加見込 ⇒ 市内全域への周遊、個店への訪問が増加する可能性

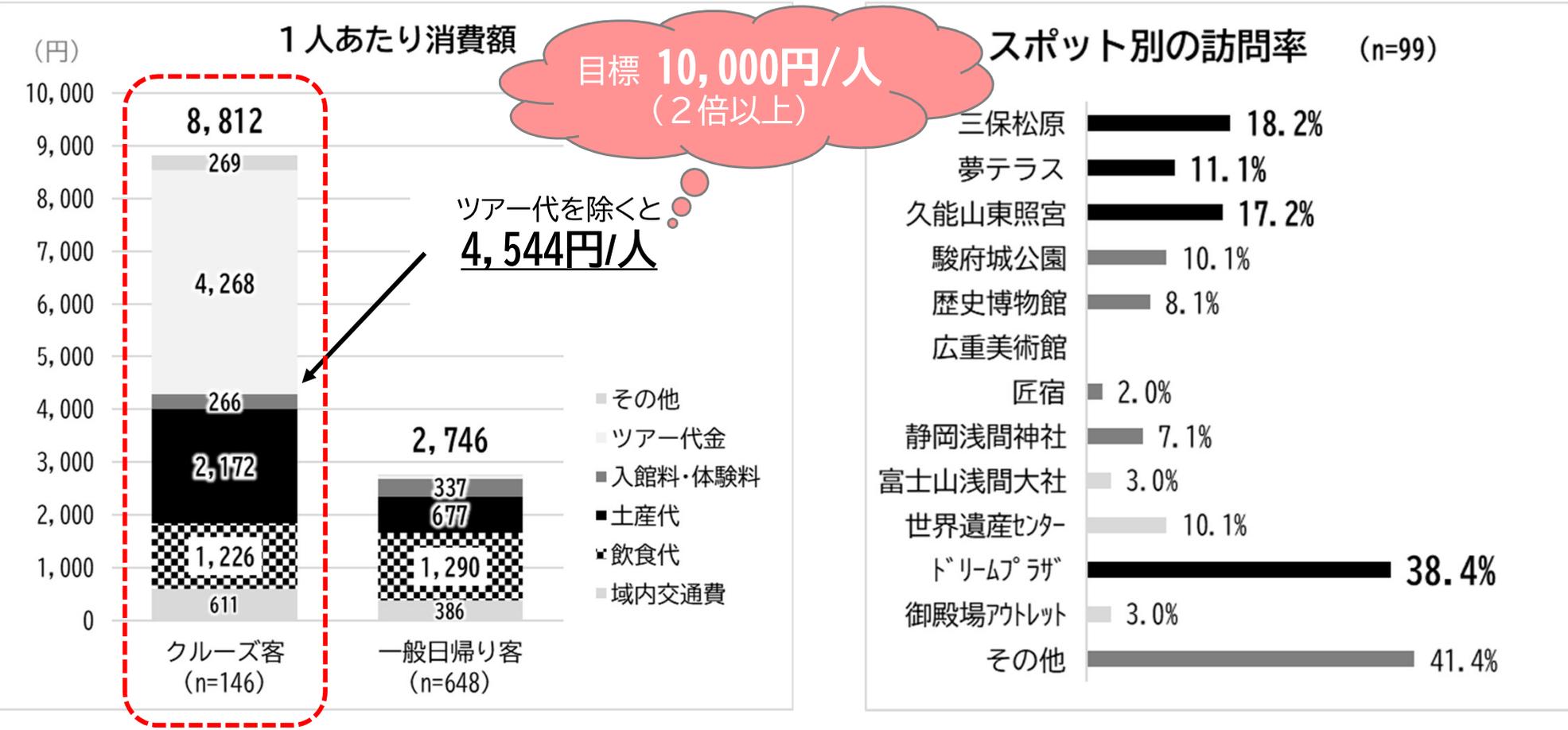


出典:清水港客船誘致委員会(2024年10月末時点)

4-2-3 クルーズ振興の現状 … 1人あたり消費額、市内周遊

《現状》 ・クルーズ客は一般日帰り客と比べて消費単価が高い。費目別ではツアー代金と土産代が高い。
 ・オプションツアー非参加者のスポット別の訪問率は、清水エリアは2割弱、静岡エリアは1割弱にとどまっている。（広重美術館はオプションツアーでは訪問有）

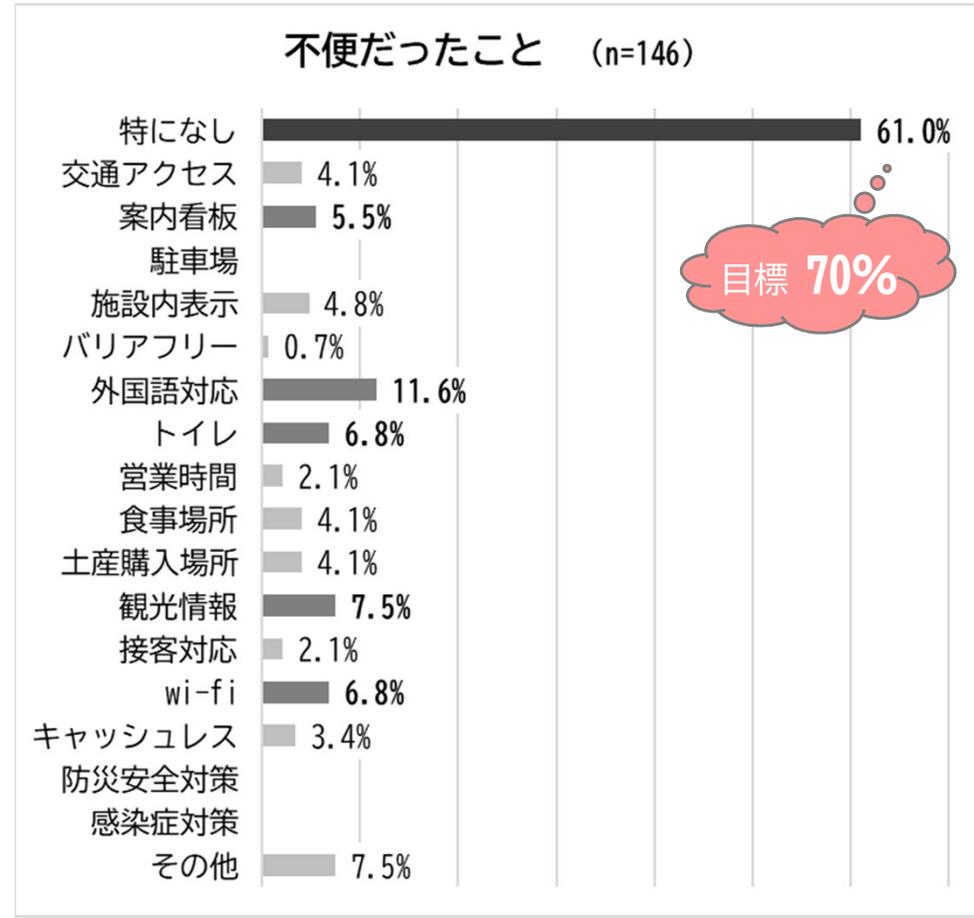
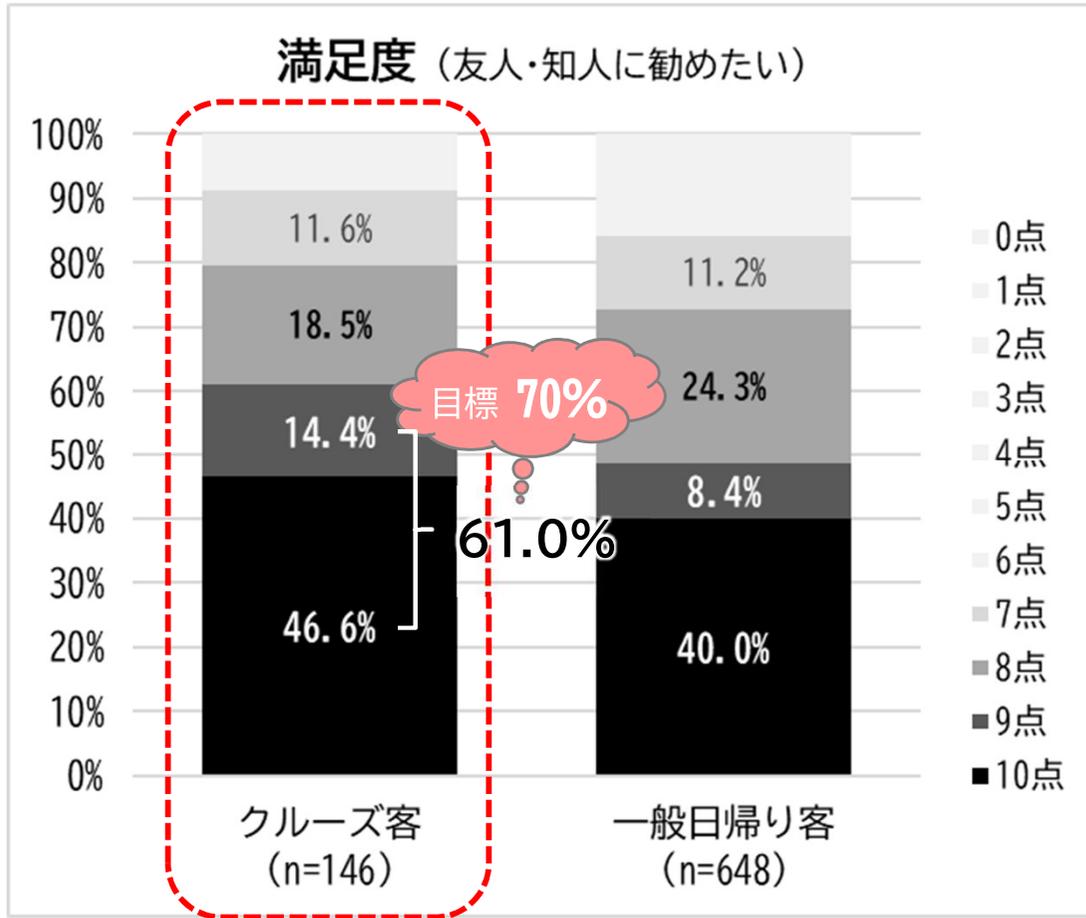
※オプションツアー非参加者



⇒ 消費拡大につなげる「観光コンテンツの充実」、市内周遊を促す「情報提供の仕組みづくり」が必要

4-2-4 クルーズ振興の現状 … 満足度、不便だったこと

《現状》 ・クルーズ客の満足度（推奨度）は、一般日帰り客と比べて高い。
 ・「不便だったこと」では、外国語対応（11.6%）が最も多く、観光情報、Wi-Fi、トイレが挙げられた。



⇒ 満足度のさらなる向上に向けて、乗客が不便を感じたことの解消に向けた対応が必要

4-3-1 クルーズ政策の取り組み … 清水港客船誘致委員会(主な誘致活動)

1. 国内ポートセールス活動

- ・ 国内船社、海外船社日本支店
- ・ 海外船社販売総代理店
- ・ ランドオペレーター（旅行会社）への訪問



2. 船会社等の招請事業

- ・ 国内外船社、ランドオペレーターのキーマンを招請して、港湾機能や周辺の観光地等の魅力をPR



3. セミナー・イベント参加

- ・ 船社が講師となるセミナー参加
- ・ 船社等が集まるイベントでのブース出展
- ・ 国際クルーズ見本市への出展



4. 海外ポートセールス活動（2年ごと）

- ・ 海外船社の集積するアメリカへ直接訪問
- ・ 船社の現況把握、配船動向等最新情報ヒアリング
- ・ 港や観光の最新情報提供



4-3-2 クルーズ政策の取り組み … 清水港客船誘致委員会(主な受入・歓迎)

1. 入出港時の演奏・演舞など



2. 初寄港歓迎式典



3. 出港時の花火打上



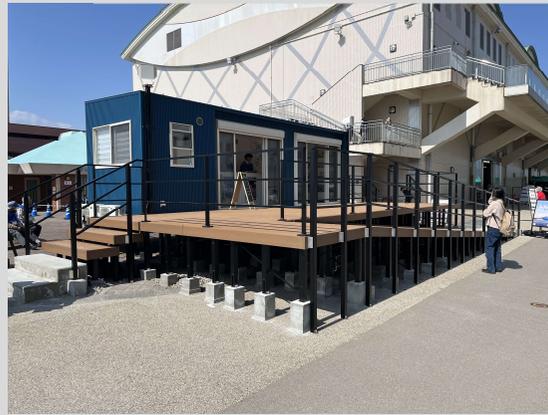
⇒ これらの取組の結果、清水港に寄港する客船は徐々に増加してきた。(次ページに経年推移)
今後は寄港による経済効果を拡大するための取組強化が必要

4-3-3-1 クルーズ客の市内周遊促進・消費拡大・・・岸壁の受入体制

<<取組>> ・観光案内所の運営・・・観光情報の提供 ⇒ 市内周遊促進、消費拡大、満足度向上
 ・交通手段の確保・・・シャトルバスの運行、タクシー手配 ⇒ 市内周遊促進、満足度向上
 ・イベント開催支援・・・民間主催者の手続き支援 ⇒ 消費拡大、満足度向上、見学客の拡大

New!

- ・英語対応スタッフの配置
- ・実証ツアー実施、モデルコース提案
- ・SNSでの情報発信



観光案内所の設置・運営

New!

- ・日本版ライドシェアで供給車両増
- ・配車効率向上に向けた実証



シャトルバスの運行（乗客2,000名以上の船）

New!

- ・民間主導のイベントに転換
- ・売れ筋商品の充実
- ・大規模な祭りイベントも開催



マルシェイベントの開催（民間）



マップ等で周遊を促進



タクシー手配（タクシー協会が協力）



ユニークな商品を販売

4-3-3-2 クルーズ客の市内周遊促進・消費拡大 … 観光コンテンツの充実

《概要》 観光庁の実証事業の採択を得て、観光コンテンツの充実に取り組んだ（2024年11月）。特に、改修を行った紅葉山庭園（駿府城公園内）等の利活用に向けて、同署での飲食や体験のプログラム化に向けた実証ツアー（全5回）を実施した。

主なコンテンツと実証内容

●匠宿

【主な実証内容】

・匠宿での終日滞在を目的として実証実験を実施・
・通常体験にどのように付加価値をつけることができるのか、ベジタリアン対応などを目的にツアーを組み立てる。

●久能山東照宮

【主な実証内容】

・SPAC俳優による演劇×国宝久能山東照宮のコラボレーションを実証。
SPAC演じる将軍が久能山東照宮への特別参拝をいざなう、演劇と観光の掛け合わせを実証実験とする。

●一乗寺&清照由苑

【主な実証内容】

清水港近郊に位置する一乗寺で「座禅」と奈良に伝わる「大茶盛」を体験（抹茶農家である清照由苑提供）
外国人に人気の禅の体験を清水港からアクセスのよい一乗寺で実証実験を行う。

●紅葉山庭園（食）

【主な実証内容】

キッチン改修後の紅葉山庭園で食事提供の実証実験。
寿司・精進料理（和食）・創作フレンチなど紅葉山庭園キッチンでどのような料理が提供可能かを実証実験する。

●紅葉山庭園（パフォーマンス）

【主な実証内容】

SPAC俳優による演劇×国宝久能山東照宮のコラボレーション。
演劇と観光の可能性を実証実験により探る。

▶▶▶ 詳細は次ページ

観光庁事業の内容

事業名 **特別な体験**の提供等によるインバウンド消費の拡大・質向上推進事業 **（特別な体験事業）**

概要 我が国が誇る観光資源を活用し、これまでにない**特別な体験コンテンツ**※を提供することで、インバウンドの地方誘客を促す取組について調査・検証するもの。

委託額 3,000万円～8,000万円 ※上限8,000万円での採択は、世界遺産での宿泊等が対象

国費10/10での実施

対象 国、地方公共団体、独立行政法人、民間事業者

対象経費 コンテンツ造成に係る経費、プロモーション経費、備品の購入・設備の導入にかかる経費（対象限定有）、効果測定に必要な調査にかかる経費

※特別な体験コンテンツ … 通常は飲食等が許可されていない場所で飲食等の提供を行うもの / 非混雑エリアをユニークベニューとして活用するもの / 消費単価が極めて高いインバウンドを対象とした体験であるもの / 特別な人物と共に体験を行うもの

4-3-3-3 クルーズ客の市内周遊促進 … 観光コンテンツの充実

特別体験事業 ツアー① 旧東海道の宿場町丸子宿で美食と工芸を楽しむ旅

1. 日程 10/14(祝)

船名 クアンタム・オブ・ザ・シーズ
(初寄港/スタンダード)

サイズ 【総トン数】168,666 t 【全長】347.08m
【肩幅】41.40m

乗員乗客 【乗客定員】4,180人 【乗組員数】1,500人
【客室数】2,094室

運航会社 ロイヤル・カリビアン・インターナショナル

3. 旅程 ★印はSPAC俳優によるグリーティング有

時間	内容
9:00	清水港寄港 (販売開始~10:45)
11:00	清水港出発 ★
12:00	駿府の工房 匠宿 着 ★
12:30	和処 若松にて昼食(5,000円分) ★
13:30	竹千筋細工の体験 ★
15:00	自由散策(お店で使えるチケット1,000円分付)
15:50	お土産のお渡し(茶染めのあずま袋) ★

ツアー用に
開発した
お食事

「静岡の食材を使った9種類の小鉢膳」
・富士山サーモンの焼き物
・はんぺんフライ・青菜のお浸し
・根菜の金平・静岡おでん
・だし巻きたまご・お漬物・果物の和え物

2. 参加者

【人数】12名 (クルーズ船6名・留学生6名)

【国籍】アメリカ5名・ベトナム2名・エジプト1名
ミャンマー1名・ネパール1名・その他2名

4. アンケート結果

4.67

平均評価



一つの皿に様々な種類の食べ物がありました。
料理は軽くて食欲をそそりました！

日本人の忍耐強さに感心しました。
永遠に記憶に残る新しい体験でした。



4-3-3-4 クルーズ客の市内周遊促進 … 観光コンテンツの充実

特別体験事業 ツアー② ロープウェイで巡る聖地久能山と風景美・茶文化の旅

1. 日程 11/3(日)

船名 ノルウェー جان・スピリット (スタンダード)
サイズ 【総トン数】 75,904t 【全長】 347.08m
【肩幅】 41.40m
乗員乗客 【乗客定員】 4,180人 【乗組員数】 1,500人
【客室数】 1,025室
運航会社 ノルウェー ジャン・クルーズライン (アメリカ)

3. 旅程 ★印はSPAC俳優によるグリーティング有

時間	内容
9:00	清水港寄港 (販売開始~10:45)
11:00	清水港出発 ★
11:30	日本平~ロープウェイ~久能山東照宮
12:00	久能山東照宮特別参拝 ★
13:15	久能山東照宮~ロープウェイ~日本平
13:30	日本平出発
14:00	一乗寺着~ランチボックス ★
14:45	座禅体験
15:20	練切作りと巨大茶碗での抹茶体験 (清照由苑)
16:30	一乗寺出発 ★
17:00	清水港着 ★

2. 参加者

【人数】10名 (クルーズ船6名・留学生4名)
【国籍】メキシコ4名 ・ アメリカ2名 ・ インドネシア2名
その他2名

4. アンケート結果

5.00

平均評価



私はヨギ(ヨガ実践者)です。
禅の方法で瞑想するのは初めての経験でした

美味しい食事で、バリエーションも良い。
ナチュラルな料理は素晴らしかったです。



4-3-3-5 クルーズ客の市内周遊促進 … 観光コンテンツの充実

特別体験事業 ツアー③ 静岡の聖地参拝・日本伝統食と文化の触れ合う旅

1. 日程 11/5(月)

船名 ノルウェー جان・スピリット (スタンダード)
 サイズ 【総トン数】 75,904t 【全長】 347.08m
 【肩幅】 41.40m
 乗員乗客 【乗客定員】 4,180人 【乗組員数】 1,500人
 【客室数】 1,025室
 運航会社 ノルウェー ジャン・クルーズライン (アメリカ)

3. 旅程 ★印はSPAC俳優によるグリーティング有

時間	内容
7:00	清水港寄港 (販売開始～10:45)
8:30	清水港 発 ★
9:00	日本平～ロープウェイ～久能山東照宮
9:30	久能山東照宮特別参拝 ★
10:30	久能山東照宮～ロープウェイ～日本平
11:30	駿府城公園・紅葉山庭園 着
12:00	庭園散策
12:30	魚竹寿司による寿司提供 ★
15:20	清水芸妓によるお座敷遊び ★
14:45	抹茶とお菓子の提供
15:00	紅葉山庭園 発 ★
16:00	清水港 着 ★

2. 参加者

【人数】 10名 (クルーズ船10名)
 【国籍】 アメリカ4名・英国2名・韓国2名・中国1名・ベトナム1名

4. アンケート結果

4.90

平均評価



すべてが美しく配置されていました。
 まるで江戸時代にタイムスリップしたかのよう。
 食事が素晴らしく、エンターテインメントは見事！

庭の雰囲気とデザインが大好きです。
 これまで経験したことのないものでした。
 芸者さんたちは素晴らしかったです！



4-3-3-6 クルーズ客の市内周遊促進 … 観光コンテンツの充実

特別体験事業 ツアー④ 静岡の聖地参拝・日本伝統食と文化の触れ合う旅

1. 日程 11/25(月)

船名 ノルウェー جان・スピリット (スタンダード)
サイズ 【総トン数】 75,904t 【全長】 347.08m
【肩幅】 41.40m
乗員乗客 【乗客定員】 4,180人 【乗組員数】 1,500人
【客室数】 1,025室
運航会社 ノルウェー ジャン・クルーズライン (アメリカ)

3. 旅程 ★印はSPAC俳優によるグリーティング有

時間	内容
7:00	清水港寄港 (販売開始～7:45)
8:00	清水港 発 ★
9:00	紅葉山庭園 着 ★
9:10	着付体験 ★
10:10	庭園散策 ★
11:00	花おはぎづくり体験 ★
12:00	江戸駒による精進料理 ★
13:00	志田島園による日本茶飲み比べ体験 ★
14:00	着替え
14:30	紅葉山庭園 発 ★
15:00	清水港 着 ★

2. 参加者

【人数】 7名
【国籍】 英国4名・豪州2名・オランダ1名

4. アンケート結果

4.86

平均評価



全体的にとっても良く組織されていてフレンドリーでした。、本当に美味しい食事、美しい庭園、美しい着物に満足しました。

おはぎ作りは難しかったけど、とても良い体験になりました。



特別体験事業 ツアー⑤ 静岡の聖地参拝・日本伝統食と文化の触れ合う旅

1. 日程 11/27(水)

船名 ノルウェー جان・スピリット (スタンダード)

サイズ 【総トン数】 75,904t 【全長】 347.08m
【肩幅】 41.40m

乗員乗客 【乗客定員】 4,180人 【乗組員数】 1,500人
【客室数】 1,025室

運航会社 ノルウェー ジャン・クルーズライン (アメリカ)

2. 参加者

【人数】 3名
【国籍】 アメリカ3名

4. アンケート結果

5.00

平均評価



着物のチョイスが素晴らしく、女性スタッフの方々がとても親切でした。衣装を着て、伝統を学び、写真を撮ることができました。

すべての料理がとても美味しかったです。シェフの紹介を見ることができ、お皿の上の料理を説明したメニューがあったのは助かりました。

3. 旅程 ★印はSPAC俳優によるグリーティング有

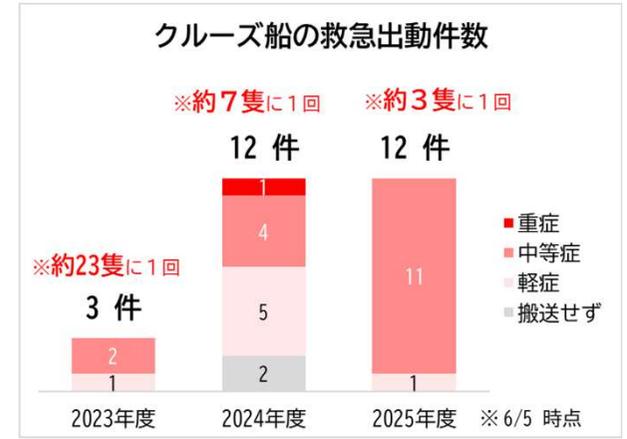
時間	内容
7:00	清水港寄港 (販売開始～7:45)
8:00	清水港 発 ★
9:00	紅葉山庭園 着 ★
9:10	着付体験 ★
10:15	抹茶体験 ★
11:30	ムッシュMOIZUMIによる創作フランス料理 ★
12:00	篠笛・箏・笙(しょう)演奏(古川はるな氏他) ★
12:30	着替え
12:45	紅葉山庭園 発 ★
13:45	清水港 着 ★



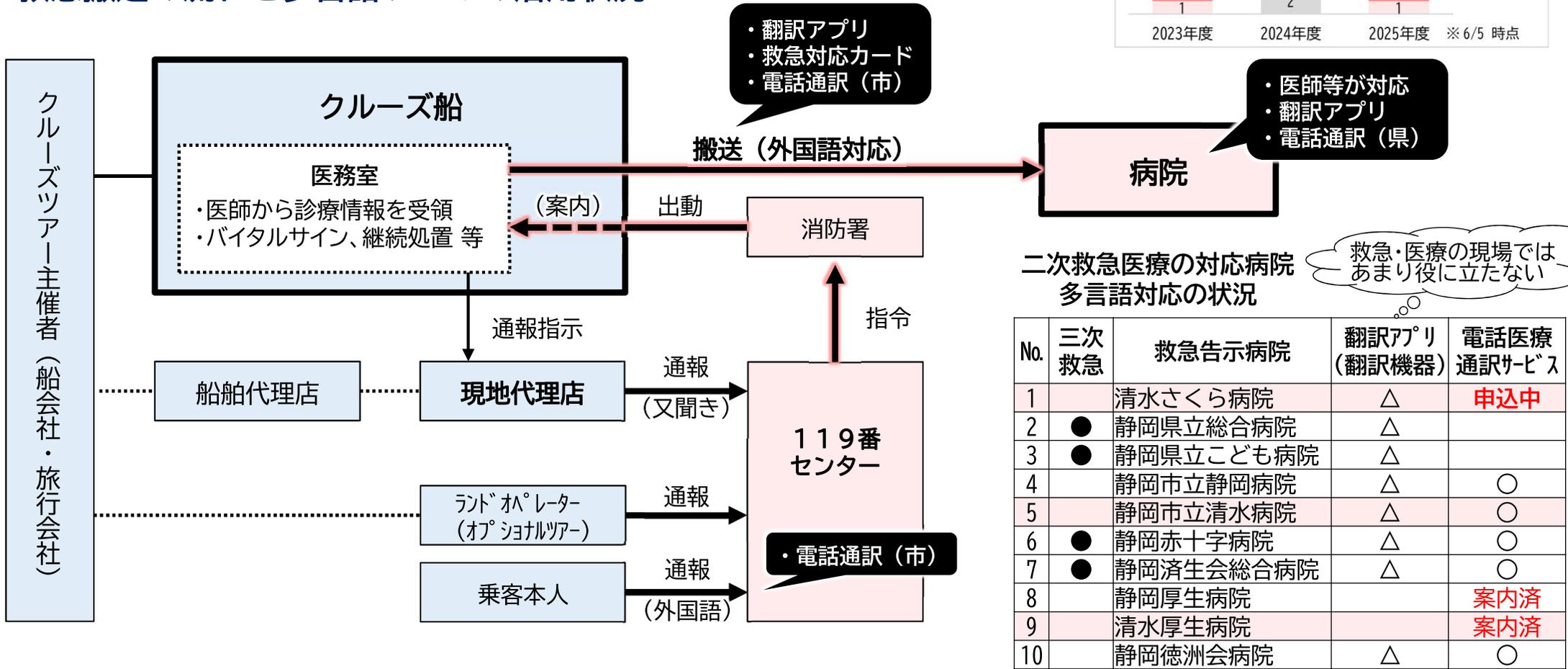
4-3-4 クルーズ客の安全・安心 …… 救急搬送と受入対応

◀現状▶ クルーズ船の寄港増加に伴い、救急搬送の件数が増えている。
静岡市は以下の取組等を実施。

- (病院へ)・「電話医療通訳サービス(県が無償提供)」の活用を依頼
 - ・外国人対応に係る医療機関向けの研修受講を支援
- (救急隊)・クルーズ客など外国人患者の円滑な救急搬送に向けた訓練等



◀救急搬送の流れと多言語ツールの活用状況▶



※ 三次救急医療は、多発外傷等の重篤患者に対応する救命救急センターや小児救命救急センターとして指定を受けた病院 (表の4病院) が担っている。

05 ガストロノミーーツーリズム

5-0 基本認識 ……ガストロノミーツーリズム

「ガストロノミーツーリズム」とは

「ガストロノミーツーリズム」とは、「その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しむ、食文化に触れることを目的としたツーリズム」のこと。(観光庁ホームページより)

静岡市の特性

- 食材の宝庫 (標高3,190mの間ノ岳から水深-2,500mの駿河湾まで標高差約6,000mの地で生産される多様な食材)
- 温暖な気候と豊かな自然
- 人々の営みや交流により受け継がれてきた歴史文化や伝統
- 持続可能な農業・水産業とその流通を行う生産者の存在
- 地域の食材を活かした料理を提供する料理人の存在
- 食を軸とした地域の歴史文化・自然環境を活かした宿泊等の場の存在

(課題)

南アルプスから駿河湾までの標高差6,000mの自然の中で育まれた豊かな食材、その背景にある歴史文化や伝統、地域の生産者や料理人など、十分に活かされていません。

来訪者がその背景にある歴史や食文化に触れながら、食の豊かさと深み(滋味・JIMI)を楽しむという

“静岡市ならではのガストロノミーツーリズム”を推進し、観光消費額の増加につなげる。

(案) JIMI(滋味)ガストロノミー in Shizuoka をブランド化 (検討中)

5-1 静岡市型ガストロノミーツーリズムの目指す姿

静岡市型ガストロノミーツーリズムの定義

地域の食を取り巻く歴史や文化、環境を守りながら、食の豊かさと深み(滋味・JIMI)をもたらす

「地域社会と資源の持続・再生可能性」を重視した静岡市ならではのガストロノミーツーリズム

【ブランドコンセプト】

豊富な食材 × サステナブル

本市の有する豊富な食材を未来にも繋げていくため、サステナブルという視点を掛け合わせた**独自性と価値の高まり**、またそれによる**消費者の共感**を得ることで静岡市ならではのガストロノミーツーリズムを推進する。

『静岡市型循環・再生可能な食文化観光』に必要なこと

- ・豊富な地元食材を使用していること
- ・循環型(Circulating)、持続可能(Sustainable)、再生可能(Regenerative)
- ・生産者や料理人との交流があること
- ・「食材のうま味」「味わい」だけでなく、「物事の豊かさ・深さ」、「精神的な満足感」をもたらす

JIMI
～SHIZUOKA～

©t. nanba

目指す姿

◇持続・再生可能性を重視した静岡市ならではの食体験ができる場が多数存在している

◇「静岡市の食文化がすごい」というブランドイメージが定着し、静岡市を訪れる人が増える

5-2 静岡市型ガストロノミーツーリズムの取組

実現に向けた取組

静岡市型循環・再生可能な食文化観光を推進していくため、生産者・料理人・消費者と新しい食文化を共創する「静岡新食文化共創機構」を活用した静岡市ガストロノミーツーリズム推進プラットフォームを構築。専門家の知見と関係者の共感を得ながら、取り組みを推進する。

① 持続的な推進体制の構築

静岡新食文化共創機構・地域おこし協力隊
市内生産者・飲食業関係者等

②(仮)静岡市ベストレストランアワードの実施

本市の豊かな食材を使用し持続可能性の高い魅力的な料理を提供する飲食店を選出し、広く発信することで、食に関心の高い層への訴求力がある飲食店を増やしていく。

③SDGs認証の拡大

静岡県の「ふじのくにSDGs認証制度」を活用し、市内認証飲食店を拡大していくことで、持続・再生可能性を重視した『静岡市の食文化がすごい』というブランドイメージを定着させる。

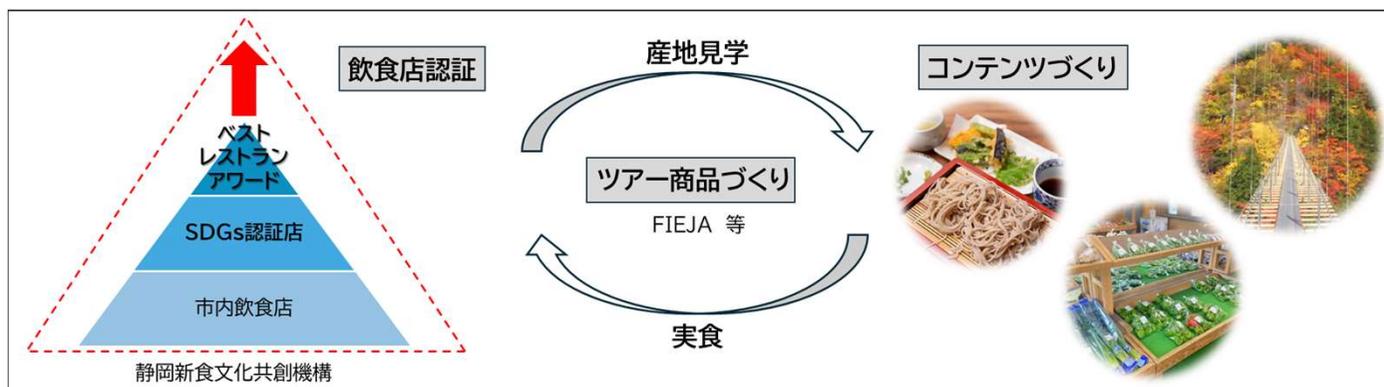
④食体験コンテンツづくり

食の背景にある歴史や文化に触れ、地域の生産者や料理人との交流や体験により食を楽しむことができるコンテンツをつくり、国内外から食を目的に本市を訪れる観光客を拡大する。

⑤プロモーションと地産地消のサイクル

交通の利便性を生かし、とれたての生鮮品を市外に届け食材のすばらしさについての認知を広げるとともに、次は実際に産地を訪れて食材を楽しむプログラムへと繋げ誘客を促進する。

目指す姿



06 お茶ツアーリズム

6-0 基本認識 … お茶ツーリズム

- 茶畑、駿河湾、富士山は静岡市の絶対的強み
- 静岡市はこの強みを活かしてきれていない。
- インバウンドでオーバーツーリズムとなっているところもある。
- **お茶ツーリズムの体験価値で高評価をいただき、それを観光振興と茶生産・販売に活かす。**



6-1 お茶ツーリズム … 位置づけ

1. 前提

●観光政策の現状・課題

- ・市内宿泊者数が少ない（特にインバウンド）
- ・1人あたり消費額が少ない

なぜ？



●課題の要因

- ・魅力的な観光コンテンツの不足
- ・ブランドイメージが確立されていない

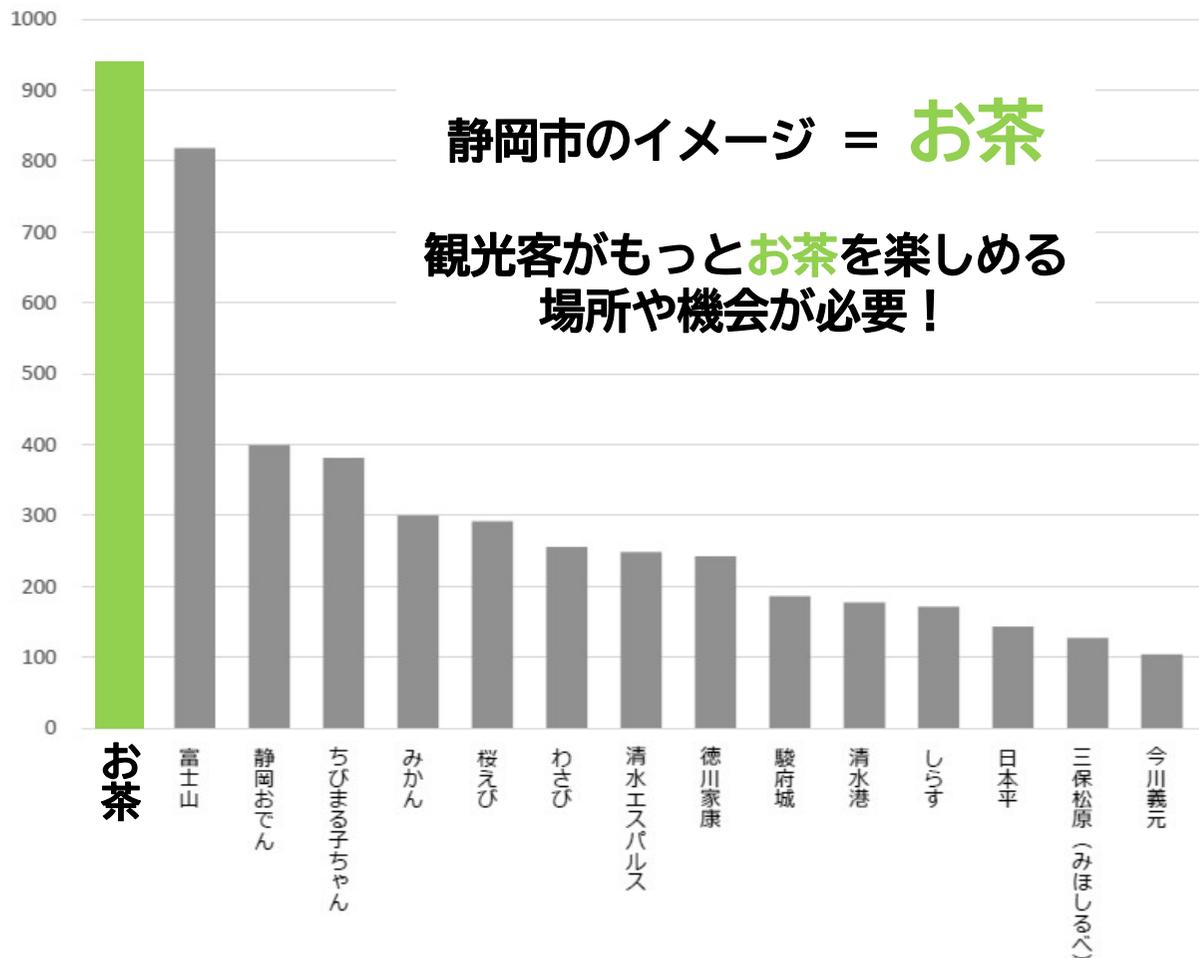
どうする？



●対応

- ・静岡市ならではの観光コンテンツの充実
- ・特に、静岡市のアイデンティティとも言えるお茶(茶畑、茶農家など)の観光活用を強化

静岡市観光基本計画において「お茶ツーリズム」を位置づけ



静岡市のイメージ = お茶

観光客がもっとお茶を楽しめる場所や機会が必要！

出典：「静岡市に関する意識調査(2024年2月)」
※東京都在住1,000人にアンケート

6-2 お茶ツーリズム … 体験価値と現状(これまでの取組)

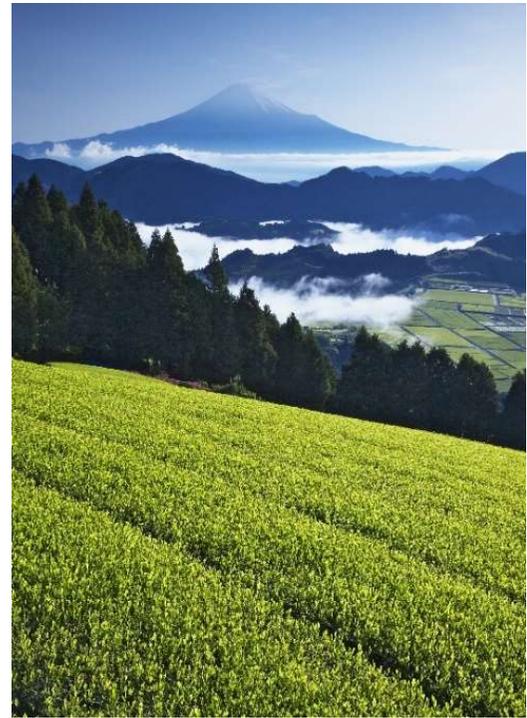
●お茶ツーリズムの体験価値

- ・ **茶畑の景観・環境**を肌で感じることができる
(富士山、雲海、駿河湾、市街地の遠景、日本の原風景、静謐さ、木々や土の香り)
- ・ 茶農家(生産者)との交流を通じて**その土地の暮らしや生業**の体験
- ・ **現地の水や淹れ方**だから味わえる静岡茶の**本当の美味しさ**や**味の多様性**
- ・ **実際に訪れた茶畑で、交流した茶農家**がつくったお茶をお土産として購入

▶ その土地ならではの体験求める本物志向のインバウンド客や富裕層に訴求

●お茶ツーリズムの現状

- ・ 茶農家や茶商での**観光客の受入推進**(公式ウェブサイトやガイドブックで紹介)
- ・ **外国人観光客**が訪れる茶農家が現れている(森内茶農園、豊好園 など)
- ・ 「茶氷」などカフェ・飲食店において**観光客等とお茶との接点**を拡大
- ・ **お茶ツーリズムの扱いに長けた旅行業者等**が存在(そふと研究室、FIEJAほか)



茶畑からの絶景



茶摘み



茶農家での交流



すすり茶 や 飲み比べ

6-3 お茶ツーリズム … 課題、期待される効果

●お茶ツーリズムの課題

- ・観光客は茶畑が美しい4～5月に訪問を希望するが、茶業の繁忙期のため**茶農家は自ら対応できない**
- ・茶農家に代わって茶畑を案内する**ガイドの人数は不足**しているが、**育成に時間がかかる**。
(’25年の新茶シーズンにおいては、リクエストに対しガイドが足りていない。)
- ・「**静岡市の旅＝お茶ツーリズム**」という**ブランドイメージが未確立**
- ・「**お茶のまち**」を感じられる場所・場面、施設・店舗の充実が必要
- ・**茶業×観光業の連携**が不足（茶業関係者の受入体制、観光関係者の茶の利活用）

●お茶ツーリズムの効果

（茶農家など茶業関係者）

- ・従来型の煎茶生産・販売以外の**新たな収入源**の確保（輸出とも同様の意義がある。）
- ・**体験後のお土産**としての**高品質なお茶の購入**や帰宅後の**ECサイト（越境EC）での購入**
- ・訪問者に生産者の想いが伝わり、静岡市のお茶に対する**愛着も深まる**
- ・インバウンドについては、SNS等での**口コミ拡大**を通じて「静岡市＝緑茶」のイメージアップとなり、**輸出促進への波及**にも期待

（観光関係者）

- ・**静岡市ならではの高付加価値な観光コンテンツ**が充実し、観光消費が拡大
- ・「静岡市の旅＝お茶ツーリズム」という**ブランドイメージを確立**
- ・静岡市が推進する“**ガストロノミー**”のほか、“**ウェルネス**” “**サステナブル**” “**グリーン**” など今日的なツーリズムの推進にも幅広く寄与
- ・お土産や飲食店における**茶関連商品の販売への波及**にも期待

6-4 お茶ツーリズム … ターゲット市場、主な取組、推進体制

●お茶ツーリズムのターゲット市場

- (国内) ・ **首都圏・中京圏・県内の女性** (20~40代を中心として想定)
- (海外) ・ **台湾** (安定した訪日需要、旺盛な観光消費、贈答品にお茶を用いる習慣があり関心層が多い)
・ **香港** (静岡空港に定期路線、旺盛な観光消費、レンタカー利用が多く茶畑へのアクセスも可能)
・ **アメリカ** (茶の輸出促進と連動、するが企画観光局が継続的なマーケティングを実施、姉妹都市あり)
・ **フランス** (茶の輸出促進と連動、するが企画観光局が継続的なマーケティングを実施、姉妹都市あり)
・ **クルーズ客** (年間110隻が寄港(乗客定員は延べ18万人)、その土地ならではの訪問先へのニーズあり)

●お茶ツーリズムの主な取組

- ・ **【新規】茶畑ガイドシステム**の構築 … 茶農家に代わって案内可能なガイドを育成
- ・ **【新規】茶農家の受入環境整備** … トイレの改修やキャッシュレス決済への対応など
- ・ **【拡充】海外市場**への発信 … 台湾・香港をターゲットに実施
- ・ **【継続】地域連携DMO推進事業** (するが企画観光局)
 - ⇒ **コンテンツづくり** … 茶氷、するがヌーンティー、ティーペアリング、抹茶書、茶染め体験
 - ⇒ **海外マーケティング** … 米国、フランスのツアーオペレーターとの関係構築

●お茶ツーリズムの推進体制

- ・ 庁内の関係課である農業政策課と観光政策課の情報共有を密に行った上で連携を強化
- ・ 新観光地域づくりPTも活用し、必要に応じて他課や民間事業者とも連携

6-5 お茶ツーリズム … 茶畑体験プログラム高付加価値化補助金

- 趣 旨 観光客に対して茶畑体験プログラムを提供している（年度内に提供開始予定も可）市内茶農家が行う、体験の上質化や快適な受入環境を整える取組を支援し、お茶ツーリズムの高付加価値化を促進する。
- 補助額 補助対象経費（下表）の3分の2の範囲内、上限50万円
- 備考 2025年7月1日～7月30日まで ※申請額が予算額を上回る場合、取組内容を踏まえて採択可否を決定

補助対象経費	詳細	導入例
消耗品費	茶畑体験プログラムの提供に必要な茶器等。 <u>ただし、使い捨てのものは対象外とする。</u>	急須、湯冷まし、茶缶、フィルターインボトル、湯飲み、グラス、テラスへ運ぶボックスやかご 等
役務費 又は 委託料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶畑体験プログラムの予約を目的としたシステム導入及びホームページ制作費。<u>ただし、維持管理にかかる費用や専門家による助言にかかる謝金は除く。</u> 2. 茶畑体験プログラムに関するパンフレット及び説明資料のデザイン費。<u>ただし、印刷費は除く。</u> 3. 通訳や翻訳システム導入費。<u>ただし、ランニングコストは除く。</u> ※ <u>当該経費への補助は20万円を上限とする。</u>	<ol style="list-style-type: none"> (1) ホームページ制作費、予約システム構築費、翻訳費 (2) パンフレット等デザイン費 (3) 翻訳システム導入費
修繕料 又は 工事請負費	茶畑体験プログラムで観光客等の利用に供する施設や居室の改修費。	トイレ、エアコンの設置及び改修費、施設改修費
備品購入費	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶畑体験プログラムの提供時の受入れ先の会場整備に必要な備品 2. インバウンド観光客受入に必要な通訳機器。<u>ただし、汎用性が広いPC及びスマートフォン、タブレット端末は対象外とする。</u> 3. キャッシュレス決済に必要な機器。<u>ただし汎用性が広いPC及びスマートフォン、タブレット端末は対象外とする。</u> 	<ol style="list-style-type: none"> (1) テーブル、いす、パラソル等。 (2) 翻訳機 (3) カードリーダー等

07 日本平・久能・三保の観光の推進

7-0 基本認識・・・日本平・久能・三保の魅力

名勝地や文化的遺産、商業施設や港の機能が集積する当エリアは、国内有数の観光名所であり、その周辺には動物園や文化・芸術施設も立地している。
更には、スマートICが付近に整備され、交通利便性が高まるとともに、新たな交流拠点整備も進められている。

《課題》

- 国内有数の観光資源を有しながら、その潜在力を活かしきれていない。
- ・ 回遊できる交通手段が少ない
- ・ エリア一体の観光施設や飲食・販売・宿泊業者との連携が不足
- ・ 特定の場所で楽しめる活動が少ない

《取組の方向》

- ・ 名勝地や文化的遺産、商業施設や港の機能が集積する「日本平」「久能山」「清水港」「三保松原」を一体的なエリアと捉えた観光地域づくりに取り組む。
- ・ 従来組織及び新観光地づくりプロジェクトチーム内で資源の活用やアクセス、周遊等の幅広い検討を行う。

《目指す姿》

観光客・事業者・生活者いずれにとっても魅力的かつ持続可能な観光エリア

日本平山頂・久能～三保（共通）

静岡市を代表する持続可能な観光エリアとして、食、景観、歴史を活かしたコンテンツが充実し、年間を通じて多くの人を呼び込むとともに、観光エリア内の回遊により、市全体の滞在時間の延長や観光消費額の拡大が図られている状態

日本平山頂

富士山や駿河湾を望む「絶景」を楽しむとともに、自然環境を活かした体験コンテンツやアクティビティが充実し、滞在時間の延長と周辺エリアとの回遊性の向上が図られている状態

久能（久能山東照宮含む）～三保

年間を通じて「食」や「海の景観」の魅力による目的地化とともに、「表参道」として山下を起点とした東照宮・日本平方面へのアクセス増や用宗～三保の海岸ルートの回遊性の向上が図られている状態

7-1 日本平・久能・三保の観光の推進

エリア内の主要な観光スポット等



7-2 将来的な日本平周辺の開発に向けた準備

(1) 日本平周辺環境調査(2025年1月~2026年12月)

世界に誇る観光資源である「日本平」を有する有度山エリアは、その魅力や利便性を高めることで、国内外から人を呼び込み、静岡市の発展に寄与する可能性を持つエリアである。

一方で、当該エリアは、貴重な自然環境を有し、「日本平・三保松原県立自然公園」の第1種特別地域及び第2種特別地域に該当するため、活用する場合は自然環境の保全が必要となる。

(2) 調査範囲設定の考え方

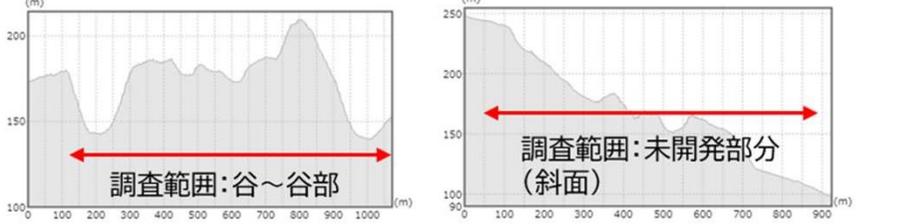


- ・日本平山頂から北側に向けた富士山眺望の方向とする。
- ・開発場所が未定のため、約71haと広い範囲とする。
- ・標高の高い場所からの景観を阻害しないよう、日本平からの下り斜面となる範囲とする(断面図B-B'参照)
- ・山の斜面において、谷部~谷部を範囲とする。(断面図A-A'参照)

(3) 調査による効果

日本平周辺を開発する場合、都市計画法、農業振興地域の整備に関する法律等、様々な規制をクリアする必要がある。

そのうち、今回、静岡県立自然公園条例に基づく、希少な猛禽類のオオタカの生息調査等、2年程度を要する最も期間が長い環境調査を先行して行うことにより、今後、民間事業者から良い提案が示された場合、手続きの短縮化が図られ、結果として早期の実現が可能となる。



※出典:国土地理院ウェブサイト、地理院タイル(標高タイル)を加工して作成

国道150号・山脇大谷線の4車線化整備によって物流ネットワークの強化・観光アクセスの向上

- ・宮川・水上地区～日本平久能山スマートIC～国際拠点港湾「清水港」を結ぶ物流ネットワークの強化
- ・久能山東照宮や三保半島など豊富な周辺観光資源への周遊ルートの創出
- ・緊急輸送路や重要物流道路として、災害時のネットワーク強化

(主)山脇大谷線(小鹿～宮川)

事業区間:駿河区小鹿～駿河区宮川

事業延長:1.5km

事業内容:現道2車線を4車線バイパス整備

完成時期:2040年代

国道150号(久能拡幅)

事業区間:駿河区根古屋～駿河区大谷

事業延長:4.2km

事業内容:現道2車線を4車線へ拡幅整備

完成時期:2030年代



7-4-1 久能

《現状》

○富士山を望む名勝地、国宝久能山東照宮、石垣いちごといった国内有数の観光資源を有しながら、その魅力を十分活かしきれておらず、観光客を呼び込めていない。

《対応》

○個別の観光資源で考えるのではなく、日本平・久能・三保を一体的なエリアとして捉え、地元・企業等の関係者とともにエリアマネジメントで観光地域づくりを行う。

《直近の地元要望》

○久能自治会連合会・久能山東照宮等の連名で、根古屋への観光トイレ整備の要望(2019年)

《ワークショップの開催》

○久能地区で自治会役員や商店街関係者が参加するワークショップを開催(2020年)
→ 意見:「観光トイレがない」「大型バスの駐車場がない」「レンタルステーションや駐輪場があるといい」等



- ①久能山下観光トイレの整備 (2023年)
 - ・久能山東照宮所有地内に設置
- ②久能山下観光バス駐車場の整備 (2023年)
 - ・駐車区画5区画(無料・予約不要)
 - 来訪客利便性向上



《その他》

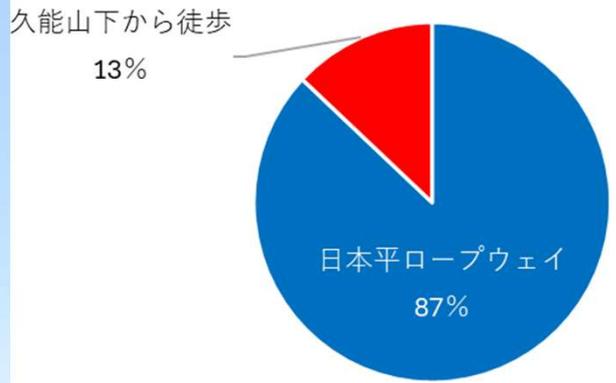
- 商店街前道路の路面整備(完了)
- レンタルステーション設置(石鳥居前・完了)
- エリア一帯の将来像の検討
- 表参道魅力向上策の検討
- 一般駐車場の有り方検討

7-4-2 久能 … 表参道(今後検討)

久能山東照宮への来訪手段は、日本平山頂からのロープウェイまたは久能山下からの徒歩となる。しかしながら、ロープウェイには輸送能力に限界があり、更なる来訪者増加を目指すためには、山下からの徒歩客を増やす必要性が生じている。

そのため、久能山下への交通利便性向上を図るとともに、訪れたいと思われるような魅力を創出するための表参道のあり方について検討する。

久能山東照宮へのアクセス方法



久能山東照宮へのアクセス 人流データ分析

(出典:2023~2024 観光庁観光DX人流データ
活用実証事業 2023.10~2024.11)



久能山東照宮へ向かいながら歴史に気持ちをはせたり、海を見ながら休んだり、
参道商店街で特産品のイチゴなどを食べたり、宿泊して朝日を眺めたりして、
訪れた人が思い思いの過ごし方を行えるように、

久能山東照宮や久能山下、久能海岸を訪れてよかったと感じてもらえるような表参道のあり方について検討。

08 東海道57次

8-0 基本認識 街道観光の魅力

街道観光とは

街道や宿場町などの歴史的な地域資源を活用した観光のこと。

江戸時代、大名行列や多くの旅人が往来した街道には、宿場を中心に歴史的な建造物や、絶景、地元の特産品などが点在している。街道を歩けばその地域の歴史や文化に触れることができ、また、地域の人との交流を通じて、より深く地域の魅力を知ることができる。



丸子宿 ころろ汁の丁子屋



薩埵峠



間の宿 宇津ノ谷



岡部宿 大旅籠柏屋

<具体的な取組>

- 1 東海道57次区市町連携協議会
- 2 駿州の旅日本遺産

8-1-1 東海道57次と静岡市の役割

<東海道53次と57次>

江戸時代に整備された東海道は江戸と京・大阪を結ぶ重要な街道である。

東海道は、歌川広重が描いた浮世絵「東海道五十三次」などの影響もあり、江戸「日本橋」から京「三条大橋」を結ぶ「東海道53次」が広く知られているが、京都手前で分岐し、伏見・淀・枚方・守口の4つの宿場を経て大阪「高麗橋」に至る「東海道57次」もある。

東海道に残る歴史・文化・食など地域資源を活用し、東海道沿線の自治体では、東海道や宿場の地域資源を活用した地域づくり、まちづくり、観光誘客に取り組んでいる。また、各宿場において地域団体も各々で活動を行っている。

<静岡市の役割>

東海道の57の宿場のうち最も多い6つの宿場を有する静岡市が中心となり、自治体間での情報共有と、広く情報発信することで、「東海道」という大きな観光資源を活かした東海道全体への誘客、周遊促進を横断的に進めていく。

⇒詳細は「41 観光」を参照してください。

<東海道53次と57次>



8-1-2 東海道57次 … 東海道57次区市町連携協議会（事務局：静岡市）

静岡市観光基本計画において重点テーマ「歴史」、重点エリア「東海道」に位置づけられた『東海道』の歴史・文化をはじめとする地域資源を活用した面的な取組を展開していく。

(1)東海道57次区市町連携

東海道57次の宿場や街道に残る歴史・文化・食などの地域資源を活用し、東海道への誘客及び魅力ある地域づくりを推進するため、静岡市が事務局となり、東海道57次沿線の地方公共団体が連携した「東海道57次区市町連携協議会」を発足（2025年1月発足）。

【設立趣旨】

- ・東海道に残る地域資源を活用し、広く情報発信することで「東海道」をブランディングし、東海道全体への誘客や周遊による各宿場への滞在を促進する。
- ・行政間・宿場間の連携体制を整え、地域での取組や活動内容を共有することで、地域・団体相互の交流を深め、東海道57次沿線地域が一体となって魅力を高める。

【メンバー/事務局】

- ・設立趣旨に賛同する東海道57次沿線の地方公共団体
- ・関係地方公共団体に順次追加の参加を要請
- ・静岡市が事務局（設立発起人としてのイニシアティブ）

【協議会の取組】

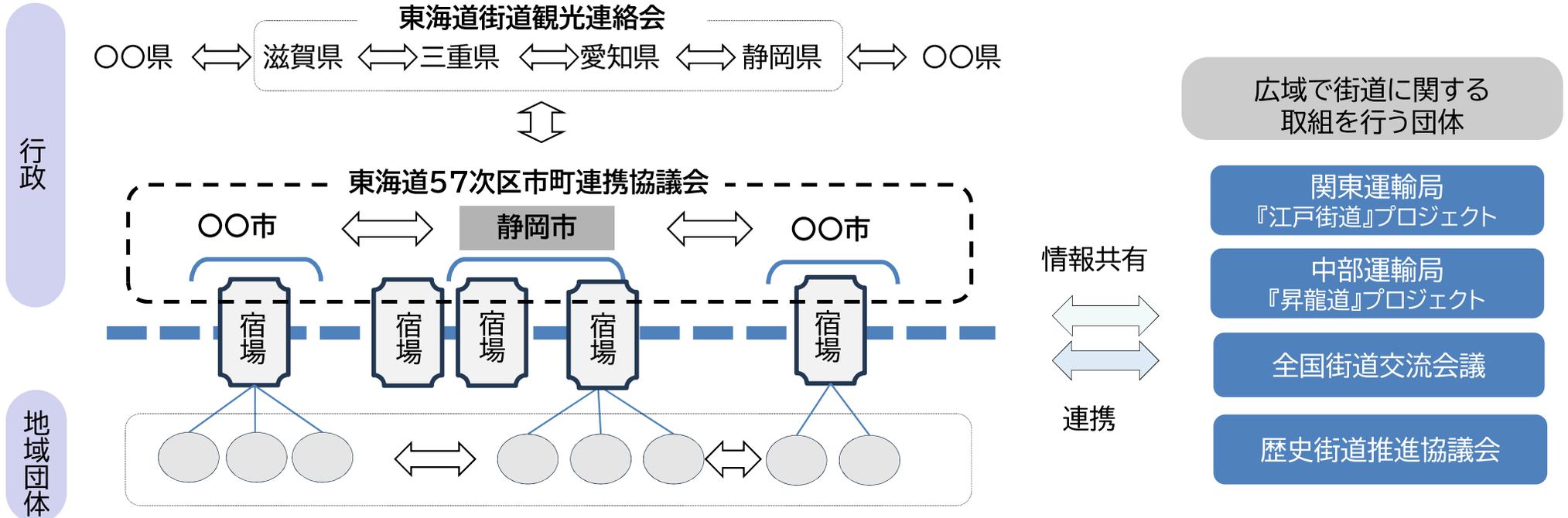
- ・メンバーや各宿場の取組に関する情報共有
- ・東海道57次の情報発信：『しずおか東海道まちあるきweb』内に東海道57次情報を提供するページを設けるとともに、各メンバーホームページとの相互リンクによる情報を発信
- ・共通テーマによるプロモーションの展開を調整中

テーマ（案）：「食」「浮世絵」

（発足時の参画自治体一覧）

	都府県	区市町	宿場
1	東京都	品川区	品川宿
2	神奈川県	川崎市	川崎宿
3	神奈川県	小田原市	小田原宿
4	神奈川県	箱根町	箱根宿
5	静岡県	三島市	三島宿
6	静岡県	藤枝市	岡部宿、藤枝宿
7	愛知県	豊橋市	二川宿、吉田宿
8	三重県	亀山市	亀山宿、関宿、坂下宿
9	滋賀県	草津市	草津宿
10	大阪府	枚方市	枚方宿
11	大阪府	守口市	守口宿
12	静岡県	静岡市	蒲原宿、由比宿、興津宿、江尻宿、府中宿、丸子宿

<連携イメージ>



全国街道交流会議 とは

街道によって結ばれた地域と地域の交流や連携を図り、街道や街道の歴史や文化を活かしたまちづくり、みちづくりを推進することを目的に2002年発足。

街道と街道の歴史や文化を連携の軸とした**広域の地域づくり**を目的に、国、県、市区町村、経済団体等で実行委員会を立ち上げ、各地で全国大会を開催。地域や全国の課題、将来ビジョンに即した大会テーマを設定し、事前勉強会やエクスカージョン等を実施し、大会提言を取りまとめ全国に発信。

●第12回全国大会「しずおか大会」

時代とともに移り変わってきた東海道の意義・役割を様々な観点から検証し、全国の「みち」や「まち」と結ばれた新たな東海道時代へとつないでいくことを目的に開催した。

静岡市・藤枝市の「東海道の『日本遺産』認定」を導くなど、街道のブランド化に取り組んだ。

第12回全国大会(2019年)
「しずおか大会」(静岡市ほか)



大会テーマ
変わる東海道、広がる東海道
～街道が創る未来～

全国街道交流会議「街道交流首長会」

全国街道交流会議の全国大会の成果の一つとして2007年、有志市長らの呼びかけにより**全国街道交流会議の特別委員会**として発足。(2025年5月現在、全国62の自治体が参加)

街道文化・街道観光の振興等に係る**自治体間での情報交換、広域的な連携事業等**を行う。

2025年7月、街道交流首長会会長に静岡市長が就任予定。
東海道57次区市町連携協議会と連携し、街道の歴史や文化を活かしたまちづくり、みちづくりを推進していく。

駿州の旅日本遺産

2020年に日本遺産に認定された「駿州の旅」では、静岡市・藤枝市にまたがる2峠8宿の地域資源を活用し、地域の観光ブランドの確立と地域住民の郷土愛の醸成を通じ、地域経済の活性化を図る。



日本初旅ブームを起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅 ～滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)～

目指す姿：「江戸時代の庶民の旅が追体験できるまち」

⇒江戸時代の旅人が感じた「わくわく感」を味わえるまち

- ・「東海道五十三次」の浮世絵と同じ景色を味わえる
- ・「東海道中膝栗毛」に描かれたような旅のグルメ（美味しい名物など）が味わえ、地元の人の人情に触れ、交流ができる

（個人旅行者をターゲットとし、弥次喜多・二人旅を意識した具体的な事業の組み立て）



旅のわくわくを提供できる地域の「ヒト」を増やす

ひとづくり



みちづくり

旅のわくわくと出会う仕掛けを造成

創出

郷土愛の醸成

2峠8宿のブランドの確立

地域経済の
活性化

コト

旅のしかけづくり

日本遺産の魅力を伝える周遊ツアーや体験プログラムの開発



モノ

美味しいモノ・買いたいモノづくり

オリジナルブランド「駿州堂」商品開発



情報

ターゲットを定めた情報発信

日本遺産ストーリー・魅力の国内外への発信



ヒト

宿場を担う魅力的な人づくり

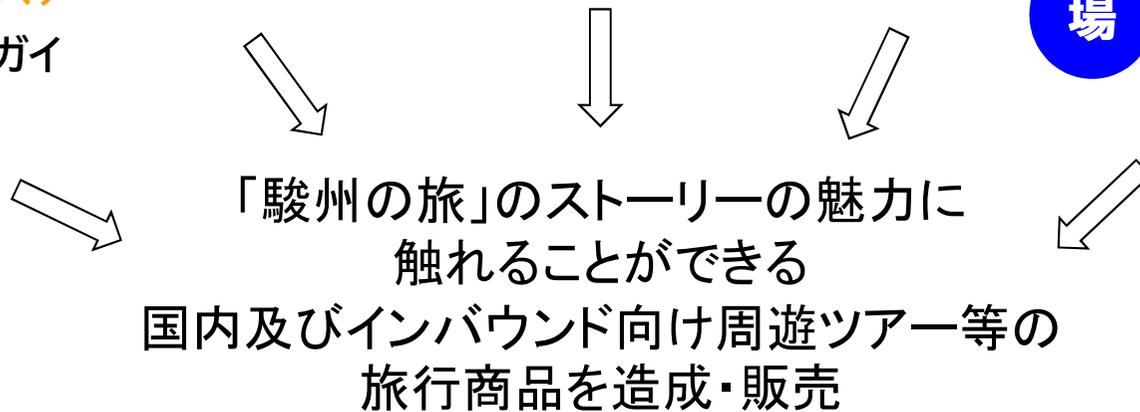
ストーリーを伝えるガイドの育成



場

旅の舞台・2峠8宿の一体感づくり

構成文化財の回遊性向上



来訪者・観光消費額の増加

地域経済の活性化

09 するが企画観光局

9-0 基本認識 …… するが企画観光局の必要性と役割

(必要性)

- ・するが企画観光局(観光協会・DMO)は、観光に関する**専門的な知識**や**蓄積した経験**に基づいて、**最前線で実行する組織**として必要。
- ・静岡市(行政)とともに、観光政策のけん引役となる**組織**として必要。

(静岡市との役割分担)

- ・静岡市は、観光振興に係る**計画・方針**の作成、**予算**の確保、**制度**の立案・運用、**説明責任**など。
- ・するが企画観光局は、事業者と連携した**旅行商品**づくりや**販売促進**(継続的なマーケティング)

(するが企画観光局の強み)

- ・するが企画観光局の職員は**観光の業務**に専従できる。
 - ⇒ 職員に**専門的な知識**や**経験を蓄積**することができる。
 - ⇒ 旅行会社やコンベンション主催団体の**キーパーソン**との**人脈**を**維持・強化**できる。
 - ⇒ 地域の事業者との**共創**に向けた**信頼関係**を**構築**できる。
- ・するが企画観光局は、**観光誘客**に向けて
 - ⇒ 地域の特色を活かした**“尖った”取組**が**実行**できる。
 - ⇒ **ベンチマーク**となる**“成功事例”**を**創出し**、**地域の事業者**に**共有**できる。

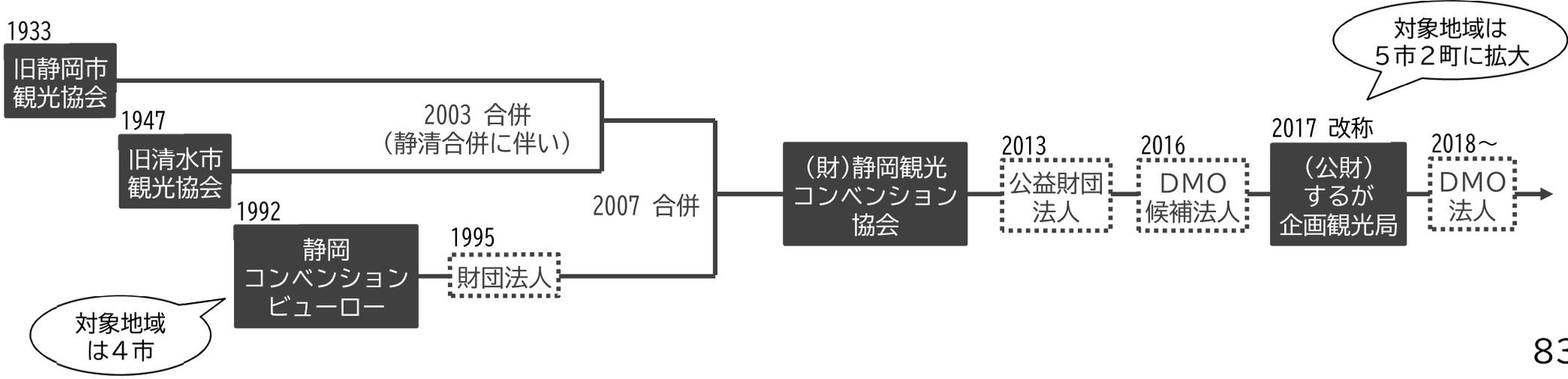
★するが企画観光局には、こうした強みを活かし、より**高度で専門的な役割**が期待されている。

9-1 するが企画観光局 … 組織概要

<p>目的等</p>	<p>静岡県中部・志太榛原地域の文化的、社会的、経済的特性等を活用し、観光関連業の振興と交流人口拡大による地域経済の活性化を促進するとともに、国際的な相互理解の促進、文化の向上及び豊かな人間性に根差した社会の創造に寄与する。（定款より）</p>
<p>基本理念</p>	<p>(ビジョン) 地域の魅力を引き出し、稼ぐ力を高め、選ばれるまちをつくる</p> <p>(ミッション) 静岡県中部地域の観光産業振興により、来訪者の人数・消費単価の拡大を図り、住民の豊かな暮らしの実現に貢献する</p> <p>(目指す姿) 静岡県中部5市2町における「観光シンクタンク」と「観光需要をつくる」観光マーケティングのプロフェッショナル</p>
<p>理事長</p>	<p>久保田 隆（浮月楼 会長、前副理事長） ※2023年6月～</p>
<p>職員数</p>	<p>21名 (職位別：専務理事1、事務局長1、事務局次長(兼総務部長)1、事業部長1、総務部3、事業部14) (出身別：プロパー職員11、市OB2、市派遣2、民間出向者3、嘱託職員3)</p>
<p>所在地</p>	<p>(静岡事務所) 静岡市葵区日出町1番地の2 TOKAI日出町ビル9階 (清水事務所) 静岡市清水区辻1丁目1番3-103 アトラス清水駅前1階</p>

9-2 するが企画観光局 …… 組織沿革

- 1933年 「旧静岡市観光協会」設立
- 1947年 「旧清水市観光協会」設立
- 1992年 4月 旧静岡市と静岡商工会議所が中心となって「静岡コンベンションビューロー」設立
- 1995年 9月 「財団法人静岡コンベンションビューロー」設立 ※静岡コンベンションビューローが財団法人化
- 2003年 4月 旧静岡市と旧清水市の合併に伴い、両市の観光協会が合併
- 2007年 4月 任意団体だった市観光協会と、法人格を持ったコンベンションビューローを統合
→「財団法人静岡観光コンベンション協会」発足
- 2013年 4月 公益法人制度改革と市の行革により、公益財団法人へ移行
- 2016年 4月 静岡県中部地域5市2町（静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）を
圏域とする「日本版DMO候補法人」として認定
- 2017年 4月 マーケティング責任者（CMO）に片桐優氏が就任
- 10月 組織名称を「公益財団法人するが企画観光局」に改称
- 2018年 3月 「日本版DMO法人」として登録（登録期間：2018～2020年度）
- 2021年 3月 「日本版観光地域づくり法人（DMO）」更新登録（登録期間：2021～2023年度）
- 2024年 3月 「 ” ” 」更新登録（登録期間：2024～2026年度）



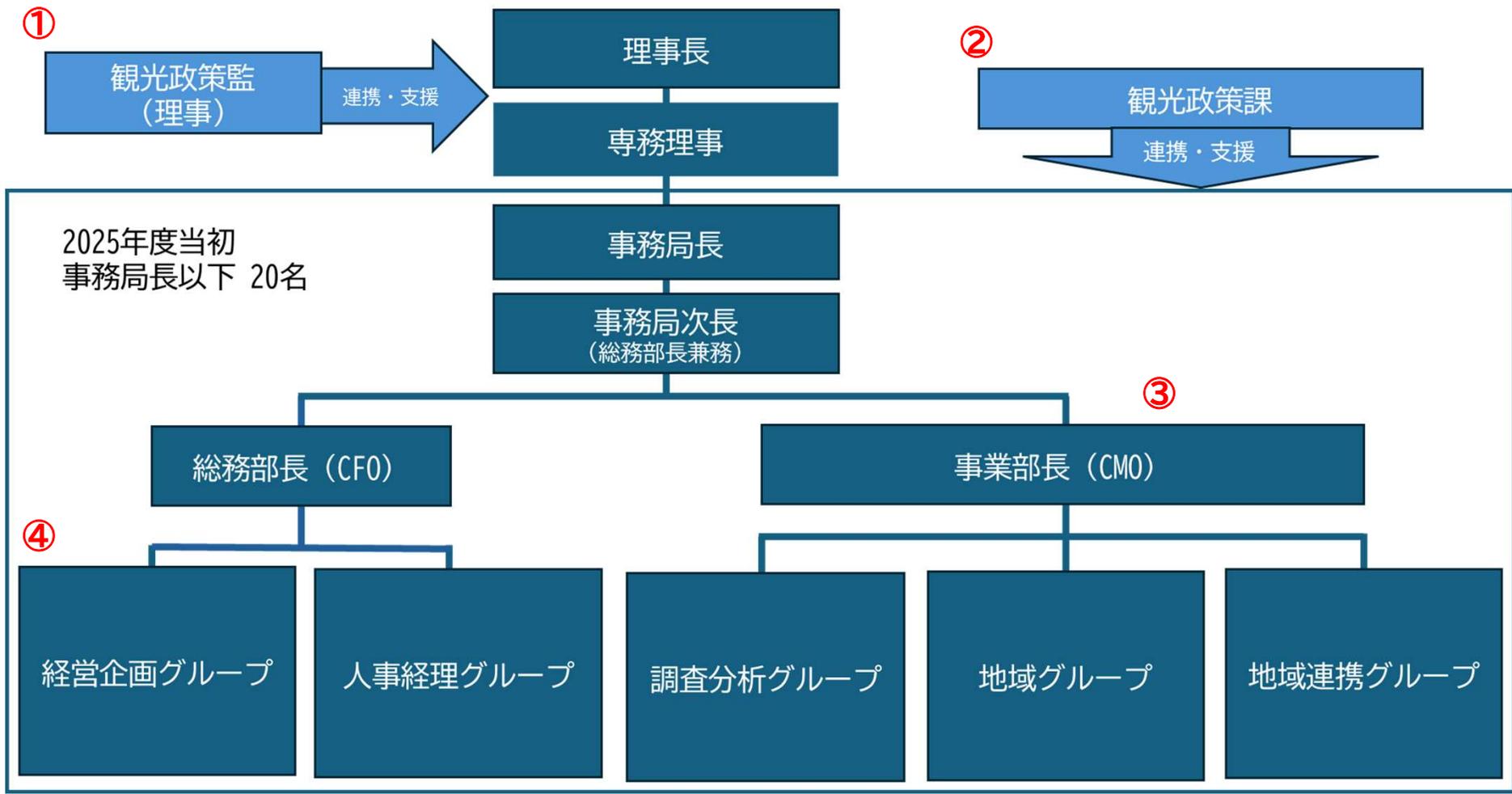
9-3 するが企画観光局 …… 機能と対象エリア

静岡市	島田市	焼津市	藤枝市	牧之原市	吉田町	川根本町
<p style="text-align: center;">地域連携DMO機能</p> <p style="text-align: center;">「静岡県中部5市2町中枢連携都市圏事業」に位置付けて推進</p> <p style="text-align: center;">府川尚弘 氏（元JNTO、元静岡ツアーズビューローディレクターほか）による助言・支援</p>						
<p style="text-align: center;">コンベンション・ビューロー機能 (MICE誘致)</p>				<p style="text-align: center;">エクスカーションや アフターコンベンション などでの案内を行う (負担金はなし)</p>		
<p style="text-align: center;">静岡市 観光協会機能</p>						

9-4 するが企画観光局 … 組織体制の強化

<<概要>> するが企画観光局の体制強化に向けて、**①観光政策監の理事就任(連携・支援)**、**②観光政策課との連携強化**、**③市職員(参与級)の派遣増員**、**④組織経営の担当部署の新設**により組織改革を推進

するが企画観光局 2025年度 組織体制 (改編)



9-5-1 するが企画観光局 …… 主な成果(2022、2023年 外部資金の獲得)

事業名	観光庁「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」																																					
事業概要	<p>ポストコロナに向けた観光地の再生に向けた面的な取組を観光庁が財政支援するもので、宿泊施設や観光施設等の高付加価値化に向けた改修が幅広く対象となる補助事業。対象事業、補助率等は以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="369 406 2049 813"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>補助対象事業</th> <th>補助率</th> <th>補助上限</th> <th>補助対象事業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>宿泊施設の高付加価値化</td> <td>1/2 (2/3)</td> <td>1億円</td> <td>宿泊事業者等</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>観光施設の改修</td> <td>1/2</td> <td>1,000万円(最大2,000万円)</td> <td>民間事業者等</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>廃屋の撤去(跡地は観光利用)</td> <td>1/2</td> <td>1億円</td> <td>民間事業者等</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>公的施設への民間活力の導入</td> <td>1/2</td> <td>2,000万円</td> <td>自治体等</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>実証実験</td> <td>1/2</td> <td>1,000万円</td> <td>民間事業者等※</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>面的DX化</td> <td>1/2</td> <td>2,000万円(最大5,000万円)</td> <td>自治体、DMO、観光協会等</td> </tr> </tbody> </table>			#	補助対象事業	補助率	補助上限	補助対象事業者	①	宿泊施設の高付加価値化	1/2 (2/3)	1億円	宿泊事業者等	②	観光施設の改修	1/2	1,000万円(最大2,000万円)	民間事業者等	③	廃屋の撤去(跡地は観光利用)	1/2	1億円	民間事業者等	④	公的施設への民間活力の導入	1/2	2,000万円	自治体等	⑤	実証実験	1/2	1,000万円	民間事業者等※	⑥	面的DX化	1/2	2,000万円(最大5,000万円)	自治体、DMO、観光協会等
#	補助対象事業	補助率	補助上限	補助対象事業者																																		
①	宿泊施設の高付加価値化	1/2 (2/3)	1億円	宿泊事業者等																																		
②	観光施設の改修	1/2	1,000万円(最大2,000万円)	民間事業者等																																		
③	廃屋の撤去(跡地は観光利用)	1/2	1億円	民間事業者等																																		
④	公的施設への民間活力の導入	1/2	2,000万円	自治体等																																		
⑤	実証実験	1/2	1,000万円	民間事業者等※																																		
⑥	面的DX化	1/2	2,000万円(最大5,000万円)	自治体、DMO、観光協会等																																		
経緯等	<p>2022年度、第3回審査会にて「静岡駅周辺“おまち”エリア」が採択 2023年度、第1回審査会にて「静岡市全域」で採択見送り // 、第2回審査会にて「静岡市全域」と「焼津市全域」が採択</p>																																					
採択内容	<table border="1" data-bbox="336 1029 2105 1516"> <thead> <tr> <th></th> <th>静岡市</th> <th>焼津市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジョン</td> <td>“ふじ”の魅力を活かした「域内周遊の活性化」と「滞在時間の延長」</td> <td>「唯一無二、本物のさかな文化」を堪能できるまち</td> </tr> <tr> <td>事業者数</td> <td>50事業者</td> <td>16事業者(法人14、個人2)</td> </tr> <tr> <td>事業数</td> <td>59事業(宿泊40、観光16、廃屋2、実証1)</td> <td>17事業(宿泊7、観光8、廃屋2)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>32.6億円</td> <td>8.0億円</td> </tr> <tr> <td>補助金額</td> <td>16.0億円</td> <td>4.1億円</td> </tr> <tr> <td>面的DX化計画</td> <td>有(人流データの独自での取得・分析・活用)</td> <td>有(観光協会ウェブサイト、地域OTAサイトの再構築)</td> </tr> </tbody> </table>				静岡市	焼津市	ビジョン	“ふじ”の魅力を活かした「域内周遊の活性化」と「滞在時間の延長」	「唯一無二、本物のさかな文化」を堪能できるまち	事業者数	50事業者	16事業者(法人14、個人2)	事業数	59事業(宿泊40、観光16、廃屋2、実証1)	17事業(宿泊7、観光8、廃屋2)	総事業費	32.6億円	8.0億円	補助金額	16.0億円	4.1億円	面的DX化計画	有(人流データの独自での取得・分析・活用)	有(観光協会ウェブサイト、地域OTAサイトの再構築)														
	静岡市	焼津市																																				
ビジョン	“ふじ”の魅力を活かした「域内周遊の活性化」と「滞在時間の延長」	「唯一無二、本物のさかな文化」を堪能できるまち																																				
事業者数	50事業者	16事業者(法人14、個人2)																																				
事業数	59事業(宿泊40、観光16、廃屋2、実証1)	17事業(宿泊7、観光8、廃屋2)																																				
総事業費	32.6億円	8.0億円																																				
補助金額	16.0億円	4.1億円																																				
面的DX化計画	有(人流データの独自での取得・分析・活用)	有(観光協会ウェブサイト、地域OTAサイトの再構築)																																				

9-5-2 するが企画観光局 … 主な成果(2022、2023年 外部資金の獲得)

事業名

観光庁「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」

➤ 複数客室を統合し、デザイン性の高い大型客室を整備



具体的な改修事例

➤ 空き家となっている古民家を改修し、一棟貸し宿を整備



42 文化・文化財

01 文化

- 00 基本認識
- 01 現状分析と課題の整理
- 02 課題の整理
- 03 主な取り組み
- 04 文化施設

02 文化財

- 00 基本認識
- 01 静岡市文化財保存活用地域計画
- 02 駿府城公園の再整備
- 03 文化財関連施設

1-0 文化に関する基本認識

- 静岡市には、大道芸ワールドカップ、Shizuokaせかい演劇祭、登呂遺跡、今川家・徳川家の城下町といった、全国に誇る、「芸術文化(音楽・演劇等)・歴史文化(伝統芸能・歴史等)」のほか、まちなみ・祭り・食など地域に根差した深くて多彩な文化がある。
- 文化は、私たちが、「ゆとりのある健康的な心を維持し、生活を豊かにするために必要なもの」であり、これらを活用して、「訪れる人、住む人を魅了するまち」を目指し、施策展開している。
- 「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」を2016年に制定し、条例に基づき「文化振興計画」を策定し、事業を推進している（計画期間：2023～2030年）。

「音楽・演劇をはじめとした芸術文化」+「芸能や歴史をはじめとした歴史文化」+「祭り・食など地域に根差したしずおか文化」

「ゆとりのある健康的な心を維持し、生活を豊かにするために必要なもの」

静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例

施策

静岡市文化振興計画

1-1-1 現状分析(国・社会の潮流)

(静岡市文化振興計画 第1期(2017~2022年)⇒第2期(2023~2030年)での変化)

◆国の動向

【文化の概念が拡張している】

- ・劇場、音楽堂等の活性化に関する法律の施行(2012)
 - …劇場や音楽堂は単なる施設でなく公演を企画・制作する機関と捉えその基礎となるもの
- ・文化芸術振興基本法を文化芸術基本法へ改正(2017)
 - …文化そのものの振興のみでなく、各関連分野との連携を意識
- ・障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行(2018)
 - …誰でも自己実現できるという障害者福祉政策と文化政策の両立
- ・文化財保護法の一部改正(2019)
 - …保存と利活用の推進により、都市政策(まちづくり)・観光政策と文化政策の両立
- ・文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律の施行(2020)
 - …文化施設を観光施設と捉え、観光政策と文化政策の両立

◆社会情勢の変動

【芸術文化を取り巻く環境の変化】

インターネットの利用は今や日常的になってきており、映画やドラマをスマートフォン等で楽しめるインターネット動画配信サービスの契約者が増加している。近年、鑑賞形態は多様化しており、パソコンで映像を見たり、音楽をダウンロードしている。高校生・中学生では動画視聴や音楽視聴が80%以上、小学生では60%以上が動画視聴をしている(2018青少年のインターネット利用環境実態調査)。

【芸術文化等の鑑賞、参加の形態】

SNS等を活用し芸術文化を発信することで、多くの人気が気軽に芸術文化に触れることができる。

1-1-2 現状分析

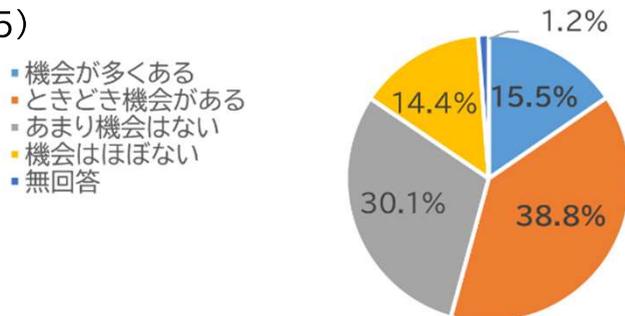
静岡市の現状と課題

①普段から文化活動に取り組む個人は8割以上と多いが、一方で、文化活動に取り組んでいない個人の理由として、「参加したい活動がない」、「情報が入ってこないから」という声があることから、誰もが文化を享受できる機会が不足していることが課題と考えられる。

②家族や学校・職場以外での「人とのつながりの機会がある」人の割合は54.3%で、半数近くの方は、自身が所属する基本のコミュニティ以外で人と関わる機会がない状況だった。文化活動を通じたつながりが不足していることが課題と考えられる。

③「利用しやすい文化施設の整備や拡充が必要である」と回答している人の割合は61.7%で、文化施設の整備が課題と考えられる。

【QA③】家族や職場・学校以外での「人とのつながり」を持つ機会がありますか。(n=825)



(静岡市の文化に関する市民意識調査報告書(2022.3)より)

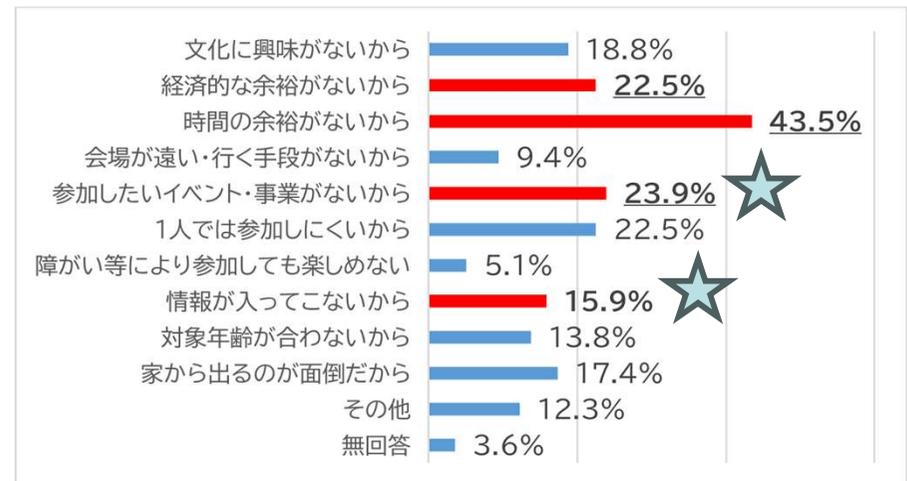
【QA①-1】

普段から文化活動をしている人の割合(n=825)

- ・活動している 82.5%
- ・活動していない 16.7%
- ・無回答 0.7%

【QA①-2】

「文化活動をしていない」と回答した方の理由(複数回答可)。(n=138)



【QA②】文化活動を行う環境をよりよくするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(n=825)



1-2 課題の整理

(静岡市の文化に関する市民意識調査結果(2022.3)に基づく課題整理)

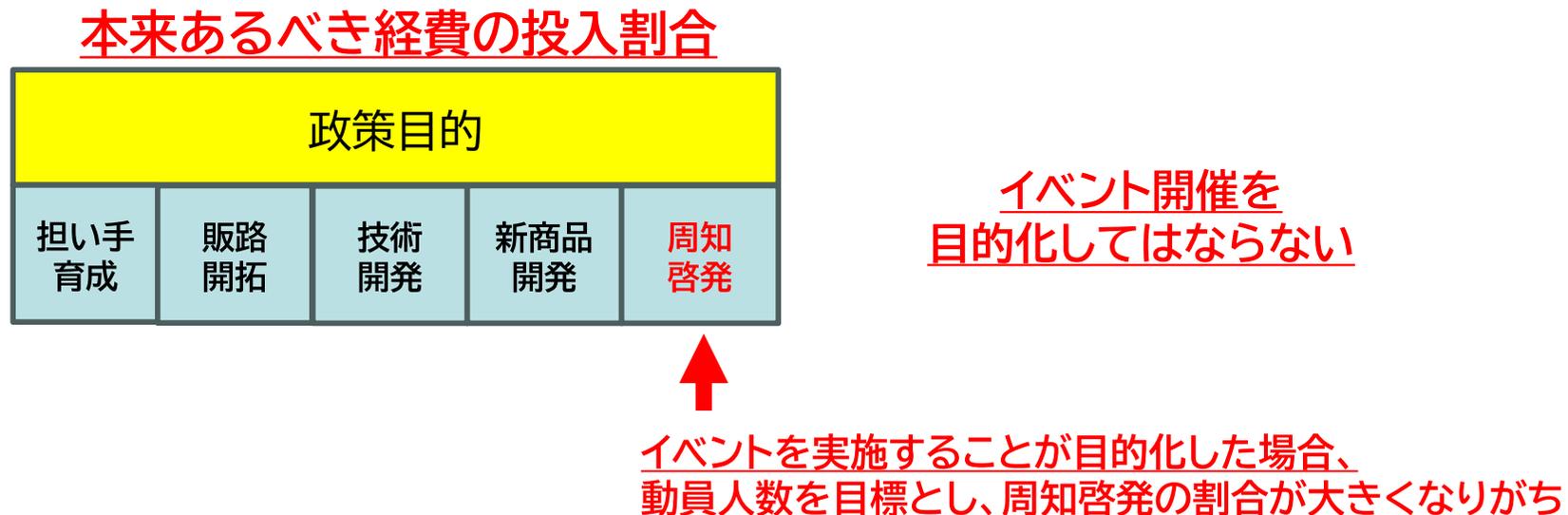
課題	課題を発生させている原因	課題解決に向けた考え方、方向性
Ⅰ. 誰もが文化を享受できる機会が不足。	①誰もが参加できる文化活動の不足 ②情報が届いていないことによる機会損失 情報が十分に届いておらず、参加する機会を失っている。また、活動の魅力が十分に伝わっていない可能性がある。	①誰もが参加できる取組の充実 身体的・心理的・金銭的等様々な障壁にかかわらず、“誰もが”気軽に文化事業に参加する機会を提供する必要がある。本市の文化資源を適切に把握・管理・活用し、市民に還元できる取組を実施する。これらにより、誰もが自己表現・実現できる場を提供する。 ②情報発信の強化 時代とニーズに合った様々な媒体で情報を発信する。
Ⅱ. 文化活動を通じたつながりの不足。	①共感・共創を生み出す取組の不足 一方通行な鑑賞等だけでなく、市民・アーティストを巻き込んだ「文化を活用したまちづくり」への共感・共創を生み出す取組が不足している。 ②多面的な連携・交流の不足 多くの取組が市や関係団体で完結し、外部団体や他自治体、アーティスト等との連携・交流へ繋がっておらず、本市の文化的資源（演劇人材等）を十分に活かせていない。 ③新たな居場所に参画するきっかけが無い 家や職場、学校以外の、文化を通じた新たな居場所に参画するきっかけが無い。	①アーティストと市民による協働の機会の充実 市民参加型アートプロジェクト等の充実により、「日常の風景を文化芸術の創造力で変える＝まちは劇場」に共感・共創する市民を増やす。本市の文化的人材を活かすとともに、文化の担い手を育成する。 ②文化芸術による都市の存在価値の向上 国内外のアーティスト・来訪者が集い交流する文化イベントを実施する。文化を通じたつながりを創出し、国際的な都市の存在感を高める。 ③参画しやすいきっかけづくり 誰もが参加しやすい場所で多様な表現に出会える取組や、運営する側に参画しやすい仕組み作りの実施。 広報の充実により、新たな居場所へ踏み出すきっかけを創る。
Ⅲ. 文化施設の整備が求められている。	誰もが利用しやすい文化施設が不足している。 ・施設の老朽化が進んでおり、施設機能の低下が顕著である。 古い設備（和式トイレ、空調機の効きが悪い等）を改修、更新できていない。 例：静岡市民文化会館（築40年以上） 静岡音楽館（築29年）等 ・バリアフリーやユニバーサルデザイン等文化施設の多様な利用に係るニーズへの対応ができていない。	老朽化した施設や設備及び多様化するニーズに対応する改修 ・天井や外壁等の改修により利用者の安全を確保し、空調設備等を最新の機器に更新することで、施設機能を向上させると共に環境性能を高める。 ・ユニバーサルデザインを取り入れ、障がいや性別等による理由で利用を妨げない施設への改修を実施する。

1-3-1 主な取り組みの一覧

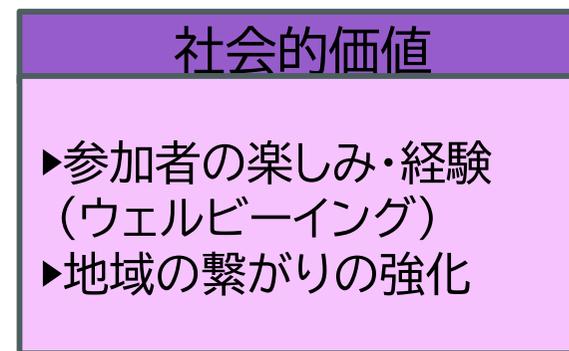
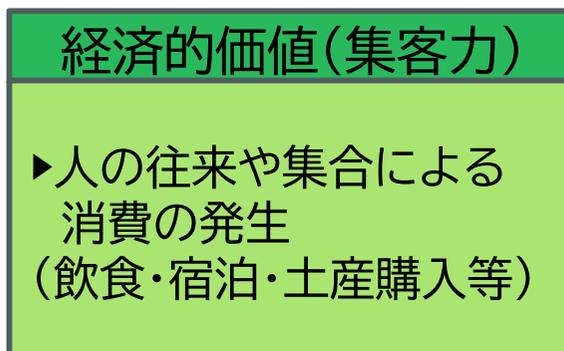
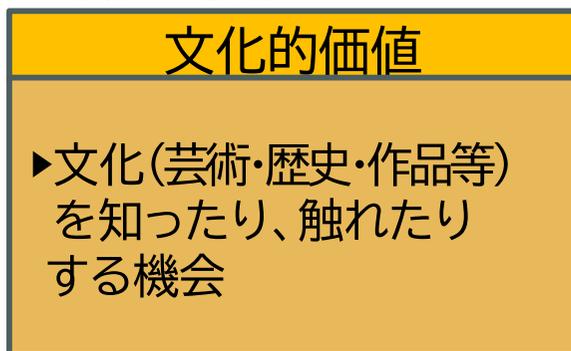
No.	課題解決に向けた考え方、方向性	取組内容
1	誰もが参加できる取組の充実	・静岡駅地下広場、商業施設前、商店街アーケードにおいて、プロの交響楽団による「まちかどコンサート(年40回程度)」の実施など
2		・市に認定された大道芸人などのパフォーマーが街中で演じる「まち劇スポット」、駅などに設置された誰もが弾ける「ストリートピアノ」の設置など
3		・2か年にわたる練習により、自身が俳優となり舞台にあがる「静岡市こどもミュージカル」の実施など
4		・市民ギャラリーにおける「障がい者アート展(絵画展)」の開催など
5	情報発信の強化	・ホームページやSNSによる(文化関連事業の)情報発信のほか、ロゴマーク()の活用など
6	アーティストと市民による協働の機会の充実	・公園や道路など日常の場所で、市民とアーティストがともにワークショップやパフォーマンスをすることでまちの魅力を再認識する「ストレンジシード」の開催など
7	文化芸術による都市の存在価値の向上	・大道芸ワールドカップ、Shizuokaせかい演劇祭を世界から注目されるフェスティバルに磨き上げ ・ユネスコ世界記憶遺産「朝鮮通信使に関する記録」を軸とした文化交流
8	参画しやすいきっかけづくり	・静岡市に根付いた文化にふれるとともに、風物詩でもある「静岡まつり、清水みなと祭り等」の開催支援など
9	老朽化した施設や設備及び多様化するニーズに対応する改修	・静岡市民文化会館をはじめとした、各文化施設の修繕、改修の実施など

(参考) 基本認識 イベントの実施目的と価値

- 1 イベントは、政策（目的）を達成するための手段の一つであるが、開催することが目的化していることが少なくない。常に「何のために実施しているのか」を意識する必要がある。



- 2 イベントには文化的価値、経済的価値、社会的価値の3つの価値が存在し、行政が支援するイベントは、この3つの価値を意識したものでなければならない。



(参考) 静岡市の市民の力 (「安倍川花火大会」・「清水みなと祭り」を例にして)

この2つの歴史ある大規模な催しは、主催はよくある「実行委員会」形式。実行委員会形式の通常の運営形態は、イベント企画支援会社の運営企画のもと、ボランティアが支える形である。

しかし、次の2つの催しの実行委員会は、**自治会や市民有志が主体となった組織体制を有しており、市民が企画・運営のみならず、資金面(協賛金集めなど)でも大きな役割を果たしている。**

(例1) 安倍川花火大会(2025年で72回目)

【実施組織】安倍川花火大会本部(駒形・新通・田町・長田北・長田東の各連合自治会長・自治会員など約80名)

【事業概要】安倍川河川敷における花火打ち上げ(約1~1.5万発)、ドローンショーの開催

- 歴史:1953年、静岡大空襲からの復興や戦没者慰霊・鎮魂の願いを込めて始まる(2025年で72回目)。
- 集客力:来場者延べ57万人(2024年度 主催者発表)。来場者の周遊も啓発。2023年からドローンショーの実施で、市外からの集客力が高まっている。
- 市民への影響:地域に根付く祭りとして多くの市民の楽しみに。静岡市最大の花火大会として地域住民の誇りとなっている。



(例2) 清水みなと祭り(2025年で76回目)

【実施組織】清水みなと祭り実行委員会(清水区在住の市民を中心に約200名(会社経営者~学生など幅広い。))

【事業概要】港かつぼれ総おどり、海上花火大会、次郎長道中、神輿渡御など

- 歴史:1947年、終戦直後の復興、市民の心に明るさを取り戻すため、清水港開港記念日に併せ始まる。清水港の歴史の再認識のほか、地踊りなど伝統や歴史の継承も行われている。
- 集客力:来場者延べ41万人(2024年度 主催者発表)。特に「海上花火大会」は市外からも集客力がある。
- 市民への影響:踊りを通じて、一人ひとりが自己表現・自己実現により心が豊かになるほか、参加団体や地域の一員であるという帰属意識や郷土愛が強く育まれている。



(参考) 静岡市の市民の力が中心となっているイベントの例

安倍川花火大会、清水みなと祭りを含む4つの大規模イベントは、文化的価値、経済的価値、社会的価値がいずれも高いものとなっている。

	静岡まつり	安倍川花火大会	清水みなと祭り	大道芸 ワールドカップ
開催時期	4月	7月	8月	11月
運営形態	市民有志の実行委員会	駒形・新通・田町・長田北・長田東の各連合自治会など	市民有志の実行委員会	市民有志の実行委員会
生み出される価値	<p>【文化的価値】 ・徳川家康公にちなんだ駿府における時代絵巻</p> <p>【経済的価値】 ・来場者延べ人数69万人(主催者発表・2025年) ・特に「大御所花見行列」は高い集客力あり</p> <p>【社会的価値】 ・「駿府登城行列」、市民総踊り「夜桜乱舞」への市民参加 ・地域の絆の維持</p>	<p>【文化的価値】 ・戦没者の慰霊と鎮魂、復興への願いを込めて始まる</p> <p>【経済的価値】 ・来場者延べ人数57万人(主催者発表・2024年) ・集客を通じて駅から会場までの周遊を啓発</p> <p>【社会的価値】 ・地域のつながりの再認識 ・美しいまちへの誇り、いいまちだなと思う心の醸成</p>	<p>【文化的価値】 ・清水港の歴史を再認識</p> <p>【経済的価値】 ・来場者延べ人数41万人(主催者発表・2024年) ・海上花火は市外からも集客力あり</p> <p>【社会的価値】 ・地踊衆や港かつぼれ総踊りなど踊って観て楽しむ市民総参加型の祭り</p>	<p>【文化的価値】 ・パフォーミングアーツ(身体芸術)に触れる機会の創出</p> <p>【経済的価値】 ・来場者延べ人数84万人(主催者発表・2024年) ・国内外のパフォーマーを目当てに高い集客力あり</p> <p>【社会的価値】 ・多くの市民ボランティア(約500人)による運営 ・投げ銭文化(アーティストを評価、応援) ・大道芸といえば「Shizuoka」と世界が認知</p>

1-3-2 主な取り組み①

【演劇・ストリートシアターによる文化芸術創造拠点形成の取組】
～「まちは劇場」で静岡市を求心力のあるまちに！～

1 背景

人口流出、とくに若者の流出が大きな課題になっている本市では、「未来に夢や希望がもてるまち」を目指すべき未来像として掲げている。その実現に向け、文化芸術の分野では「多様な表現への寛容性」を育むことが必要であると考えており、「演劇・ストリートシアター」の特性を活かした取組を進めることで地域の課題解決に貢献していく。

2 なぜ、演劇・ストリートシアターなのか

- (1) SPAC(静岡県舞台芸術センター)・市民参加型舞台集団「ラウドヒル計画」の存在**
 - ・市内に優れた演劇人材が豊富である。
- (2) 市民・企業・地域団体等のストリートパフォーマンスへの高い理解**
 - ・静岡市には、大道芸ワールドカップin静岡により培われた、ストリートでパフォーマンスを楽しむことへの寛容性がある。
- (3) ポテンシャルの高いフェスティバルの存在**
 - ・「Shizuokaせかい演劇祭」に市外から演劇関係者、演劇ファンが集まる。
 - ・「ストレンジシード静岡」は若手演劇人の登竜門になっている。
- (4) 演劇の持つ多様性・寛容性**
 - ・演劇は、他者との関係性を構築するところから始まる身体芸術であり、「他者への寛容性」を身に着ける最適なコンテンツである。



3 課題

- (1) 「春の演劇」は国際的な求心力のあるフェスティバルとして発展途上である**
 - ・海外のストリートシアター関係者との交流が少ない。
 - ・文化芸術分野における都市のブランドイメージが確立されていない。
- (2) 演劇の魅力が市民に伝わっていない**
 - ・演劇・ストリートシアターの取組は、市外からは注目を集めているが、市民の共感共創・参加については、十分とは言えない。
- (3) 文化芸術創造拠点を担う地元人材が足りない**
 - ・演劇・ストリートシアターを軸とするまちづくりの理念に共感・共創するアーティストやスタッフなどの人材が不足している。
 - ・各関係団体の専門人材と連携する仕組み(プラットフォーム)が確立されていない。

4 解決策

- (1) 演劇・ストリートシアターによる都市ブランディングの実施
- (2) 市民の演劇・ストリートシアターへの入口づくり
- (3) 担い手となる人材と共創する仕掛けづくり

5 主な取り組み

※文化庁の文化芸術創造拠点形成事業補助金の活用

(1) 演劇・ストリートシアターによる都市ブランディング

- ① ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」(5月)**
 - ・優れたストリートシアターアーティストを国内外から招聘
 - ・国際ミーティング: 国内外の演劇関係者と出演アーティストとの交流の場の創出
 - ・ファミリー向け参加型企画「なんだ? ワークショップ」の開催
- ② 韓国・釜山市との文化創造交流**
 - ・文化創造都市として先進地である釜山と交流し、合同舞台作品の制作・上演・発信
- ③ 国外プロモーション**
 - ・世界の主要なストリートシアターフェスティバルとのネットワーク構築

(2) 市民の演劇・ストリートシアターへの入口づくり

- ① まちは劇場「まちかどシアター」の開催**
 - ・市民が気軽に演劇と出会う機会の創出
- ② 演劇による学校訪問等アウトリーチプログラムの実施**
 - ・年齢や障がい、経済的理由などにより文化芸術に触れる機会の少ない市民を対象にした演劇の舞台公演やワークショップ

(3) 担い手(共創者)となる人材の育成

- ① 市民協働による「まち」を舞台にしたアーティスト滞在型創作活動**
 - ・地域課題解決型ストリートシアター制作スキルの向上
 - ・文化芸術創造拠点を支える多様な担い手(地域団体、企業、アーティストなど)との共創関係の構築。
- これらの取組を通じて、市民とアーティストがともに文化を創造することができる共創基盤(プラットフォーム)を構築する。



6 主な目標指標(2029年度)

(1) ストレンジシード静岡の国際フェスティバル化

- ① 海外関係者との交流 現状2都市 → 10都市
- ② 公募枠: 海外応募者数 現状0組 → 5組

(2) 地域運営スタッフの充実化

- ① ボランティアスタッフ数 現状56人 → 140人

(3) 波及効果

- ① 春のフェスティバルへの来場者数 現状79,000人 → 120,000人
- ② 経済波及効果 現状2億円 → 4億円

1-3-3 主な取り組み②

【静岡市民文化会館再整備事業】
2024年度以降の取組みと今後の動きについて

1 再整備事業の経緯

静岡市民文化会館は、1978年の開館から46年が経過し施設の老朽化が進み、建物の安全性の確保や現在の市民ニーズへの対応を目的として、再整備事業（大規模改修工事）を行うこととなりました。

2 2024年3月 工事発注 → 不調

2023年度末に基本設計業務が完了し、2024年3月に、実施設計・改修工事・工事監理を一括して発注（公告）を行いました。入札参加者が現れず不調となりました。

3 再発注に向けた取組み（2024年4～8月）

(1) 入札不調の原因と取組み

不調に対する調査・分析の結果から、次の2点を原因と捉え、再発注に向けた取組みを実施しました。

	原因	再発注に向けた取組み
①	積算及び情報整理期間の不足	・事業者から積算に必要な情報を聞き取り、追加提供 ・再公告期間を「情報整理4か月＋積算3か月」の「計7か月」で予定
②	予定価格と実勢価格の大幅な乖離の可能性	・最新の見積を再徴取 ・最新の単価、工種ごとの経費率等を反映

(2) 改修工事費について

2024年5月時点で、見積書の再徴取、事業者ヒアリングを行い、諸経費を工種ごとに算定し直して、再積算を行った結果、約27億円の増額が見込まれました。

基本設計完了(2024.1)	2024.5時点	増加額
約123億円 (設計費等を含む)	約151億円 (設計費等を含む)	約27億円

→8月26日に再発注（公告）を行いました。

4 物価高騰などへの対応（2024年11月）

物価高騰などへの対応のため、2024年11月議会にて、事業費予算の増額の補正予算を上程し、議決されました。

【増額の要因と対応】

2024年8月の公告後も物価水準は引き続き大きく上昇しており、公告時点の予算額と令和7年2月の入札時点での実勢価格に乖離が生じるおそれがありました。入札不調によるスケジュールの遅延を避けるため、入札時までの物価水準の上昇を見込んだ予算額を確保しました。

2024.5時点	2024.11時点	増加額
約151億円 (設計費等を含む)	約161.5億円 (設計費等を含む)	約10.5億円

5 再発注の開札（2025年2月）

(1) 開札結果

2025年2月4日の開札の結果、**入札価格が予定価格の倍以上となり、入札不調となりました。**

(2) 不調要因の検証

開札後、複数の事業者へヒアリングを実施し、不調の要因を検証し、次の3点が主要因と考えられます。

	主要因	概要
①	建築業界の需給のひっ迫	・今回の工事では全国規模の大手ゼネコンや専門施工事業者が必要となる。 ・現在、建築関係の需給がひっ迫しているため、人手不足や建築設備の物価上昇が続いている。
②	補修工事特有の不確実性やリスク	・補修工事は計画通りに作業が進むとは限らず、新築工事と比較すると不確実性やリスクが伴う。 ・受注者はリスクを費用として積算に組み込む。
③	公共工事の積算の構造的な課題	・公共工事は国が示す積算基準に基づいて積算する。 ・①や②のような特殊要因を反映する仕組みがない。

6 現在の対応状況

(1) 改修の大方針

①再開館を遅らせないこと、②再開館後も施設サービスを持続すること、③予算は現在の約161億円の範囲で行うこと、④必要な安全性と快適性を確保することの4点を大方針とし、再整備事業を進めていきます。

(2) 主な改修内容

- ① 特定天井工事
大・中ホールにある特定天井の落下防止措置、及びロビー棟の特定天井の軽量天井化を行い、大規模地震による被害を防ぎます。
- ② 屋上防水と外壁改修
屋上防水や外壁改修を行い、建物の経年劣化を補修し、安全性を確保します。
- ③ 大・中ホールの座席更新
各ホールの座席を更新し、快適な鑑賞環境を確保します。
- ④ トイレのリニューアル・増設
既設トイレの洋式化や床、壁の更新を行います。
各ホール及びロビー棟にトイレを増設し、来館者の利便性向上を図ります。
- ⑤ 設備機器の更新
受変電設備や非常用発電機などを更新し、突然の故障等による休館等を防ぎます。

(3) 発注方式と今後のスケジュール

実施設計と工事を別々に発注し、事業を進めることとしました。
2025年5月に実施設計を発注し、2026年度中に工事着手を行う予定です。
2028年1月に一部開館、同年4月に全部開館を目指し、事業を進めています。

1-4 文化施設(文化政策課 所管施設)

施設名	静岡音楽館 (AOI)	静岡科学館 (るくる)	静岡市美術館	清水文化会館 (マリナート)	静岡市民文化会館 ※令和7年4月～休館中	芹沢銈介美術館	市民ギャラリー	中勘助文学記念館
施設概要 (設置目的)	市民の音楽に対する関心を高め、もって市民文化の向上を図る。	市民が自ら体験することを通して身近な科学に親しみ、及び科学への関心を高める場を提供することにより、市民の創造力及び感性の向上に資する。	多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興する。	市民の芸術文化の向上を図る。		芹沢芸術を永く後世に伝えるとともに、美術に関する知識の向上と文化の発展に寄与するため、芹沢銈介の型絵染、絵画、絵本、陶器等の作品及び美術コレクションの展示及び保管を行う。	絵画、彫塑、書、工芸その他の美術作品の展示会等の場を提供し、もって市民の芸術文化の向上を図る。	中勘助の功績の顕彰や市民の文化・文芸活動の場として広く市民に開放し、静岡市における文芸の推進を図る。
供用開始 (事業開始)	1995年5月	2004年3月	2010年5月	2012年8月	1978年11月	1981年6月	1989年10月事業開始	1995年6月事業開始
運営体制	指定管理者	指定管理者	指定管理者	指定管理者 (PFI)	-	直営	直営	直営
運営経費 (R7予算)	36,954万円 ※指定管理料及び修繕料等を含む	31,284万円 ※指定管理料及び修繕料等を含む	34,900万円 ※指定管理料及び修繕料等を含む	29,164万円	-	4,541万円	740万円	958万円
写真・外観							 	 

(参考) 彫刻作品とそれが置かれる空間の関係性(なんばの私見)

- 作品の制作者が、(存命なときに) 作品をどこかの空間に置くときは、「作品と空間の関係性」について制作者の意思がある程度反映される。
- 作品の制作者ではないものが、作品をどこかの空間に置くときは、「作品と空間の関係性」について相当の考慮が必要。

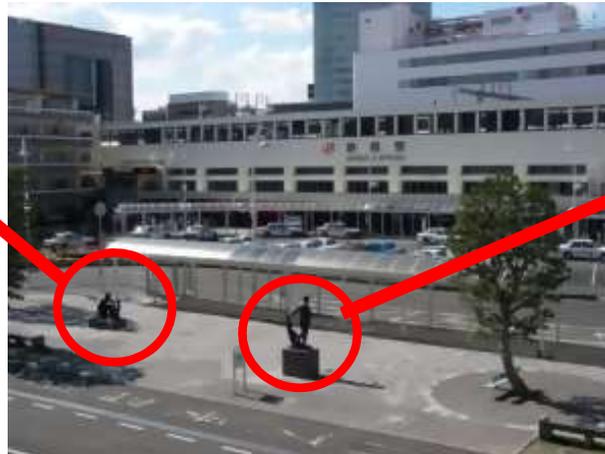
【参考】 静岡駅南口にあるルノワール彫刻像

静岡市が南口駅前広場整備に伴い、地域の魅力向上や、賑わいの創出のため、文化が感じられるシンボリックなモニュメントとして、親しみやすく、知名度の高いルノワール像を設置した。

→今後予定している静岡駅南口の再開発の機会に、作品を設置する「ふさわしい場所」を検討する。



洗濯する女



静岡駅南口 ルノワール彫刻像



勝利のヴィーナス

(参考) 静岡駅南口にあるルノワール彫刻像の設置経緯

・都市の玄関口、都市の顔としての美観と、さらに人が集まる広場のコミュニティの醸成のため、広場内へのシンボルの設置が必要との認識のもと、現南口駅前広場の整備計画の中で、モニュメントの設置は基本構想段階から考えられていた。

・検討の中で、明るく、親しみやすく、分かりやすくかつ知名度が高い彫刻作品が好ましいということで、探した結果、日動画廊にルノワールの彫刻作品があることが判明し、当該作品について検討した結果、南口のシンボルとしてふさわしいという結果になった。

・ルノワールは知名度も高く、彫刻作品も一級品であり、ルノワール特有の温かな雰囲気は駅前広場の空間形成に役立つものと考え選定された。

・ルノワール彫刻の設置は、南口広場の象徴として南口のイメージチェンジに欠かせないものであり、コミュニティづくりへの大きな効果を期待した。

・なお、設置箇所は、一般車やツインメッセなどへの送迎バスの乗降場があり、二つの銅像を設置しても広さに余裕のある、南側の歩行者広場に設置が決定された。

※取得・設置は、当時の「静岡市彫刻及びモニュメント検討会議設置要綱」に基づき検討会議に諮っている。

「新たな価値の創造・共創」の時代の実務家公務員の技術力 難波 喬司 静岡新聞社P217において
秋元 雄史 氏の著書「日本連騰 現代アートを旅する」P40(抽象絵画の鑑賞方法について)を引用

【同書P40】

「では、抽象絵画の目的は何でしょうか。

それは「体験」です。現代の抽象絵画の多くは、その作品が提示する空間を「体験」することを目的に制作されています。

それゆえ作品は、人間のもつ根源的な感覚に訴えかけてきます。というと難しくなりますが、要は、陽射しを浴びたり、そよ風を受けたりするのが気持ちよいと感じるように、その作品がもたらす空気感に身をゆだねてほしい、ということです。人が光や風を受けて快感を覚えるのに、理屈はありません。それと同様に、抽象絵画の鑑賞に「理解」は不要なのです。」

【参考:同書P155-156】

彫刻家 安田 侃氏とイサム・ノグチ氏の「作品と設置場所の関係性」を比較した上で

「余談になりますが、今日、現代アートを用いた公共物が多数ある中、置かれる場との調和を考え抜いたものは必ずしも多いとはいえません。遠くから見つめたほうがよい作品を狭い場所に置いたり、逆に閉ざされた空間で引き立つ作品をだだっ広い空間にぽつんと置いたりしています。それではアートと場所との幸福な関係は生まれません。時にはアート作品が、ただの障害物や風景の邪魔に見えてしまうことでしょう。」

安田の作品は、それがまずありません。彼の彫刻が置かれることで、その場の景観はより心地よいものに引き立てられます。人工的なビルの中に置かれれば、その建物の役割をもの静かに語るモニュメントになり、同時にそこを利用する人の心のよりどころとしても機能します。だから彼の作品を見た人はみな、幸せな気持ちになるのです。」

同著 (P iv~v)

長い間、絵画や彫刻は美術館やギャラリー(画廊)にあるものとされてきました。

(中略) (1960年代にアーティストのダン・グラハムのアーティストへの「公共圏に出よ」との呼びかけなどが影響して)

こうして、美術館やギャラリーの外に広がる公共空間で芸術活動を行う作家が増えていきました。およそ1960年代を分水嶺に現代美術は閉鎖的システムから飛び出し、より広い社会に参入し始めたと言えます。そうした芸術実践は、前衛(アヴァンギャルド)美術と呼ばれるようになりました。

(なんば注)

彫刻は美術館の外の公共空間に広がるようになってきたが、その彫刻がどこにあるべきかについては、十分な検討が必要。しかし、そのような検討はあまり行われていないと認識。

(参考)アーティストや建築家の3つのタイプ(なんばの私見)

「実務家公務員の技術力」 P214～215

アーティストや建築家には3つのタイプがあることに留意したい。

コンテクスト派：場の力を読み解き、建物や作品を場に溶け込ませつつ、場の力を高める

モニュメント派：場の力は関係なく、建物や作品自体を目立たせる

コモンズ派：建築物や空間をコモンズ（地域社会の共有地）として捉え、建築物や空間を新しい生活や文化を生み出すダイナミックな場として認識する

モニュメント派の究極は、場の力と対立したもの・対極にあるものを意図して持ち込み、それで自分の作品を際立たせるタイプである。

2-0 文化財についての基本認識

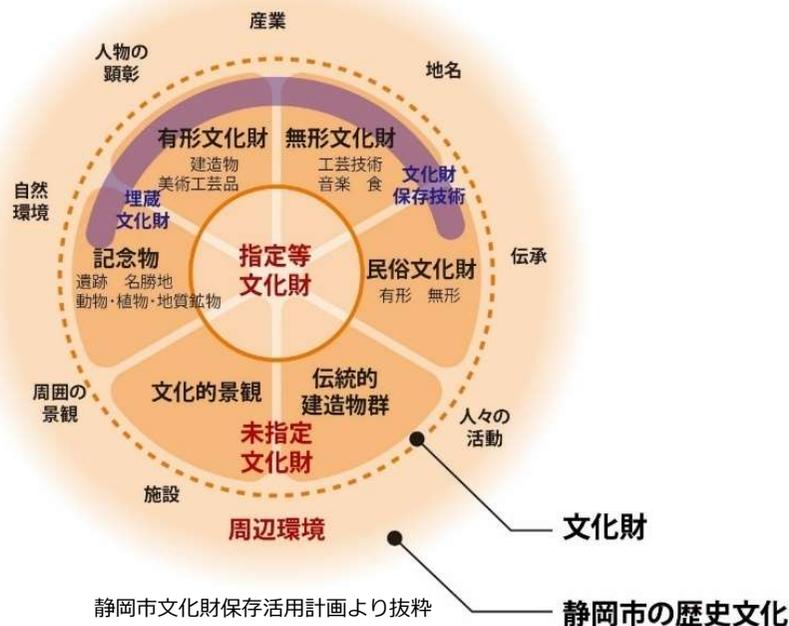
(1) 静岡市の文化財(歴史文化)の現状

静岡市では、豊かな自然環境のもと、特徴ある多様な歴史文化が育まれており、それらを守り活かし次世代に引き継ぐため、歴史博物館など歴史文化の魅力発信の拠点整備や、有形文化財の保存修理の支援等を推進してきた。

○文化財とは

静岡市内には、特別史跡登呂遺跡や国宝久能寺経をはじめ、現在331件の指定・登録文化財が所在し、市の歴史文化を伝える資源として受け継がれている。

さらに、指定等の文化財だけでなく、静岡市にとって特徴的なものや市民が身近なものとしている未指定の文化財もあり、これらを広義の文化財としている。



(2) 静岡市の文化財(歴史文化)の課題

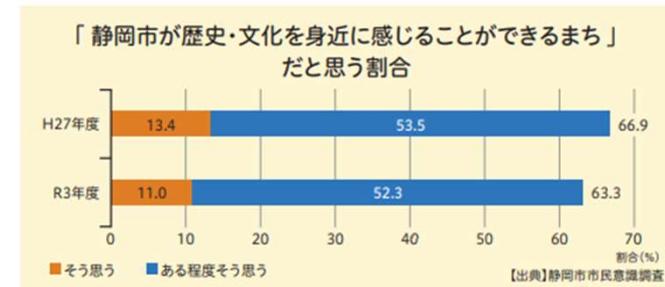
○課題

- ・文化財が廃棄・滅失し、継承されなくなっている。
- ・文化財は所有者の努力だけでは、守り活かし次世代につなげなくなっている。

○原因

- ・市民の歴史への関心の低さ
- ・地域の歴史文化の担い手の不足

静岡市では、歴史文化の魅力発信や文化財の保存の支援を推進してきたが、「静岡市が歴史・文化を身近に感じることができるまち」と思う市民の割合は減少しており、文化財(歴史文化)に対する市民の関心が高まっていない。



第4次 静岡市総合計画⑤文化・スポーツ分野より抜粋

歴史文化の国内外への魅力発信により、市民の地域の歴史文化への愛着や親しみを醸成するとともに、保存・活用の推進を通じた地域の文化財・歴史文化の魅力向上が求められている。

2-1-1 静岡市文化財保存活用地域計画



静岡市文化財保存活用地域計画

令和6年12月
静岡市

静岡市文化財保存活用地域計画

【策定】

2024年12月

【計画実施期間】

2025年度

～2030年度(6年間)

【位置づけ】

文化庁認定

第4次総合計画 個別計画

静岡市におけるそれぞれの地域性を大切にしながら市の歴史文化の特徴を明確にし、市民の財産として文化財を未来へ継承するため、「**静岡市文化財保存活用地域計画**」を策定する。

1. 計画が目指す将来像

**静岡市の文化財が活用され「市民の財産」として
未来に継承される**

2. 計画作成の背景

文化財は、「市民の財産」であり、地域文化のよりどころであるが、文化財に対する関心の低さや担い手不足などによる文化財の価値の喪失の危機などが拡大している。またその一方で、地域活性化等への文化財の役割が増大している。

3. 計画の内容

(1)所有者や行政、市民等、社会全体の力「地域総がかり」で指定の有無に関わらず文化財の保存活用に取り組む。

(2)静岡市の歴史文化の特徴から6つの「関連文化財群」、1つの「保存活用区域」を設定し、保存活用に取り組む。

(3)文化財の保存と活用の取組みにあっては、4つの方向性 **① 知る、② 守る、③ 活かす、④ 皆で取り組む**に基づき、地域総がかりで行う。

2-1-2 静岡市文化財保存活用地域計画

計画では、静岡市の歴史文化の特徴から6つの「**関連文化財群**」、1つの「**文化財保存活用区域**」を設定し、保存活用に取り組む。

関連文化財群

静岡市は、特有の自然環境に影響を受けながら、人々の社会形成のなかで特色ある歴史文化が生まれ、数多くの文化財が受け継がれてきた。その歴史や文化の特徴を、以下の**6つの視点**でまとめ、これを「**関連文化財群**」とし、一体的かつ総合的な保存と活用に取り組む。

1 川がつくりだした静岡・清水平野に広がる豊かな暮らし

登呂遺跡、長崎遺跡、薩摩土手 など

2 連綿と続く政治と文化の中心地

賤機山古墳、駿府城跡、静岡学問所、静岡市役所本館 など

3 街道の往来と人々の交流

興津清見寺、丸子宿、久能山東照宮、小島陣屋跡など

4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化

三保松原、鉄舟寺、日本平、神部神社浅間神社社殿など

5 オクシズに息づく伝統文化

有東木の盆踊、焼畑農業、漆の生産技術など

6 海と共存する歴史文化

次郎長生家、清水灯台、由比お太鼓祭りなど



登呂遺跡出土遺物



神部神社浅間神社社殿



小島陣屋跡



名勝日本平



有東木の盆踊



旧高木家住宅(次郎長生家)

文化財保存活用区域

多様な文化財が集積し、文化財に関連する積極的な取組が行われてきた蒲原地域を先導的モデル区域として**文化財保存活用区域**に設定する。今後も市内各地域の機運の高まりに合わせ、新たな区域の設定を検討する。

【蒲原地域】

蒲原地域は、**静岡市のなかでも住民等の文化財に対する関心が特に高く、それを積極的に活かそうとする動きがある地域**であるため、文化財保存活用区域に設定した。蒲原宿は、江戸時代には東海道15番目の宿場町として発展し、現在も街道の町並みが残っている。地区内には国登録有形文化財の志田家住宅など歴史的建造物が所在し、所有者や地域団体による活用が行われている。



蒲原地区のワークショップの様子



旧和泉屋(お休み処)

2-1-3 静岡市文化財保存活用地域計画 文化財の保存・活用の方向性

方向性Ⅰ

【知る】

(把握・調査)

市民等は、身近な文化財を調べてみるなどして、主体的に活動する。行政、専門機関は、文化財の持つ価値を、次世代に継承していくために、様々な機関による把握調査や詳細調査の継続を促す。

方向性Ⅱ

【守る】

(保存・修理)

指定等文化財は、今後も修理や整備を継続する。未指定文化財のうち、「静岡市の歴史文化の特徴」と関わるものは、指定等による保護措置を検討し、保存と活用につなげる。未指定文化財は、市民等が主体となった後世への継承が図られるよう、気運の醸成を図る。

方向性Ⅲ

【活かす】

(活用・情報発信)

文化財を通して人々がつながり、交流するまちづくりを実現するために、多様な分野が連携した、文化財の活用を目指す。

方向性Ⅳ

【皆で取り組む】

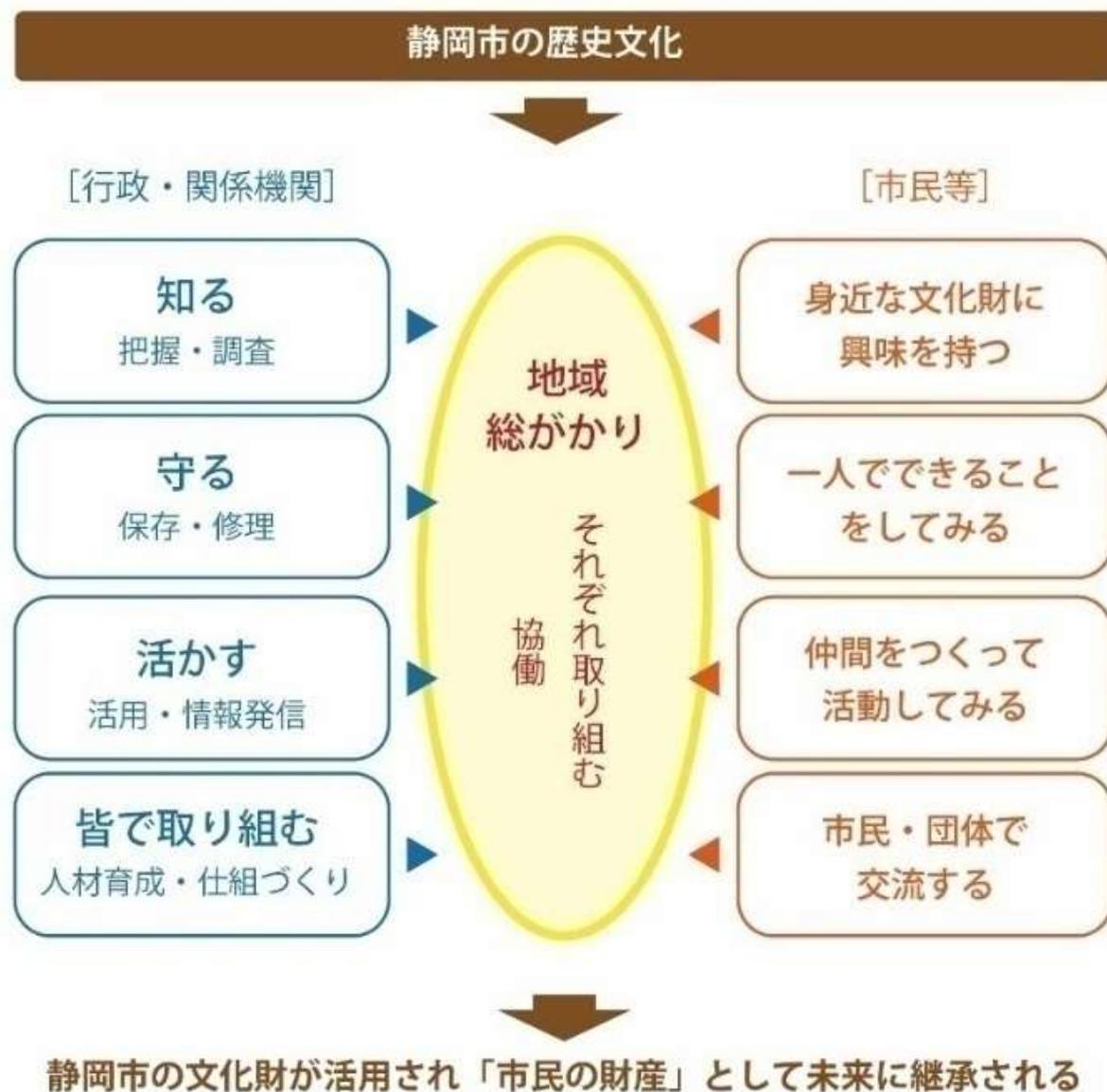
(人材育成・仕組づくり)

文化財を将来にわたって継承するとともに、効果的な活用を図るためには所有者や行政だけでなく、市民等の力が不可欠である。行政は、一連の調査で得られた知見を市民に還元するためにも、市民が、文化財を身近なものと感じ、理解を深める機会を提供する。

2-1-4 静岡市文化財保存活用地域計画 文化財の保存・活用の方向性と役割

これまで、文化財所有者や行政だけで取り組んできた「文化財の保存・活用」を、市民も身近な文化財に関わる形での取り組みへと進化させていく。

例えば、自分たちのまちに当たり前のよう存在している古い建物や路傍のお地蔵さんといった地域の文化財やその背景にある歴史文化に興味を持ち、それについて自分や仲間と一緒にできることから取り組んでいくことで、地域総がかりで静岡市の文化財が活用され、未来への継承につながるようにしていく。



2-2 駿府城公園の再整備

静岡市の文化財(歴史文化)のうち駿府城跡について、その主要部である駿府城公園を歴史を保存・活用した空間として再整備する。

1991年に駿府公園基本計画・基本設計を策定、2005年の再評価を経て、歴史遺産の保存・再整備を念頭に置きながら公園としての魅力を高める整備を実施してきた。計画策定から30年が経過したが、これからはさらに時代の動向を踏まえ、歴史ある駿府城の魅力を最大限に引き出し、その価値を活かして観光客をお迎えする。また、市民が日常的に楽しめる空間、イベントを開催しやすい空間にも配慮しながら、災害時の広域避難地としての役割も果たしていく。

駿府城跡天守台野外展示施設

天正時代・慶長時代の天守台を保全整備します！
異なる2つの時代の天守台を同じ場所で見られるのは全国でも珍しい事例です！

野外展示西側

天守台野外展示 管理・ガイダンス施設

野外展示への理解を深めるVRシアターのほか、展示室や管理施設を整備します。

訪れていただいた方が、歴史を楽しく体感し、歴史散策を楽しめるよう、デジタル技術を用いて高精細な天守のVR・AR映像を制作・活用します!!



本丸広場

以前より広く、快適な空間にするため、下記の整備を予定しています。

- ◎ 内堀の発掘土を沈床園に移し、芝生広場を整備
- ◎ 過密な植栽環境を改善し、利用者の安全を確保するため、支障木や枯損木を整理し、健全な樹木を育成
- ◎ 中央部の園路は現在の丸い形状を改め、家康公が築いた本丸堀(内堀)のラインを踏まえた直線的な形状とし、歴史的景観を再現

広場イメージ



広場イメージ



中央部 園路イメージ



現在の園路は、歴史を感じられない丸い形状...



城跡を意識した角ばった園路にし、広場の使い勝手が向上します！

紅葉山庭園茶室

茶室での料理提供が可能になるよう、調理場を整備しました！
日本建築の伝統美を感じる数寄屋造りの茶室を食事会や会議・研修などにご利用いただけます♪

BEFORE



24席のレイアウト
▼40席まで配置可能
AFTER



四季折々の景色の中で、特別なひと時を...

2-3 文化財関連施設(歴史文化課 所管施設)

施設名	登呂博物館	三保松原文化創造センター(みほしるべ)	駿府城公園内施設 (東御門・巽櫓、坤櫓、日本庭園及び茶室)	静岡市歴史博物館
施設概要 (設置目的)	登呂遺跡(国特別史跡)に関する知識の向上と文化の発展に寄与するため、実物、標本、模写、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の収集及び受託並びにこれらの展示及び保管を行う。	三保松原の文化的価値を高める関連文化の創造を図るとともに、三保松原を訪れる者に対し名勝及び世界遺産である三保松原の価値及び魅力の発信並びに観光情報の提供並びに松原の保全に係る普及啓発を図る。	駿府城エリア全体の活性化を目指して、駿府城公園内に設置した施設管理を行うとともに、歴史博物館等と連携を図り、活用事業を行う。	地域の歴史に関する資料の収集、展示を行うとともに、歴史に関する調査研究及び地域の歴史的価値の発信を行うことにより、教育、学術及び文化の発展並びに歴史を媒介とした交流の促進に資する。
供用開始	1972年4月 (2010年10月リニューアル)	2019年3月	巽櫓:1989年 東御門:1996年 紅葉山庭園:2001年 坤櫓:2014年	2023年1月
運営体制	直営	直営	指定管理者	指定管理者
運営予算 (R7年度予算)	15,603万円	3,511万円	9,001万円	37,974万円
写真・外観				

43 多文化共生・国際都市交流

- 00 基本認識
- 01 外国人住民数
- 02 留学生
- 03 姉妹都市をはじめとした海外都市交流

0-1 基本認識 多文化共生のまちの推進

- 「全ての人々が、互いの文化的な違いを尊重し、助け合い、学び合い、一人ひとりの個性を活かして、共に行動するまち」と目指すまちを定義した「静岡市多文化共生のまち推進条例」に基づき、「静岡市多文化共生推進計画」を策定し、計画的に関連施策を推進している。
- 出入国管理及び難民認定法の改正等を背景に、外国人住民の増加や国籍の多様化、留学生が住みやすいまちづくり等が課題となっている。
- 外国人、日本人双方の意識調査や静岡市多文化共生協議会の意見、静岡市多文化共生総合相談センターに寄せられた声などを参考にし、既存の取組の見直しや新規取組を実施する。



0-2 基本認識 地域外交の推進

- 「第2期静岡市地域外交基本方針」に基づき、姉妹都市等との継続的な交流や重点対象国や地域を定めた文化、スポーツ、教育、経済などをテーマにした海外の都市との交流に取り組んでいる。
- 持続的な交流人口の拡大や国際的な社会経済情勢に柔軟に対応していくことが課題となっている。
- 世界の成長や活力を積極的に取り込み、地域経済の活性化を図ることを目的に、交流人口の拡大、経済的価値を生み出すための新たな交流を展開していく。



第2期静岡市地域外交基本方針 2023-2030

静岡市 観光交流文化局 国際交流課

1-1 静岡市外国人住民数(各年3月末)

(2025年3月末現在)

- 2025年3月末時点の外国人住民数は14,716人
- 2015年と比較して6,758人、約1.8倍に増加
- 2025年3月末現在の住民基本台帳人口(日本人+外国人)670,258人のうち、約2.2%が外国籍
- とりわけ、2024年3月末からの1年間で1,792人増加。
主な内訳は、
留学(+863人)、特定技能(+273人)、技能実習(+290人)。
- 留学については、プロスペラ学院ビジネス専門学校(駿河区曲金)の学生数増(約800人)及び静岡日本語学院の移転(約200人)が大きな要因



[出典] 静岡市住民基本台帳(外国人)

1-2 【国籍別】 静岡市外国人住民数

- 84カ国、14,716人の外国人住民が暮らしている。
- 国籍別ではアジアの国々が上位を占めている。

2025年3月末現在 (単位:人)

列1	国籍	割合(%)	男	女	計
1	ネパール	17.2%	1,240	1,291	2,531
2	ベトナム	14.7%	1,144	1,201	2,165
3	中国	14.4%	839	1,283	2,122
4	フィリピン	10.4%	398	1,131	1,529
5	ミャンマー	8.7%	534	752	1,286
6	韓国	7.4%	550	541	1,091
7	インドネシア	6.9%	696	318	1,014
8	スリランカ	4.7%	430	262	692
9	ブラジル	3.9%	292	278	570
10	バングラデシュ	1.3%	153	44	197
	その他(74か国)	10.4%	844	675	1,519
	合計	100.0%	7,120	7,596	14,716

1-3 【在留資格別】 静岡市外国人住民数

- 「永住者」及び「留学」が多く、次いで「技術・人文知識・国際業務」、「技能実習」、「特定技能」の順になっている。

2025年3月末現在（単位:人）

	資格	割合(%)	男	女	計
1	永住者	21.8%	1,098	2,105	3,203
2	留学	20.2%	1,474	1,505	2,979
3	技能実習2号口	9.7%	802	630	1,432
4	技術・人文知識・国際業務	9.5%	961	437	1,398
5	特定技能1号	8.4%	600	636	1,236
6	特別永住者	6.2%	488	421	909
7	家族滞在	6.1%	306	591	897
8	技能実習1号口	4.0%	381	214	595
9	日本人の配偶者等	3.9%	205	373	578
10	定住者	3.7%	227	324	551
	その他	6.5%	578	360	938
	合計	100.0%	7,120	7,596	14,716

1-4 在留資格別人数の推移

- 2015年の時点では①永住者②留学③特別永住者の順に多かったのが、2025年では①永住者②留学③技能実習2号口の順になっており、特別永住者は減少している。(特別永住者…主に1945年以前から日本に居住していた朝鮮半島・台湾出身者及びその子孫)

各年3月末現在 (単位:人)

	資格	2015	2020	2025
1	永住者	2,402	2,797	3,203
2	留学	1,266	2,108	2,979
3	技術・人文知識・国際業務	312	835	1,398
4	技能実習2号口	289	916	1,432
5	特定技能1号(2019年4月創設)	—	1	1,236
6	特別永住者	1,252	1,081	909
7	家族滞在	424	633	897
8	技能実習1号口	267	754	595
9	日本人の配偶者等	688	610	578
10	定住者	477	531	551
	その他	581	802	938
	合 計	7,958	11,068	14,716

1-5 指定都市比較

● 他都市と比較して、突出した特徴はなく、いずれの割合も指定都市の中では中位から下位に位置する。

● 市人口に占める外国人住民の割合

● 外国人住民に占める在留資格「留学」の割合

● 市人口に占める在留資格「留学」の割合

上から15番目

上から11番目

上から12番目

No.	都市名	在留資格「留学」	外国人住民数	市人口	外国人住民に占める在留資格「留学」の割合	市人口に占める在留資格「留学」の割合	市人口に占める外国人住民の割合
1	大阪市	25,965人	169,392人	2,757,642人	15.3%	0.9%	6.1%
2	名古屋市	11,602人	92,758人	2,297,745人	12.5%	0.5%	4.0%
3	京都市	16,908人	55,434人	1,379,529人	30.5%	1.2%	4.0%
4	浜松市	1,035人	28,781人	788,985人	3.6%	0.1%	3.6%
5	神戸市	9,995人	54,428人	1,500,425人	18.4%	0.7%	3.6%
6	千葉市	3,308人	34,519人	978,899人	9.6%	0.3%	3.5%
7	川崎市	3,959人	50,794人	1,529,136人	7.8%	0.3%	3.3%
8	横浜市	7,805人	115,954人	3,752,969人	6.7%	0.2%	3.1%
9	福岡市	13,485人	44,651人	1,593,919人	30.2%	0.8%	2.8%
10	相模原市	1,691人	18,708人	717,861人	9.0%	0.2%	2.6%
11	さいたま市	2,671人	31,588人	1,345,012人	8.5%	0.2%	2.3%
12	堺市	1,564人	18,213人	817,041人	8.6%	0.2%	2.2%
13	岡山市	3,091人	15,505人	698,671人	19.9%	0.4%	2.2%
14	広島市	1,614人	21,646人	1,178,773人	7.5%	0.1%	1.8%
15	静岡市	1,594人	11,986人	677,736人	13.3%	0.2%	1.8%
16	北九州市	3,105人	15,965人	921,241人	19.4%	0.3%	1.7%
17	仙台市	5,550人	15,781人	1,066,362人	35.2%	0.5%	1.5%
18	熊本市	1,357人	9,064人	731,722人	15.0%	0.2%	1.2%
19	札幌市	3,447人	17,867人	1,956,928人	19.3%	0.2%	0.9%
20	新潟市	1,101人	6,253人	767,565人	17.6%	0.1%	0.8%

(2024年1月1日現在)

2-0 基本認識 留学生が一番住みたいまち静岡へ

○なぜ留学生を対象とするのか？

- ・2025年4月末時点で、静岡市には15,339人の外国人住民が住んでおり、そのうち約22.4%が「留学」の在留資格を有している。これは、「永住者」(20.8%)を上回り、「技術・人文知識・国際業務」、「技能実習」、「特定技能」などの外国人材(約31.4%)に次いで多くなっている。
- ・留学生が多い理由は、静岡市に教育機関が充実していることや、東京・名古屋といった大都市へのアクセスの良さが挙げられる。
- ・こうした背景をふまえ、静岡市は、今後も増加が見込まれる留学生が地域社会と良好な関係を築き、安心して生活できる環境づくりを通じて、外国人全体が暮らしやすいまちをつくっていくことが重要と認識。
- ・そのため、2024年5月に「日本一留学生が住みやすいまちプロジェクトチーム」を立ち上げ、具体的な支援策を進めている。

2-1-1 留学生が一番住みたいまち静岡へ

(キーワード) Diversity – Inclusion – Innovation(多様性と包摂が新しい価値を共創する)

自分と同質のものだけではなく異質なもの(多様性)を対話し、交流し、包摂することで、新結合が生まれ、新たな価値が共創される。

(日本一留学生が住みやすいまちプロジェクトチームの取組)

1 設置目的

- ・静岡市で学ぶ留学生に、卒業後も静岡市に住み続けてもらうために、転入から就職までを一元的にサポートする体制を構築する。

2 社会課題

【地域生活・コミュニティに関すること】

- ・留学生にとっての「住みやすさ」、「暮らしやすさ」と、地域社会とつながっていること、地域社会に受け入れられていることには関連が伺える。
- ・約3割の留学生は、日本で参加している活動が何もない。
- ・「多文化共生が重要であると思いますか。」との質問に対し、約2割(18.8%)の日本人住民が「どちらともいえない」と回答している。(静岡市多文化共生のまちづくりアンケート調査)

【交流・学習に関すること】

- ・地域コミュニティで日本人と交流したり、日本文化を学習したりする機会が限られている(情報が届いていない)。

【就職支援に関すること】

- ・外国人を受け入れる企業が一部に限られており、卒業後も静岡市に住み続けたいと考える留学生にとって、「市内企業への就職」がハードルとなっている。

2-1-2 留学生が一番住みたいまち静岡へ

3 課題解決の方向性

【地域生活・コミュニティに関すること】

- ・市内の大学への自治会・町内会パンフレット配架を通じて加入を促進する。
- ・地域における交流の機会を増やし、地域との関わり方がわからずに活動していない留学生を活動につなげていく。
このことにより、「静岡市は暮らしにくい」と感じる留学生の減少にもつながる。
- ・留学生を学校や地域へ派遣し、交流の促進と活躍の場の創出を図る。
- ・留学生の学校や地域への派遣を通じて、やさしい日本語を通じたコミュニケーションの機会を充実し、日本人住民が多様な文化や生活習慣への理解を深めるきっかけを作り、誰もが住みやすい多文化共生のまちづくりにつなげていく。
- ・来静直後の留学生が安心して生活を始められるように、行政窓口の更なる改善や生活オリエンテーション動画の製作に取り組む。
- ・留学生にとって住みやすいまちとは外国人全体にとって住みやすいまちと捉え、幅広い分野で多彩な支援を展開することにより、外国人に選ばれ、長く住み続けたいと思われる都市を目指す。

【交流・学習に関すること】

- ・既存の取組に係る情報を確実に届けるため、生涯学習施設の利用方法や活動内容について市内の大学に直接情報発信し、利用を促進する。

【就職支援に関すること】

- ・留学生と企業との交流を通じて、留学生が企業について学んだり、企業が留学生の受入環境について考える機会を増やす。

2-1-2 留学生が一番住みたいまち静岡へ

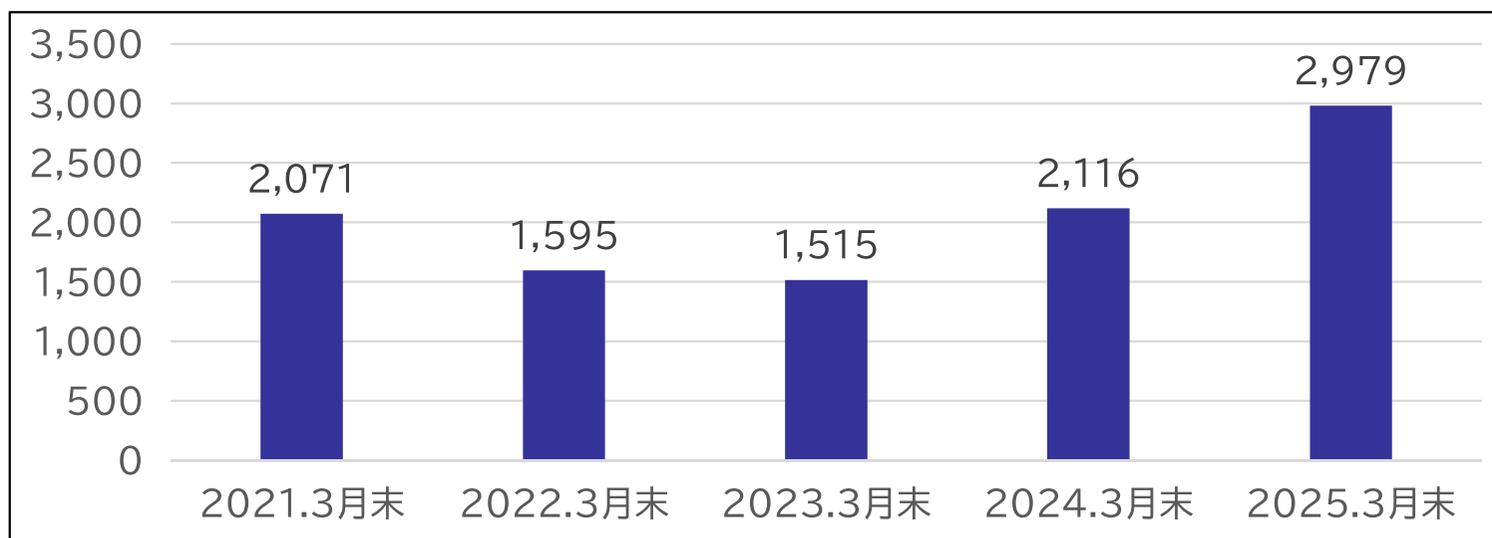
4 2025年度の実施(いつまでに何を)

- ・大学、専門学校、日本語学校等の教育機関及び留学生等を対象に聞き取り調査及びアンケート調査を行い、より詳細に留学生の実態を把握する。
- ・プロジェクトチーム参加メンバーの所属が連携した新たな取組を検討する。
- ・取組の成果を測る「留学生住みやすさ指標」について、既存の指標の見直しを行い、新たな項目を設けるとともに目標値を設定する。

2-2-1 静岡市における留学生受入れ状況

● 静岡市内の留学生数の推移

新型コロナウイルスの影響が大きかった2020年から2022年にかけて一時的に減少しているが、2023年以降は回復傾向にあり、2025年は2,979人と過去最高となっている。(高等教育機関における留学生の受入れについては、適切な入学者選考や十分な在籍管理の観点から各学校が決定しているため、目標管理はしていない。)



	葵区	駿河区	清水区	合計(人)
2025.3月末	238	1,921	820	2,979
2024.3月末	578	1,389	149	2,116
2023.3月末	449	937	129	1,515
2022.3月末	368	1,113	114	1,595
2021.3月末	572	1,398	101	2,071

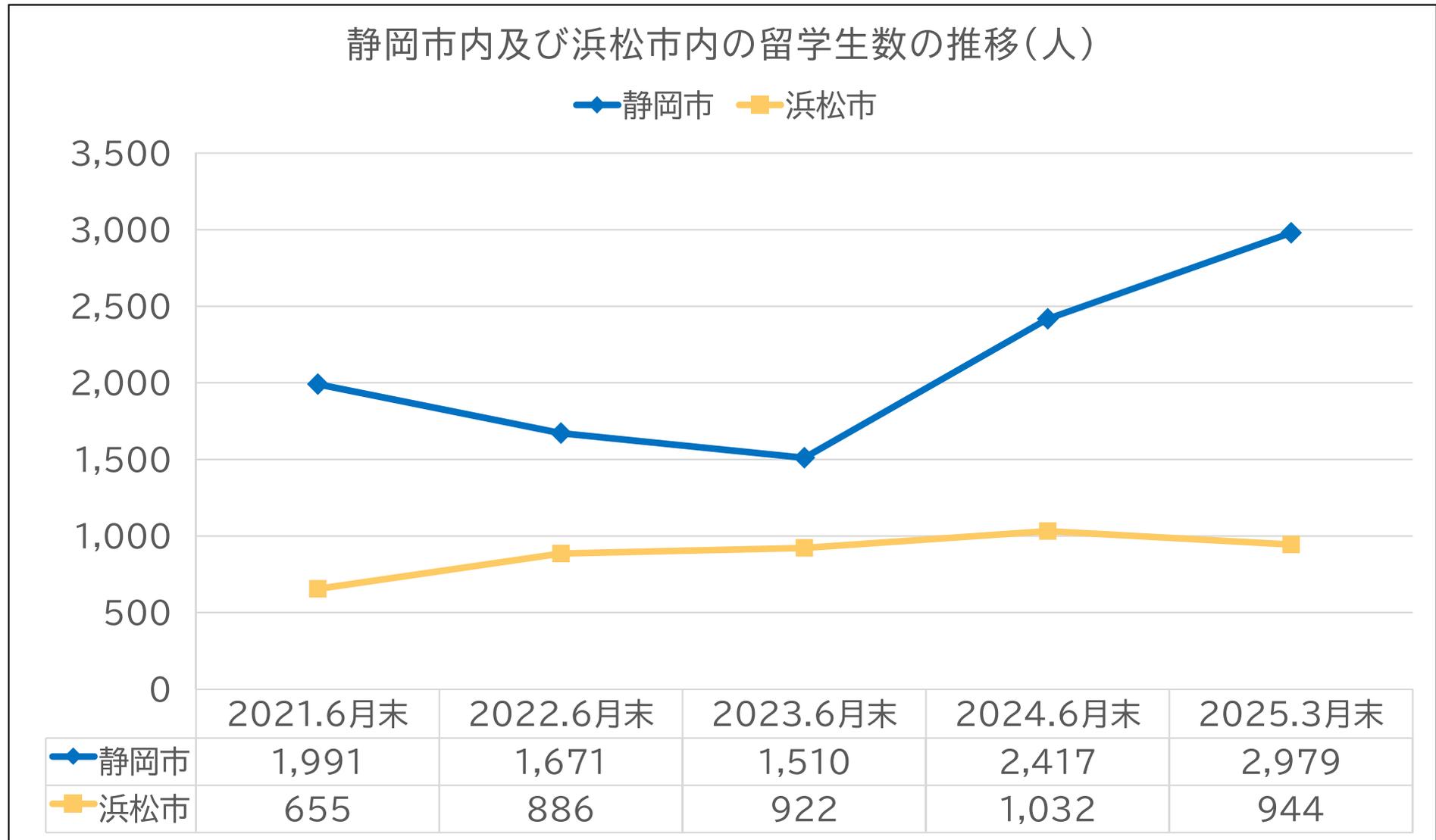
2-2-2 静岡市における留学生受入れ状況

● 静岡市内の学校等の留学生数(2024年5月1日時点)

1 大学・短期大学	静岡大学	418	人
	静岡県立大学	66	人
	常葉大学	2	人
	静岡英和学院大学	116	人
	静岡英和学院大学短期大学部	20	人
2 専門学校	プロスペラ学院	1,054	人
3 日本語学校	国際ことば学院日本語学校	194	人
	静岡インターナショナルスクール	100	人
	静岡日本語教育センター	122	人
	AFC国際学院	240	人
	駿府葵会日本語教育学苑	80	人
4 その他	その他学校、交換留学生等	53	人
全体		2,465	人

2-3 静岡市における留学生受入れ状況

● 浜松市との比較



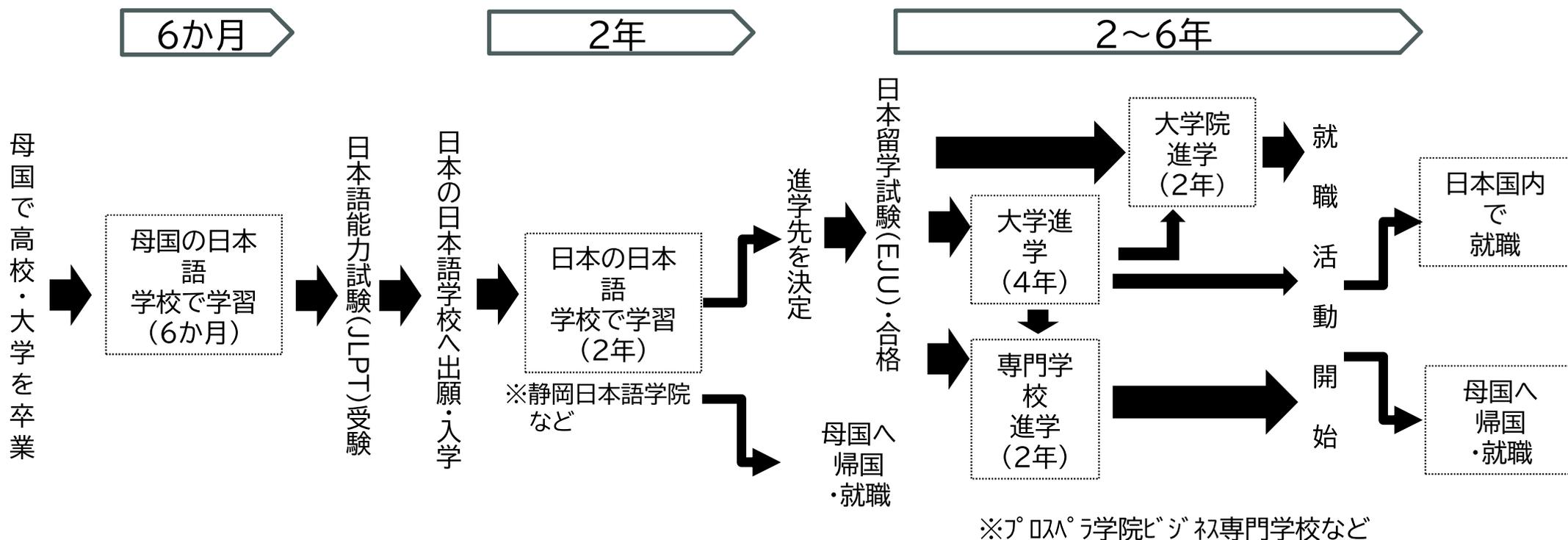
2-4-1 静岡市内の日本語学校・専門学校について

《日本語学校・専門学校の違い》

	日本語学校	専門学校
対象	日本語を母語としない外国人や 日本国籍の日本語初心者	高校卒業程度以上の学力を有し、 就業に必要な能力を取得したい者
目的 内容	日本での生活や仕事に必要な日本語を 取得することを目指す。 (上級クラスでは大学進学等を目指し専 門的なカリキュラムを扱う)	ある程度の語学力を有する学生を対象に、 実践的なカリキュラムで、 就職に必要な能力を取得することを目 指す。

2-4-2 静岡市内の日本語学校生・専門学校生の進路

留学生の進路フロー(時系列図)



JLPT: Japanese-Language Proficiency Test …国際交流基金・日本国際支援教育協会主催

EJU: Examination for Japanese University Admission for International Students …(独)日本学生支援機構主催

2-4-3 静岡市内の主な日本語学校・専門学校(静岡日本語学院)

≪具体的な入学条件やカリキュラム(各学校の公開資料による)≫

●静岡日本語学院(旧:沼津日本語学院)

学校法人静岡理工科大学が運営する日本語教育機関。2025年3月に沼津市から静岡市内に移転。

ア 出願資格

- ・12年以上の学校教育またはそれに準ずる課程を修了している者。
- ・学校教育を修了してから、5年以内の者。(5年以上経過をしている者は別途、検査が必要。)
- ・日本語能力試験N5レベル(※)または日本語を150時間以上学習した者。
- ・技能実習生の場合は、帰国後の年数等の必要条件を満たした者。

イ 卒業後の進路

- ・2023年度の進学率は100%、うち20%は静岡理工科大学グループ校に進学。
グループ校以外の主な進学先は下記のとおり。

新潟産業大学、上智大学、同志社大学、国際観光専門学校熱海校、国際ことば学院外国語専門学校、静岡立工科短期大学、プロスペラ学院ビジネス専門学校 など。

- ・N1に1名、N2に23名、N3に80名が合格。(※沼津日本語学院の2023年度実績)

※日本語能力試験のレベル:

N1～N5の5レベルで、N5が最も低いレベル。N5ではひらがな、カタカナ、漢字100字程度を覚える必要があり、小学1年生の国語のレベルに近いと言われる。

2-4-4 静岡市内の主な日本語学校・専門学校(プロスペラ学院)

プロスペラ学院国際ビジネス科国際ビジネスコース

学校法人神戸学院グループが運営する専門学校。

日本での就職を目指す留学生に対して、

経営学・PC・英語など幅広いビジネスの専門性を身に付けるための授業を開講。

履歴書作成や面接練習、ビジネスマナー等を学習する。

ア 出願資格(留学生枠)

- ・外国で12年間の学校養育を受けている者。
12年未満の過程の場合は指定された準備教育課程を修了していること。
- ・18歳に達していること。
- ・日本語教育機関で6か月以上の日本語教育を受けていること。
または個別の審査により出願を認められること。

イ 卒業後の進路

- ・卒業者に占める就職者の割合は88%(2023年学校公開資料による)。
- ・主な就職実績は下記のとおり。

株式会社ヤマザキ、株式会社マキヤ、株式会社エーツー 等

2-5-1 外国人住民の意識調査結果

- 「静岡市は暮らしやすいですか」との質問に、『暮らしやすい』（「とても暮らしやすい」+「まあまあ暮らしやすい」）と回答した留学生の割合は、2013年度は82.1%で2020年度は77.9%と、4.2ポイント減少している。

- 一方、『暮らしにくい』（「少し暮らしにくい」+「暮らしにくい」）と回答した留学生の割合は、2013年度は9.0%で、2020年度は7.4%と1.6ポイント減少している。

- 『暮らしにくい』と回答した理由については、
 - ①日本で参加している活動が少ないこと
 - ②地域コミュニティで日本人と交流したり、日本文化を学習したりする機会が少ないこと
 - ③外国人を受け入れる企業が一部に限られており、「市内企業への就職」がハードルとなっていることが関連していると考えられる。

2-5-2 静岡市に居住する外国人住民の意識調査結果

(単位:%)

回答	2013	2020	2020 (無回答を除いて 補正)
①とても暮らしやすい	29.7	31.7	33.7
②まあまあ暮らしやすい	52.4	41.6	44.2
①～②計	82.1	73.3	77.9
③どちらともいえない	9.0	13.9	14.7
④少し暮らしにくい	8.3	5.9	6.3
⑤暮らしにくい	0.7	1.0	1.1
④～⑤計	9.0	6.9	7.4
⑥無回答	0	5.9	0

[出典]静岡市外国人住民アンケート調査

2-5-3 日本人の意識調査結果

- 「あなたは、多文化共生が重要であると思いますか。」との質問に「多文化共生が重要・どちらかといえば重要」と回答した静岡市の日本人住民は75.3%である。一方、「どちらともいえない」「どちらかといえば重要ではない」「重要ではない」と回答した住民も24.4%いる。

(出典:2021年度静岡市多文化共生のまちづくりアンケート調査)

(単位:%)

重要である	35.8
どちらかといえば重要	39.6
どちらともいえない	18.8
どちらかといえば重要でない	3.5
重要ではない	2.1
無回答	0.3

2-6 留学生支援の取組(留学生への市営住宅の提供)

《背景・目的》

留学生は、民間賃貸住宅の所有者が抱える入居後の諸問題への不安から、民間賃貸住宅を借りることが困難となっている。このため、留学生の居住確保の課題への対応の1つとして、市営住宅の空き室の改修を実施し、留学生向けの住居として賃貸することで、留学生の受入と定着を推進する。

《対策》

(団地概要)

団地名: 有東団地(駿河区有明町)

備考: 全21棟のうち、4棟の一部の部屋を提供

(改修内容)

内装 : 床、壁、天井、襖の張替え 等

水回り: キッチン・トイレ・浴槽・給湯設備等の更新

提供開始年月	室数	間取り	入居者数	提供先
2024年3月	1室	3DK	2人	静岡大学
2025年3月	6室	2DK	12人	静岡理工科大学グループ 静岡日本語学院
	4室	3DK	12人	

※提供先の大学は、静岡市と包括連携協定を締結した大学等

静岡日本語学院は、2DK(40㎡)を2人、3DK(55㎡)を3人で使用

入居する留学生は、ネパール、ミャンマー、スリランカ、ベトナムなどの東南アジア国籍が中心

《取組の効果》

団地住民からは、「入居した留学生が自治会活動に参加してくれて助かっている」という声を聞いており、入居者同士のコミュニティの維持向上が図られている。



改修後(キッチン)



改修後(和室)



留学生と団地自治会・入居者の顔合わせ
(2025年4月)

2-7 静岡市内の日本語学校生・専門学校生によるアルバイト

《アルバイトについて(各学校への聞き取りによる)》

(1) 静岡日本語学院

2025年5月15日(木)に学校主催でアルバイト合同マッチング会を実施。

(2) プロスペラ学院

学校が独自に企業との関係を築いており、市内の工場等に学生を紹介している。

(3) その他の市内日本語学校

基本的に学校がアルバイト先の紹介はしておらず、生徒が自分で見つけている。

(先輩からの紹介、アルバイト情報サイトからの申し込み等。)

アルバイト先はコンビニ、飲食店、工場等。

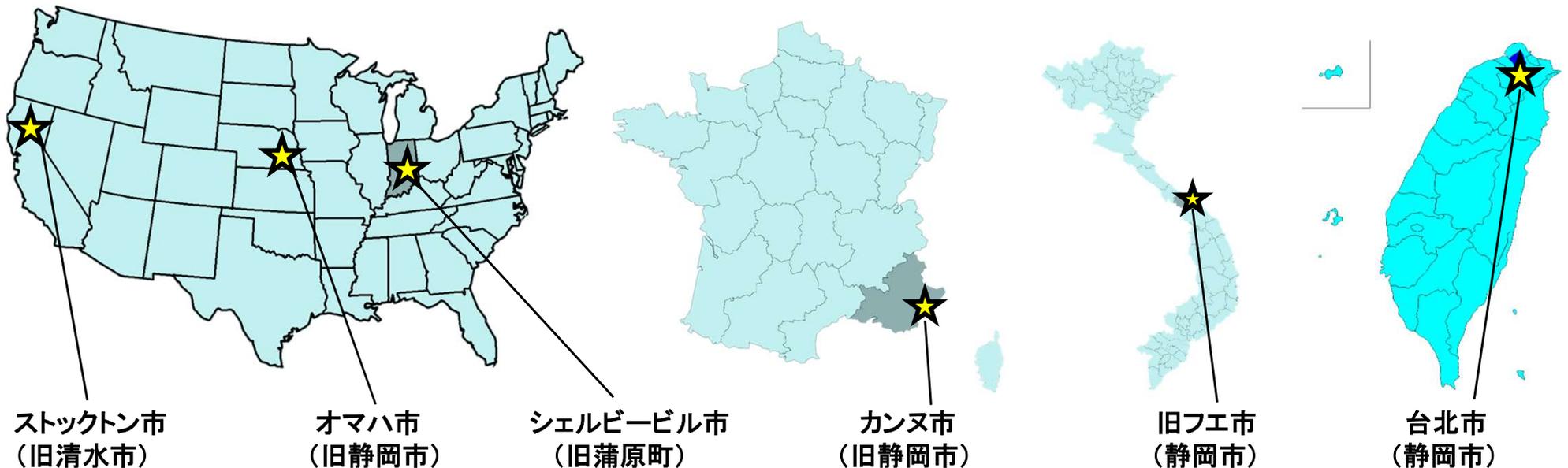
3-1 姉妹都市等との海外都市交流

1 静岡市の姉妹都市・友好都市等(提携順)

	提携年と関係性	人口
(1) ストックトン市(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)	1959年(旧清水市 姉妹都市)	32万人(2023年)
(2) オマハ市(アメリカ合衆国、ネブラスカ州)	1965年(旧静岡市 姉妹都市)	48万人(2023年)
(3) シェルビービル市(アメリカ合衆国、インディアナ州)	1989年(旧蒲原町 姉妹都市)	2万人(2023年)
(4) カンヌ市(フランス共和国)	1991年(旧静岡市 姉妹都市)	8万人(2022年)
(5) 旧フエ市(ベトナム社会主義共和国)	2005年(静岡市 友好都市)	50万人(2025年)

※2025年1月にトゥアティエン・フエ省が中央直轄市として新フエ市となり、旧フエ市はトゥアン・ホア区とフー・スアン区に改編された

(6) 台北市(台湾)※都市間連携の覚書に基づく交流	2023年(静岡市 覚書交流)	251万人(2024年)
----------------------------	-----------------	--------------



3-2-1 これまで(2024年3月まで)の姉妹都市等との海外都市交流

これまでの「静岡市の重点的な交流都市の考え方」(~2023年度)

- (1) 合併前の時代に姉妹都市提携を締結した都市や、友好都市提携を締結した都市を中心に海外都市交流を実施していた。
- (2) 姉妹都市との交流内容は、青少年や教職員の相互派遣、親善使節団の相互派遣などが主で、国際感覚を持った人材の育成や、相互理解と信頼関係の醸成が主な目的だった。

3-2-2 これからの姉妹都市等との海外都市交流

1 新しい「静岡市の重点的な交流都市の考え方」(2024年度～)

- (1)都市間交流を契機としたプロモーション活動による、来訪者のさらなる増加や、経済交流の推進による静岡市経済の活性化。
- (2)世界的に知名度が高い都市との交流や、技術協力による社会貢献を通じた交流により、静岡市の国際的な知名度の向上をもたらし、静岡市のインバウンド需要を向上。
- (3)教育・文化・スポーツを活かした交流により、国際感覚を持った人材の育成や静岡市のスポーツレベルの向上、相互理解と信頼関係の醸成。
- (4)姉妹都市、友好都市とこれまでの交流で培ってきた友好関係、信頼関係を基に、新たな経済的価値を生み出す交流。

これらの考え方を踏まえ、フランス、台湾、韓国、タイ、ベトナム、オーストラリア、アメリカの各国・地域を交流強化の重点対象国・地域として定め、経済的な価値を生み出す交流を念頭に、積極的な交流をすすめていく。

また、これらの国と地域以外でも、交流により経済効果が見込まれる国や地域の都市を研究していく。

3-2-3 これからの姉妹都市等との海外都市交流

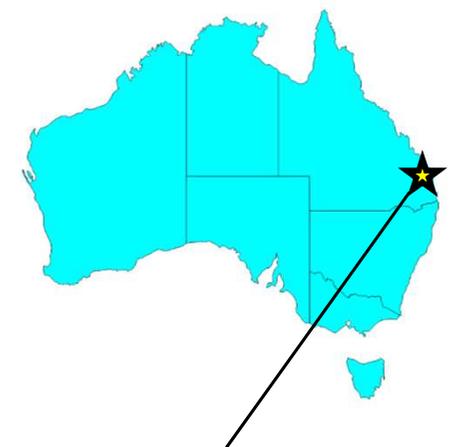
2 新しい都市交流の取組

(1) 脱炭素社会の実現を目指した都市間連携(フエ市)

- ・脱炭素分野に高い関心を持つ友好都市フエ市の脱炭素化について、静岡市とフエ市、民間企業が協働する取組。
- ・行政間では脱炭素に係る課題やノウハウの共有を行う。企業等は、国の「二国間クレジット制度資金支援事業(設備補助事業)」を活用した現地での脱炭素技術や設備の導入・事業化に向けて可能性調査を実施。
- ・市内企業等の海外進出や友好都市との関係強化により、経済・社会・環境の三側面の好循環を目指す。

(2) 経済活性化のための新たな交流相手先の研究(モートン・ベイ市)

- ・静岡市の経済の活性化を図るための新たな都市間交流の相手先を模索していたところ、2024年10月にモートン・ベイ市長らが来静した際に、モートン・ベイ市側から大学間の連携、企業間の経済的交流、BX、観光、スポーツ分野での交流、ドローンの共同研究などの交流のアイデアを示された。静岡市とモートン・ベイ市の都市間交流の可能性を探るため、今後現地視察を行う予定。



モートン・ベイ市

3-3 日仏自治体交流会議

日仏自治体交流会議

- ・2008年の初開催以来、日仏両国で2年毎に交互に開催されている日仏自治体交流会議の第8回会議を、2024年11月に静岡市で開催した。
- ・仏側自治体19団体、日本側自治体35自治体、過去最多となる合計54自治体が一堂に会し、「日仏自治体のパートナーシップが世界にもたらす新しい価値」をテーマとして活発な議論が交わされた。
- ・議論の結果は「静岡宣言」として採択され、両国の自治体代表者とこれからの持続可能な地域経営について認識を共有した。
- ・2026年には、第9回会議が静岡市の姉妹都市であるカンヌ市で開催される予定。

(参考)歴代開催都市

第1回	2008年	フランス	ナンシー市	第6回	2018年	熊本県	熊本市
第2回	2010年	石川県	金沢市		2020年	(コロナ禍により延期)	
第3回	2012年	フランス	シャルトル市	第7回	2022年	フランス	エクサンプロヴァンス市
第4回	2014年	香川県	高松市	第8回	2024年	静岡県	静岡市
第5回	2016年	フランス	トゥール市	第9回	2026年	フランス	カンヌ市(予定)

3-4 世界銀行グループとの開発途上国支援における連携(洪水対策等)

- ・静岡市は、長年取り組んできた巴川の流域治水対策の経験・知見を、2024年5月インドネシア・バリで開催された「世界水フォーラム」で紹介した。
- ・世界銀行グループは、この取組を、予算規模が限られた開発途上国の都市開発に役立つモデルとして高く評価している。
- ・2025年6月に、世界銀行東京ラーニングセンターから静岡市に、都市連携プログラム※への連携の依頼があり、静岡市が同プログラムの連携都市となることに合意した。
- ・連携分野は「洪水対策」「その他まちづくり分野」
- ・2026年に、ワークショップへの参加や静岡市の洪水対策の現地視察を予定

※都市連携プログラムとは

- ・世界銀行東京開発ラーニングセンターが、開発途上国の都市開発に有用な経験や知識を有する日本の都市と連携し、その知識や事例を開発途上国の参加者たちに提供するプログラム
- ・2025年5月末時点で、福岡市・広島市・北九州市・神戸市・京都市・富山市・横浜市の7都市と連携。
静岡市は8番目の都市として連携

44. インターナショナルスクール

00 基本認識

01 誘致に向けた取組

0-1 基本認識

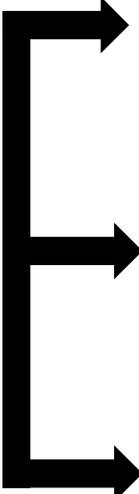
インターナショナルスクールとは・・・インターナショナルスクールに関して法令上特段の規定はない。

【文部科学省ホームページ】

「一般的には、主に英語により授業が行われ、外国人児童生徒を対象とする教育施設であると捉えられています。※」とある。

※出典:文部科学省HP「11.学齢児童生徒をいわゆるインターナショナルスクールに通わせた場合の就学義務について」
”https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shugaku/detail/1422252.htm”

【インターナショナルスクールの学校教育法上の分類】

- 
- 一条校（学校教育法第1条、対象:小学校、中学校、高等学校、大学及び幼稚園など）
学校教育法で規定された就学義務の履行となる教育施設
 - 各種学校（学校教育法第134条、対象:自動車整備、調理・栄養、看護師などの教育施設）
就学義務の履行とならないが、国の学習指導要領に拠る必要のない教育施設
 - 無認可校（上記の何れにも当てはまらない教育を行う施設）

0-2 基本認識

首都圏のみならず、地方でも様々なタイプのインターナショナルスクールが開校

【一条校】

UWC ISAK JAPAN
ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン
開 校:2014年8月
場 所:長野県北佐久郡軽井沢町
(敷地面積 約2.4万㎡)
対 象:高校1年生から高校3年生まで
(定員約120名)
特 色:○全寮制
○国際バカロレアディプロマ・プログラム

【各種学校】

Harrow International School Appi Japan
ハロウインターナショナルスクール安比ジャパン
開 校:2022年8月
場 所:岩手県八幡平市安比高原(敷地面積 約9万㎡)
対 象:小学6年生から高校3年生まで(定員約920名)
特 色:○全寮制
○英国式カリキュラムをベースとする

【一条校】

Jinseki International School
神石インターナショナルスクール
開 校:2020年4月
場 所:広島県神石郡神石高原町
(敷地面積 約83万㎡)
対 象:小学1年から6年生まで
(定員約144名)
特 色:○全寮制
○自然豊かな環境を活かした食育や
ファームプログラムなどを提供

【各種学校】

Rugby School Japan
ラグビースクールジャパン
開 校:2023年9月
場 所:千葉県柏市柏の葉
(敷地面積 約5万㎡)
対 象:小学6年生から高校3年生まで
(定員約780名)
特 色:○寮及び通学制
○英国式カリキュラムをベースとする

【各種学校】

**九州ルーテル学院インターナショナルスクール
小学部**
開 校:2024年4月
場 所:熊本市中央区黒髪(敷地面積 不明)
対 象:小学1年から6年生まで(定員約120名)
特 色:○通学制
○九州ルーテル学院大学等を設置する
学校法人九州ルーテル学院が運営

1-1 誘致に向けた取組

《背景・目的》

静岡市にインターナショナルスクールが開設されることにより、市内外の子どもたちにとって学びの選択肢が広がるとともに、国際的な教育環境の整備が図られる。また、企業活動のさらなる発展や研究拠点の形成に向けては、専門的な知識や技術を有する高度外国人材の受け入れが重要であり、その獲得に当たっては、家族への配慮、とりわけ子どもの教育環境の整備が求められる。さらに、スクール運営事業者や教職員、家族等の来訪・定住に伴う消費活動により、地域経済の活性化につながることを期待される。

《取組》

2024年3月に、しずおかフィナンシャルグループの中西会長を座長とする「インターナショナルスクール誘致推進協議会」を、静岡市と静岡商工会議所の連携により立ち上げた。

- ➡静岡市でのインターナショナルスクール開設や運営に関心をもつ企業に聞き取り調査を行ったところ、参入意欲を示す企業が複数確認された。
- ➡静岡市と静岡商工会議所のそれぞれに、様々な相談に対応する「支援チーム」を組織し、窓口を設置した。

《取組の効果》

参入意欲のある企業から、「事業用地の確保」の相談を受け、対応している。

1-2 誘致に向けた取組

【インターナショナルスクール誘致に向けた候補地の選定】

・静岡商工会議所と連携し設置した相談窓口にて、2024年9月、ある事業者から、市内でのインターナショナルスクール開設の提案があった。具体的には、インターナショナルスクールの開設意向の表明と、静岡県が所有する「果樹研究センター跡地(清水区駒越西)」(以下「果樹研跡地」)を最適用地とし、その確保に向けた支援の要請である。

・提案の内容を検討した結果、市としても果樹研跡地はインターナショナルスクールの適地であると判断し、土地の確保に向け土地の所有者である静岡県との協議を開始した。



全景写真 ©Google



対象地位置図 ©Google

【候補地(果樹研跡地)の概要】(静岡県公表資料より)
所在地: 静岡市清水区駒越西2丁目12番10号 146

1-3 誘致に向けた取組

【想定されるインターナショナルスクールの概要】

- ・果樹研究跡地が位置する清水区は、海洋分野の研究開発や次世代産業の発展が見込まれており、インターナショナルスクールが開設されることは、高度外国人材を惹きつける要素の一つとなる。
- ・果樹研跡地の広大な敷地と、富士山と駿河湾の景観、豊かな自然を生かし、市内・県内のみならず、県外・海外からの入学を誘引する世界最高水準の国際教育を提供するインターナショナルスクールの開校を想定している。
- ・インターナショナルスクールの開校時期は、事業者の判断となるが、現段階では、2028年9月の開校を想定している。